

『現代世界思想史序説 中』

倉田 稔

はじめに

本作は、拙書『現代世界思想史序説 上』（丘書房 1996年）に直接続くものである。それは、20世紀前半論であった。

本作の初出は、「『現代世界思想史序説 上』への追加、そして戦後日本社会と思想（1）」（『商学討究』50の4）、「『現代世界思想史序説 上』への補い（2）、外国の部」（『商学討究』51の4）である。

丘書房がなくなったので、ホームページに出すことにした。

もくじ

外 国

第1次大戦 第1次大戦の結果 第1次大戦とアメリカ 第1次大戦とイギリス
ジョン・リードと『世界をゆるがした一〇日間』 休戦
パリ平和会議とヴェルサイユ条約 ロマノフ家の最後 エイゼンシュタイン
ロシア革命後 アントニオ・グラムシ 資本主義の相対的安定期
ロランド・ホルスト・ファンデア・スカーク 世界大恐慌 F・D・ルーズヴェルト
トムソリーニ ファシズム ナチズム ナチズムについての本 アンネ・フランク
原爆・核兵器 原爆第1・2号 トルーマン ニュルンベルグ裁判
ロバート・オッペンハイマー 国際情勢 水爆 アフリカ独立 金日成 朝鮮戦争
南米 ポプリスモ ペロニスモ ファン・ドミンゴ・ペロン エビータ アメリカ
の映画 文化人類学 ライト・ミルズ トインビーと『歴史の研究』
アインシュタイン ソ連 スターリン論文と彼の死 人工衛星 東欧
ユーゴスラヴィア ハンガリー ノーメンクラトラー アメリカの世界政治
ソ連ももつ、軍拡競争 スターリン批判フルシチョフの失脚 核実験・原発
ロストウ『経済成長の初段階』 アメリカの政治 フーヴァー 国人問題
レイチェル・カーソン『沈黙の春』 アルジェリア戦争 南ア
アジアで アウンサン ベトナム ベトナム戦争
文化・芸術 性と戦争 フロム バーナム『経営者革命』 サンテクジュペリ
モディリアアーニ サルトル ボーボアール『第2の性』 ピカソ 中国 長征 南
米キューバ カストロ ゲバラ ドイツチャー 米ソ ビートルズ
シンデレラ・コンプレックス 資本論100年 ペレストロイカ

日 本

パール・ハーバー 太平洋戦争 日本の第2次大戦 鶴あきら アメリカの占領と

戦後政策 憲法 日本の民主主義 戦後の思潮 原水爆禁止運動

「私は回になりたい」 太宰治 ベネディクト『聞くと刀』 極東軍事裁判

戦後日本思想 謀略時券 20世紀の技術

20世紀の大事件結論的考察

年表人物

文献追加・訂正

外国

20世紀が始まる直前に、世界は近代帝国主義または古典的帝国主義の時代に入っていた。経済的に、19世紀がイギリスの世紀であるとするれば、20世紀はアメリカの世紀として始まった。

第1次大戦

はじめドイツ軍 100 万人がフランスを攻撃した。彼らは、徒歩と馬で行軍し、皮を布で覆った帽子を被っていた。当時の戦争は、大砲で撃ち、騎兵と歩兵が突入するというものだった。だが機関銃が登場した。ヴィッカーズ社やホチキス社の作ったものだった。これでざん {暫の、日でなく、土} 壕戦が始まった。チャプリンは、映画『塹壕』を作った。塹壕が 700 キロも掘られ、北海まで届いた。兵士には、一種の凍傷と水虫の、塹壕足が登場した。(5)大砲の恐怖で神経症が発生した。

ロシアは、開戦1カ月で武器が底をついた。工業力が弱かったのであった。戦争は、長期戦となり、この年、夏服で冬を戦った。砲弾による神経症が発生した。化学兵器、つまりガス兵器が開発され、ガス弾が使われた。1915年7月21日、ドイツが初めて 120 トンの塩素ガスを戦場で使った。

各国数名のカメラマンがそれぞれの戦場で、撮影を許された。しかしフランスでは、母親が涙を流すようなことを撮影するのは禁止で、死体撮影は死刑だった。

ベトナムから 15 万人がフランス軍へきた。英軍の 25 %が外国＝イギリス植民地の人であった。フランスは中国人を雇った。中国人 10 万人以上が、ヨーロッパへ来た。ヨーロッパ全体で、植民地から 300 万人以上が来た。ガンジーは、インドで志願兵をよびかけ、イギリスに協力するのが得策だと、当時は考えていた。

通信は、伝書バトから無線へ移った。飛行機が登場したが、はじめは木製で、布張りであり、初めは手で爆弾を落とした。

塹壕戦を制したのは戦車であり、イギリスは初めて、戦車マーク2を作った。これを農業用トラクターから作った。ドイツはA7Vであり、米はフォード3トン戦車、仏はスナイダーであった。戦車は、塹壕と有刺鉄線を踏み潰した。

アラブ人は、ファイサル1世とともに戦った。アラビアのロレンスが、50人のアラブ人親衛隊をもって、トルコ軍を攻撃する任務を持っていた。ロレンスの役割はこれにつきた。

ドイツは、ユトランド沖海戦で負けて、海上支配ができなくなり、封鎖された。

それを回復するため、Uボート（潜水艦）で攻撃をした。アメリカは、英仏への貸付金が戻らないとまずいので、参戦した。この時、チャプリンは、映画『公債』を作って、アメリカ人に戦時公債を買うよう説いた。

ロシアの赤い革命について、エイゼンシュテインが映画『十月』を作った。ロシアが休戦したので、ドイツは東部戦線から西部戦線へ兵を移動して総攻撃をすることができた。

（以上、テイラーの『第1次大戦』（新評論）でも述べられていない部分を記した。）

第1次大戦の結果

第1次大戦の結果、2千万人の死者が出た。（1）資本主義社会の安定的発展が疑われ、人間の理性に不信が寄せられ、進歩の思想が信じられなくなった。これらの思想が打ち砕かれた。資本主義が世界戦争を行ない、各国民が塗炭の苦しみに会ったことで、人々はショックを受けた。シュペングラーは『西欧の没落』で、ヨーロッパとその文化が滅びた、と論じた。

戦後に、ウィルソンはアメリカ大統領選挙で負けてしまい、世界政治から退場した。列強がウィルソンの立てた梯子で2階に上ったら、梯子がはずがれてしまったというわけである。気が付いた時、アメリカ、ドイツ、ソ連が国際連盟に入っていなかった。

この戦争（WW1）は、重工業・大銀行による、おくれた植民地競争の実施であった。ドイツは、トルコを狙い、ベルリン・ビザンツ・バグダッドの線を確認しようとした。これで1890年、ロシアをフランスに追いやった。

第1次大戦後、レマルクの小説「西部戦線異常なし」が出た。大戦中に起きたロシア革命で、民族独立の影響が出た。当面、東ヨーロッパで実現することになる。イスラエルは、イギリスによって第1次大戦後に建国することを認められた。

（1）『戦争に反対する戦争』を見よ。傷い軍人らの悲惨な姿がある。

第1次大戦とアメリカ

アメリカは独特の発展をした。まず、ヨーロッパ諸国と違って、概して古典的な帝国主義の形をとらなかった。アメリカ合衆国は国内で大いに発展する余地があり、他国を植民地にする必要がまだなかった。だが他国を金融的・経済的に支配した。第1次大戦で戦場にならなかったアメリカは、焼け太った。兵器輸出と借款で豊かになったのである。そして軍事産業が経済生活にしっかり組み込まれた。

アメリカでは大戦の時、大統領ウィルソン（1858-1924）（民主党）は中立政策を掲げた。だが財閥モルガンはアメリカも参戦せよとウィルソンを批判し、兵器産業を総動員してヨーロッパへ武器を送り込んだ。大量の資本も貸し付けられた。アメリカ

は第1次大戦で焼け太ったのである。兵器メーカーはデュポンであった。全米に兵器工場が建てられた。こうしてアメリカ経済には軍需産業が組み込まれ、その性格は現在まで続いている。その後アメリカは1918年4月に参戦した。

第1次大戦とイギリス

イギリスでは国王は、ジョージ5世で、首相はアスクイス（自由党）で、1908年から1916年12月5日まで在任した。陸相はキッチナーで、1914年から16年6月5日まで在任し、ミルナーに交替した。チャーチルが陸相で、その後軍需相になった。バルフォアが海相（1915-16）で、その後外相になった。フレンチが遠征軍最高司令官で、15年にヘイグに代わった。

ロイド＝ジョージは1915年まで蔵相で、その後15年から軍需相、その後陸相、1916年12月から首相となった。

イギリスはWW1で、バクー油田をにぎる。

ジョン・リードと『世界をゆるがした十日間』

革命の前年からロシアにいたアメリカのすぐれたジャーナリスト、ジョン・リード(Reed, 1887-1920)は、2月革命とボルシェヴィキ革命を革命の中心地ペトログラードで目のあたりに見た。そして『世界をゆるがした十日間』1919年（訳：岩波文庫）を一気に書いた。彼はロシア革命の現場証人となった。

ジョン・リードは、オレゴン州ポートランドに生まれ、裕福、病弱だった。ハーバード大学へ入り、1910年に卒業した後、欧州へ旅行した。編集員になり、1912年に詩集 Sanger. 長編詩 The Day in Bohemia を書いた。アメリカの革新主義の時代、社会主義の黄金時代だった。彼も社会主義者になる。

1914年、パターソン市の労働者大ストライキで活躍し、逮捕された。留置所での拷問を、作品で暴露し、野外劇で催した。1913年から14年、メキシコ革命が起き、メキシコ革命に通信員・従軍記者として行った。作品『反乱するメキシコ』1914、でジャーナリストとして地位を得、有名になった。

1914年にヨーロッパへ、特派員として行き、失望して帰国した。1916年8月にロシアへ出発し、ボルシェヴィキ革命を革命の中心地ペトログラードで目のあたりに見た。彼はボルシェヴィキの立場にたって取材した。1919年に、『世界をゆるがした十日間』(Ten Days that shook the World)を一気に書いた。

彼は、アメリカ社会党に属し、1919年8月に除名され、共産労働党を作った。1920年には再び訪ソし、潜入した。そしてアメリカ代表コミンテルン執行委員になった。その第2回大会へ出席した。バクーの大会へ出席し、ソ連指導部に幻滅した。旅行中食べたりんごで腸チフスに感染し、10月17日、モスクワの病院で急死した。遺体は、クレムリン・赤の広場に眠っている。アメリカ・プロレタリア文学の草分けである。(2)

彼はエンマ・ゴールドマンやユージン・オニールと友人であった。IWWを支持した。反戦だったから、ウイルソンが1916年に反戦で立候補したので彼を支持した、その後、ウイルソンはしかし参戦に代わる。

ロシア革命後、米国社会党から共産党が分離した。その後リードは社会党を追い出される。そこで独自に共産党を結成し、コミンテルンへゆく。コミンテルンは合同を命ずる。だが彼は帰れない。

(2) 平林訳『革命の娘』新潮社 1931。 参] 映画『レッヅ』、ウォーレン・ビーティ制作。

休戦

1918年なかばアメリカが兵力を戦線に送った。それまで同盟国が少し有利だったが、食糧に悩み始めた。

人類が実現したことのない思想・体制がロシアで実現された。搾取・戦争のない社会を望むレーニン主義の体制とイデオロギーが勝利した。この時代から世界は現代に入る。各国政府はそこで、労農政府の存在をどうしても考えに入れねばならなくなった。ボルシェヴィズムは諸国民・民衆へ大きな影響力を持った。平和を宣言した労農政権の存在によって、各国政府は平和を求めねばならなくなった。人民がボルシェヴィキ思想に染まってはならないからである。そこで各国は休戦条件を考え始めた。

1918年1月に、ロイド・ジョージは議会で演説した。アメリカ大統領ウィルソンは、同月に議会に教書を送った。14カ条の休戦提案である。その骨子は、民族自決権にもとづく国家建設であった。「ドイツ撤退、ハプスブルク維持、国内民族に自治、ロシアからの撤兵、国際連盟」が内容であった。これはロシア革命に対抗したものである。大変奇妙なことに、このアメリカの休戦条件が力を持った。アメリカは大戦が終りそうな時に参戦しただけであったのに、である。

パリ平和会議とヴェルサイユ条約

資本主義世界ではウィルソンの思想が支配的になった。つまり民族自決主義である。ウィルソンの提案で国際連盟も作られた。大戦後、多くの国、例えば英・米・独で、婦人選挙権が与えられた。第1次大戦によって、ヨーロッパは没落した。アメリカとソヴィエト・ロシアが台頭した。

1919年1月に戦勝国の会議が始まった。米・英・仏・伊・日の会議であり、実際は米・英・仏だけの会議であった。会議では、フランスの報復主義を押えられずに、ドイツに賠償を課すことになった。

勝利した協商国とドイツとの間でヴェルサイユ条約が1919年6月28日に締結された。ドイツでは社会民主党と中央党が政権にあったので、彼らがこれに署名した。これは、領土放棄と過酷な賠償を含むものであって、ドイツ人民をひどく失望させた。(3)

ロマノフ家の最後

ニコライ 2 世（在位 1894-1917、生没年 1868-1918）は、アレクサンドル 3 世の長子で、ロマノフ家最後の皇帝となった。1613 年にミハイル・ロマノフが帝位について、ロマノフ朝が成立して以来、ほぼ 300 年にわたってロマノフ家がロシアで帝位についていた。そこでニコライ 2 世の治世中、300 年記念が行なわれた。ニコライ 2 世は 1891 年、皇太子時代に日本を来訪し、巡查・津田三蔵に切りつけられ負傷した（大津事件）ことがある。彼はその後皇帝になり、専制政治を望んだ。ニコライは意志薄弱で、皇后アレクサンドラに左右され、晩年には政治にも無関心になった。第一次大戦では、自ら最高司令官になった。そして内政は皇后とラスプーチンにまかせた。ニコライ 2 世の妃アレクサンドラは、ドイツ出身で、ヘッセン大公女だった。この時代、ラスプーチンが権勢をほしいままにした。ラスプーチン（1872-1916）は、トボリスク県の農民出身で、各地の修道院を遍歴後、貴族と知り合い、帝室に近づいた。彼は、皇太子アレクセイの不治の病（血友病）を治癒して、皇帝と皇后の信任をえた。それゆえ、1914 年から 16 年にかけて絶大な権力を振るい、国政に関与した。彼は大臣の任免・罷免までとりしきった。

皇后は、戦争中親独グループの中心となって単独講話をはかっていた。ラスプーチンもそう見られた。そこで皇族のパヴロヴィチ大公は、ラスプーチンを食事にまねいた。そこに青酸カリをいれていた。だが、死なず、ピストル 4 発うったが、それでも死なず、シャンデリアで頭をなぐった。医者が死としたが、眼をあげ、立ち上がった。そして庭に出た。そこで 2 発のピストルで、彼は倒れた。ロープでしばってネヴァ河に沈めた。だがロープを切ったという。こうして 1916 年 12 月 17 日、右派反対勢力のドミトリー大公、ユスポフ公爵らによって暗殺された。

1917 年 2 月革命で帝政が崩壊し、3 月 2 日にニコライ 2 世は退位宣言をした。その後、家族はシベリア・トボリスクへ送られた。夫妻、4 人の皇女つまり、オリガ、タチアナ、マリア、アナスタシアと、皇太子アレクセイであった。10 月革命後、エカチェリンブルグ（旧スヴェルドロフスク）へ移され、家族とともに銃殺された。1918 年 7 月 16 日に家族全員銃殺されたというのが定説である。責任は、地方ソヴィエトかレーニン政権か、のどちらかであり、処刑した理由は白衛軍の存在であった。

だが、皇帝は銃殺されたが、皇太子は病死し、皇后と 4 人の娘がペルミに護送され、さらにモスクワ方面に向かって、消息を絶った、という説がある。19 年に、1 人の女性がベルリン運河に飛び込んだ。それは末娘アスタシアである、ともされ、その後、生きていたともされる。(1)しかし最近ではその人は否定された。

- (1) ユル・ブリンナー、イングリッド・バーグマン主演、映画『追想』で、アナスタシア姫は有名となる。参考、サマーズ、マンガールド『ロマノフ家の最後』中央公論。

エイゼンシュテイン

エイゼンシュテイン（セルゲイ・ミハイロヴィチ、1898-1948）は、リガに生まれた。父は、ユダヤ人で、建築技師であった。父母の仲が悪かった。彼は子供の時から絵が好きで、サーカスを見て、動きや形に夢中になった。父は子に、建築技師の職をつがせようとし、彼はペトログラード土木専門学校に入学した。1917年の革命が起きて、18年に赤軍に志願した。前線で、演劇グループを結成し、慰問した。1920年に復員し、モスクワの東洋科の学校で、日本語を学んだ。そしてプロレットクリトに入る。4年間、舞台監督をした。彼の初めての映画は、短編喜劇『ブルーモフの日記』1923年だった。24年に、演劇に限界を感じた。そして史上初の革命映画『ストライキ』を撮った。

1925年、『1905年』を撮り始めた。その名前は、『戦艦ポチョムキン』に変わった。1905年革命の20周年記念に間に合わせるために、大急ぎで撮った。ここで彼の造形の才が発揮された。27才だった。映画史上もっとも有名で、もっとも大きな影響のあった6分間、オデッサの階段のシーンが撮られた。1926年に、そのフィルムは日本にくるが、天皇制のために送り返された。1956年に再び日本へきて、59年に初めて日本で上映された。

1926年に『10月の春』を作ったが、スターリンの批判で1部修正した。1929年に、彼はロシアを去った。1930年に、ハリウッド・パラマウント社で働いたが、保守主義側によって追放されたし、商業主義とぶつかった。彼はメキシコへ行き、アプトン・シンクレアの援助で、『メキシコ万歳』を撮る。だが未完のうち、途中で契約を破られた。これは1979年に公開された。

彼は1932年にソ連へもどった。『ベージン草原』をつくり、それはツルゲネフの「獵人日記」のエピソードから、現代ソヴィエト農村の階級闘争を描いた。だがソ連映画管理局は、その中止を命じた。1929年からスターリン時代、暗い時代が始まっていた。1936年からは肅正の時代だった。1938年に歴史映画『アレクサンドル・ネフスキー』を撮り、スターリン賞第1位に輝いた。1939年に『イワン雷帝』の脚本が完成し、41年に撮り始め、45年に『イワン雷帝』第1部を公開した。第2部は、党中央委員会の批判、つまりハムレット的に描いたと批判され、未公開となった。1948年に、50才で死んだ。

彼は、インテリの環境におり、外国文化に触れた。夢見がちで、自分の感情にすなおに従って進んでいった。彼の公開作は6本だけであるが、既成映画を破壊した。レーニンやルナチャルスキーは、映画産業の国有化をし、商業主義から解放した。20年代は、芸術家が革命と一体感をもっていて、エネルギーが発揮できた。しかし30年代のスターリン時代は、映画が国家にがんじがらめになった。

彼は後年、国策映画を作った。ワグナー『ワルキューレ』の舞台監督もした。しかしメイエリホリドにたいし、皆が去るのに、パステルナーク、スタニラフスキーとともに友情をもった。彼の原稿を壁に隠し、その後、そのため全集ができたの

だった。

ロシア革命後

ロシア革命が、レーニン後、農業問題からロシア難民を発生させ、それを寒波が襲った。ナンセンは、難民救済活動をする。当時、塩づけ人肉が売られた。欧米は援助せず、900万人が死んだ。ロシア革命で民族独立の影響が起きた。

アントニオ・グラムシ

グラムシは史的唯物論の理論を組み直した。上部構造と下部構造を切り離さないで、それを「歴史的ブロック」と呼んだ。次に、歴史にたいする理念の影響と、個々の人間の意志の力を歴史に入れる余地を作ろうとした。純粹に経済的な影響力よりもむしろ知的・文化的な影響力を強調した。彼は歴史的変革における文化的要因の重要性を知っていた。そして文化の重要性と文化の政治にたいする関係を強調した。

資本主義の相対的安定

アメリカを除き、特にヨーロッパを舞台にして、第1次大戦による世界の破壊が行われ、その回復の過程で、急速に生産力が増大した。アメリカを中心として、例えばフォード・システム、テイラー・システム、大量生産方式、オートメーション等で生産性が上がった。フォードは部品組立て・流れ作業を開始し、1908年に、大量の安い自動車の生産に成功した。これらが資本主義の相対的安定期を作り出し、資本主義が永久に繁栄するという神話を生んだ。特にアメリカは発展した。この繁栄は世界的であった。戦後ヨーロッパの財政と資本主義は、アメリカが各国に金を貸し付けることによって安定していた。

ウィルソン大統領は、1919年に全国遊説し、病で倒れた。そのまま1921年3月まで大統領だった。この間、上院は、ヴェルサイユ条約を否決した。1920年1月10日、国際連盟が正式に発足した。11月に第1回総会。1920年大統領選で、民主党はジェームス・コックスをたて、共和党のハーディングが当選した。1921年就任した。

1920年代はアメリカの大量消費時代の開幕であった。20世紀は自動車の世紀でもあった。

1931年に発明王トマス・エジソンが亡くなった。彼は、アメリカ資本主義の良い面、アメリカ社会の健全な面を代表する人物であった。エジソンは、生涯、人類の便利さのために日々活躍した。彼は千数百の発明をし、特許を取った。だが彼の正当な努力は相当部分、アメリカの諸財閥に収奪された。

19世紀が蠟燭の時代であったとすれば、20世紀は電灯の時代となった。エジソンの白熱電灯の発明は、電灯時代のきっかけとなった。これは人類の生活時間の観

念と生活様式を変えた。文化時間は短縮した。だが人間殺傷能力が増大した。また 20 世紀半ばには、人類の不幸の刃・原子力を握ることになる。

一方で、1920 年代にラジオ放送がされた。これは情報社会のさきがけであった。また 20 世紀は、電気、電信、飛行機、機関銃、自動車、戦車の時代を切り開いた。家庭電化製品が売れた。アメリカがそれを代表した。これは、すぐ後におきる大恐慌の原因になる。一方で、アメリカの豊かな暮らし第 2 次大戦後のアメリカの繁栄のさきがけであった。

ロランド・ホルスト・ファン・デア・スカーク (Henriette Roland-Holst van der Schalk)

彼女は、1869 年、ノールトフェイクの公証人の娘として生まれた。1888 年、オーステルファルデの全寮制女学校を卒業した。文学への関心から「80 年代の運動」文学へ加わった。1893 年に詩人としてデビューした。その縁で H. ホルテルと知り合った。

1894 年にオランダ社会民主労働党が結成された。

彼女は、1896 年、モリスに心酔していたグラフィック・デザイナーの R. N. ロラント・ホルストと結婚する。モリスを学ぶとともに、ホルテルのすすめで、『資本論』を読んだ。1899 年に夫・ホルテルとともに、オランダ社会民主労働党に入党した。

そして 1898 年、「De Nieuwe Tijd」編集部に入った。

1902 年に *Kapitaal en Arbeid in Nederland, deel 1.* を出版した。

1903 年に、鉄道労働者のストライキが起き、党が 2 つに分裂した。多数派は組織活動重視で、少数派は大衆行動重視であった、彼女は社会民主党へ加わった、後の共産党である。

1904 年、カウツキーのすすめで、第 2 インター・アムステルダム大会で政治的マッセン・ストライキについて報告した。

1905 年、*Algemeene Werkstaking en Sociaaldemokratie.* を出版した。

1906 年、*Generalstreik und Sozialdemokratie.* を刊行した。このころからカウツキー家、ローザ・ルクセンブルグと交友した。

1908 年に、1904 年以來の党内論争の結果、左派が週刊紙「De Tribune」を創刊（ホルテル、パネークら）した。彼女は左派ではあったが、トリビューン派には参加せず、党内闘争を避けて、1904-09 年には外国滞在が多かった。

1909 年に、トリビューン派が除名され、社会民主党を結成した。

かの女は 1912 年に離党し、1915 年まで政治活動をやめる。

1915 年に、革命的社会主義者同盟が結成され、国内の反戦グループと共闘した。彼女はツィンマーヴァルト会議に参加した。

1916 年、同盟と社会民主党が合同し、700 人くらいだった。後に 1918 年、オランダ共産党となる。

1918年に De revolutionaire Massa-aktie. De Strijdmiddelen der sociale Revolutie. を出版する。

1921年、KI 第3回大会に出席した。だが1924年に共産党を出る。

1925年に Communisme en Moraal. を出汁、KIのモラル観、目的合理主義的な暴力正当化の批判をした。1927年に離党した。

1928年、De Weg tot Eenheid.を書き、社会民主主義と共産主義の両面を批判した。資本主義の合理主義精神を克服できないと批判し、社会主義が新たな文化価値を担えないと批判し、ユング的無意識世界を期待した。

1932年、Kapitaal en Arbeid in Nederland, deel 2. を出版した。上部構造＝下部構造論を批判した。

1930年代に、トルストイ、ガンジー、老子などを、高く評価した。生活形態形成としての社会主義を望んだ。

1949年、Het vuur brande voort を出版した。これは自伝である。1952年、阿姆斯特ダムで死す。

世界大恐慌

1929年に大恐慌が発生した。大企業は、政治・経済メカニズムのおかげで、恐慌の打撃をかなり緩和できるし、打撃を国民各階層に転嫁できる。一方、恐慌と、大企業がその矛盾を転嫁したことで、国民各階層は苦しんだ。彼らは階級的没落の恐怖心を持った。中小企業や農業家は経営が破産する恐怖、農民は産物が売れなくなり土地を手離す恐怖、手工業者・労働者も職を失う恐怖であり。これらは、資本主義社会内で最も深刻な恐怖である。

ウォール街のキングといわれたジェシー・リバモアは、株屋につとめ、鉄道株で100万ドル以上儲けた。銀行家の息子のジョセフ・ケネディは、ラジオ株で儲けた。一般投資家が株式投資に参加してきて、ブローカーズ・ローンを借りて株式投資をする人も急増した。1929年、アーヴィング・フィッシャー教授は楽観論を述べた。9月3日が株価の最高であった。だがケネディはその後全ての株を売り、撤退した。リバモアは、株価情報分析家を採用し、情報を得ていた。そこでイギリス中央銀行が金利を大幅に上げるという情報を得た。それで資金がイギリスへ流れた。J. P. モルガンの大統領あてレポートは景気については楽観論だった。

だが暴落が始まったのだった。10月24日（木）朝10時に取引所が開いた。25分後、GM（ゼネラル・モーターズ）に大量の売りが出た。驚いた5千人の投資家がウォール街に売りにきた。そこで警官隊が出動した。リバモアは空売りで儲けた。銀行連合は買い支えに回った。そのため相場は回復したが、そのニュースが全国に早く広く伝わらなかった。そのまま3時に、取引所が終了した。30億ドルが1日で失われた。リバモアは数百万ドル儲けた。10月29日には、下げ幅が最大となった。この恐慌で1300以上の銀行が倒れ、全国で4分の1の労働者が失業した。リ

パモアはその後失敗し、自殺した。ケネディは、その後ルーズヴェルトの大統領選挙費用を出し、イギリス大使となり、ヨーロッパの相場で儲けた。アメリカは国際貿易＝輸入を縮小した。安値になった株を、ロックフェラーやモルガンが買い占めて、後に大権力を持つことになる。

ジョン・スタインベック（John Steinbeck, 1902-）は、大恐慌に襲われた故郷カリフォルニア州の悲惨な農民群を、『怒りの葡萄』（The Grapes of Wrath, 1939）で描くのである。

F・D・ルーズヴェルト

ルーズヴェルトは、すでにニューヨーク市長時代に、ニューディール（公共事業の支出をして不況を克服すること）の雛型を行っていた。1933年に大統領になる。1934年にケインズはルーズヴェルト大統領と会見した。だがケインズの助言は大統領への新政策の要因とはならなかった。大統領はすでにニューディールを行っていたからである。しかしケインズ理論は恐慌回避策として世界で認められるようになる。

ルーズヴェルトは、1937年に再選され、44年に4選された。アメリカの歴代大統領の中で2番目に立派な彼は、大恐慌から脱出するために、テネシー溪谷に政府の大事業を起こし、不況克服、失業の減少などの手を打った。また労働運動の民主化の手段を講じた。彼は民主主義者であった。

大恐慌は1933年が景気の最低であった。ここからの回復は、実際は皮肉にも戦争の勃発によらねばならなかった。

ムソリーニ

ムソリーニは、初めイタリア社会党の編集長だった。ローマ進軍で首相になった。イタリアは国王制であった。彼は議会の反対派議員を暗殺もした。ファシスト党の一党制を作った。

ムソリーニはエチオピア攻撃をした。彼の理想は、「再びローマ帝国を」であった。その息子2人は飛行士になり、1人は事故死した。

ムソリーニは、ヒトラーのオーストリア併合を牽制し、ブレンナー峠へ軍隊を出すと言う。ミュンヘン会談で、彼は平和を、と言う。だが第2次大戦に参加を決定した。

ムソリーニの娘は、チアノ伯、後の外相、と結婚した。戦争中、会議でムソリーニが罷免され、娘婿・外相チアノも反対派に回った。こうしてバドリオ元帥の内閣ができた。だがチアノは後に処刑され、日記を残すことになる。

ムソリーニは、ドイツに救出され、ミラノで政府を作った。亡命途中で、ゲリラに捕まり、愛人とともに射殺され、死体は吊された。

ムソリーニが会議で罷免されてから、彼の没落が始まったのだが、こういう事はヒトラーの場合には起きない。ヒトラー方が独裁力が強い。またイタリア・ファシ

ズムは国王制のもとで行われた。そのためドイツ・ナチズムと少し違う。またムソリーニは浮気をした。ヒトラーは独裁者になってから、エヴァ・ブラウンだけと同棲しており、奇妙な禁欲性があった。ただしヒトラーは、私生活では女性を蔑視していた。

ファシズム

米・英・仏では、ファシズムは勝利しなかった。さてドイツと日本のファシズムに違いがある。普通、日本人は、日本がファシズム国だったという認識をしていない。一般大衆は、戦争に引きずり込まれたという感覚をもっている。ドイツでは、民衆が積極的にナチスに荷担したので、その反省の意識が強い。逆に日本人は、ファシズムに荷担したという意識がほとんどない。だからファシズムへの反省が弱いのである。日本人はまた、戦争の反省はあまりしない。これは日本がほとんど民主主義の時代をもっていないことに一因がある。同じ敗戦国ドイツは、ニュルンベルグ裁判に引き続いて、ナチ戦犯を鋭く追求した。これは精神的姿勢が日本と違っている。ドイツは少なくとも、ワイマール共和制の民主主義時代をもっていたからである。

ニュルンベルグ裁判で、教訓として、政府が悪いことを命令しても、個人はそれに従ってはいけない、ということであった。しかしその思想は日本人はまだ持っていない。

オーストリアでは、ドイツより、ファシズム反省の意識が薄い。1938年のオーストリア併合のためである。彼らはドイツによってナチズムにさせられたと意識している。

多くの日本人は、主体性なしに、戦争に参加させられた。主体性がなく、とは、奴隷的に、ということである。天皇陛下の命令だから参加したのだ、と考える。そのために、ファシズムへの反省が少ない。

ナチズム

ドイツ革命（1918年）は、まったく急な急進的な革命であった。これが、ワイマール国民会議を導いた。革命は、ビスマルク憲法の根本的改造に帰着した。予期せぬ、強要された、民主主義であった。（Bracher）

1933年にナチス（＝国民社会主義、以下、ナチスと略）が権力を獲得したとき、賠償を払う必要がなくなっていた。ナチスには外交的自由もあった。外交はヒトラー（Adolf Hitler）が一手に引き受けた。目標は、イギリス（ゲルマン）・イタリア（ファシズム）と結び、フランスとソ連を敵視し、オーストリアを併合することだった。ナチスが求められ、国民に期待されたのは、失業の蔓延などの経済問題であった。ヒトラーの上昇理由は、ドイツ人の戦後処理の不満、大恐慌、日本と同じく持たざるドイツであったこと、つまり原料をえられないことだった。経済帝国の

必要があったのである。

ドイツ共産党の弾圧のきっかけになったドイツ国会放火事件は、ファン・デア・ルッベが1人ですべてをした。しかしヒトラーは、共産主義者が火をつけたと信じ込んだ。そして蜂起を恐れたゆえに、例外法を導入した。

ヒトラーは、1933年4月7日に、反ユダヤ立法を通した。ユダヤ人と反ナチに対してである。しかし1部をのぞいた。3代前までにユダヤ人がいるばあいユダヤ人になり、それをナチスがきめるのだった。そして公職から締め出した。

1933年7月14日、ナチ党は唯一の政党となった。そして1元化（Gleichschaltung、均制化）を行なった。つまり自治体を認めないのであり、（国家と州の）中央集権化をした。こうしてナチ指導を全国民に浸透させようとした。これがナチ革命であった。

ヒトラーは、政治的反対派を沈黙させ、系統的に迫害した。現実には敵がいなくなると、敵だと勝手に想像したものを迫害した。つまりユダヤ人である。強制収容所をSSによって作らせ、ここに放りこんだ。おもに迫害されたのはドイツのユダヤ人である。全体的国家には敵が絶対必要だった。ヒトラーは、全体主義と国家の権威を守る絶対的権力が必要だった。内閣に無制限の立法権を与え、行政と立法の分立を消滅させた。そして総統が国民の決定にしばられないようにした。

1933年7月14日、ナチ党は唯一の政党となった。そして1元化（Gleichschaltung、均制化）を行なった。つまり自治体を認めないのであり、（国家と州の）中央集権化をした。こうしてナチ指導を全国民に浸透させようとした。これがナチ革命であった。

ドイツは一党独裁制となり、1933年11月に、国連を脱退した。また軍縮会議を脱退する。ヒトラーは、再軍備を狙うのだった。ヒトラーは、1934年6月30日に、殺人・粛清、弾圧を行う。競争相手のSA隊長・レームは、「社会主義」を真剣に受け取り、第2革命を狙ったし、国防相を望んだ。SAを国防軍の代わりにせよと要求した。ヒトラーは危険を感じ、粛清したのだった。1934年8月、ゲーリングはSAを解散させた。当時ヒトラーとレームは、行進やパレードでも一緒に立っていたし、これまでは、ヒトラーはまだ独裁者ではなかった。ドイツ人は指導者を求める（マレーネ・ディートリヒ）。ドイツ人は誰かに指導をさせたがる（レニ・リーフェンシュタール）。1934年8月、ヒンデンブルグ大統領の死で、ヒトラーは大統領および総理大臣の位置につくのである。ヒトラーは、総統像を古代ローマ皇帝に求めている。

1934年、ヒトラーは、ドイツ・ポーランド不可侵条約を結んだ。1935年に、一般兵役義務をしいた。これは再軍備の第1段階であった。それに対して各国は、相互援助条約を結んだ。1934年のナチス党大会をレニ・リーフェンシュタール監督は、映画「意志の勝利」にとった。これはパリで金賞を貰った。大会のテーマは雇用創出と平和と思えた。ナチスの思想的代弁者ローゼンベルグは、国家よりもナチ運動

が上であり、国家はナチ生活哲学の道具である、とした。国家は、道徳概念でも絶対的理念の実現（ヘーゲル）でもなく、人種的民族の従僕であり、目的でなく手段だと、ヒトラーは考えた。生存の最高目的は、国家・政府の維持でなく、民族の維持であると言う。この考えが、1934年6月、血の粛清の後、1934年9月の党大会で実践化された。党によって国家が決定される、とシュミットは語る。ナチスの理論はばくぜんとしていた。ナチ党員は党首に絶対服従するという、指導者原理が出来上がった。しかしこれで、ナチズムはキリスト教精神の敵になった。個人の良心よりもヒトラーと党が優位したからである。教会も迫害された。そこでキリスト者の反ナチ精神が生まれた。ヒトラー暗殺計画も、すべて失敗したが、いくつも起こされた。例えば、エルザー事件、トレシュコー事件、ドイツ軍部事件、シュタウフェンベルグ事件などである。一方で、経済が復興し、国民は国家に忠実になった。

ヒトラーは、1934年6月30日に、殺人・粛清、弾圧を行う。競争相手のSA隊長・レームは、「社会主義」を真剣に受け取り、第2革命を狙ったし、国防相を望んだ。SAを国防軍の代わりにせよと要求した。ヒトラーは危険を感じ、粛清したのだった。1934年8月、ゲーリングはSAを解散させた。当時ヒトラーとレームは、行進やパレードでも一緒に立っていたし、これまでは、ヒトラーはまだ独裁者ではなかった。ドイツ人は指導者を求める（マレーネ・ディートリヒ）。ドイツ人は誰かに指導をさせたがる（レニ・リーフェンシュタール）。

ヒトラーは、1935年、ニュルンベルグ法を通した。これでユダヤ人のあらゆる権利を奪った。ドイツ人とユダヤ人との結婚も禁じた。また、ヒムラーの親衛隊を強化し、ゲシュタポ長官はラインハルト・ハイドリヒになる。

1936年、ベルリン・オリンピックが開かれた。ヒトラーはオリンピックは嫌いだったし、興味がなかった。「黒人が勝って、面白いはずがない、彼は国粋主義者だから。」（リーフェンシュタール）

ヒトラーが、1937年秋以来、戦争の準備をしたことは確実である。1937年、ヒトラーの計画（ホスバツハ大佐覚書）がある。それは、「ドイツの人種的共同体を確保・維持・拡大する」「そのために『国土の狭さの解決』による生活圏のために、力の道しかない」の発言である。国防軍は、いつもためらった。そこでヒトラーは、国防相、陸軍総司令官を解任したし、ヒトラーは事実上権限を握った。外交も人事移動もそうだった。

ヒトラーは、1937年11月の秘密演説で、チェコスロヴァキア粉砕の決意を語った。チェコスロヴァキアのズデーテン・ドイツ人の自治要求は激しい、そしてドイツはそれを支援する、というものであった。1938年、ヒトラーはオーストリアを併合する。1938年5月30日に、ヒトラーは、チェコ問題で国防軍へ秘密指令を出した。

1938年、英仏独伊は、ミュンヘンで、ズデーテン地方のドイツへの割譲＝接收案――民族自治による――協定を認めた。この9月9-30日のミュンヘン協定を、イギリスのあらゆる新聞は、『レイノルズ・ニューズ』を例外として、賞賛し

た。ヒトラーはしかし、初めからチェコ全部を奪うつもりであった。1938年10月、ヒトラーは「チェコスロヴァキアの残りを片づける」秘密指令を出した。1939年に、チェコスロヴァキアをヒトラーに委ねる文書に、チェコスロヴァキア大統領ハーハに署名させた。ドイツ軍はすぐチェコスロヴァキア全土を占領した。これは民族自治を破る決定的転換だった。

1938年、ナチスはユダヤ人虐殺を始めた。1939年5月、独・伊軍事同盟が成った。ドイツは、ダンチヒなどを返還要求した。英・仏・ソ連・ポーランドは、提携交渉に失敗し、英は、ポーランドに肩入れをした。英仏とドイツの、ソ連を味方に着ける獲得競争が始まった。だが、1939年8月3日、独ソ不可侵条約がなった。ドイツは、2正面作戦を避けたし、避けることができた。ソ連が西欧を選べば、または西欧がソ連を選べば、戦争は起こらなかったのだ。8月5日、英・ポーランド相互援助条約がなった。

ドイツは、ポーランドを侵攻した。1939年9月1日であった。宣戦布告はなかった。しかしすでにイタリアは、1935年にエチオピア侵略していたし、1932年、中共は対日宣戦をしていた。電撃戦によって、ヒトラーは西ポーランドを占領した。その後、入植地にドイツ人のみ送った。

ヒトラーは、フランス攻撃をし、征服する。ヒトラーのユダヤ人虐殺は、1940-41年に計画的になり、アイヒマンに国外移住計画を作らせた。

ヒトラーの勝利は、列強が戦争に気乗り薄と見たこと、小さきみな戦争をしたこと、国際連盟が――有効でない――を無視したこと、ロシア革命で列強がドイツをソ連の防波堤と見たこと、列強と左翼がナチズムの本質を分からなかったこと、ソ連の反ドイツ呼掛けを列強が無視したこと、スターリンがソ連の政治家・軍部を狂信的に粛清し、弱体化させていたこと、スペイン市民戦争での失敗（1936-）に独伊は援助したが、英・仏・ソは援助しなかったこと、にある。

ヒトラーは、少しずつの一連の小戦争によって問題の解決を計画した。全く戦争をしないでうまく切り抜けようとした。大戦争を準備しているふりをして実際にはそうしなかったところに、ヒトラーの政治戦略の本質がある。ヒトラーは軍備を誇張した。彼の再軍備の動機は、赤軍への恐怖であった。1935年に政策の重点に若干の変化があった。1936年春までドイツの再軍備はほとんど神話にすぎなかった。

(2)

ヒトラーのヨーロッパ大陸支配がなり、彼はイギリス攻撃をした。これは失敗に終るのだが、独ソ戦のカモフラージュでもあった。1940年に、ヒトラーはソ連攻撃を説いた。バロバロッサ作戦である。これは、ソ連を葬り、その民族を根絶するものであった。まずモスクワを占領すべく準備をした。三方から攻め入った。1941年6月に、宣戦布告なしでソ連国境を越えた。ドイツ軍はモスクワのほとんど手前まで侵略した。ドイツの機甲部隊の名将グデーアン將軍の指揮によってであった。彼はフランス戦でも有能さを発揮していた。しかしモスクワ攻撃のドイツ軍の前に、

ソ連軍はねばった。そしてドイツの攻撃は予定より遅れさせられた。そこにロシアの厳冬がやってきたのである。ドイツ軍はソ連側に反攻されて、退却するのだった。その後、レニングラード（今のペテルブルグ）攻防戦が始まった。レニングラード市民はドイツ軍に包囲されて飢餓状態におちいった。だがこれを辛くもしのいだ。1943年にはヒトラーは、クルスク戦を計画した。ドイツは、ドイツ史上最大の攻撃を準備した。クルスク戦は7月5日に始まった。ドイツのクリューグ元帥とソ連のジューコフ元帥が戦いを指動した。ドイツは奇襲を考えたが、ソ連に準備されてできなくなった。だがソ連の防衛線は2箇所破られた。ヒトラーは、「勝利にあわざれば死である」と演説した。ドイツは全予備軍を投入した。ソ連は不利になった。大戦中の最大の戦闘プロホフカの戦いが起きた。その後、スターリングラードの独ソ戦で、ドイツは敗北した。ヒトラーはこれで、ドイツ国とドイツ国民とに嫌気がさしたのだった。彼によれば、強い民族は勝つのであり、ドイツが負けることは弱い民族であることになる。この時点から、彼は戦略的には自暴自棄になった（『ヒトラー最後の10日間』）。ドイツ民族が減んでもよいと考えるのであった。

連合軍がシシリア島に上陸した。イタリアで、ヒトラーとムソリーニの会談が行われた。イタリア軍は休戦を考えたが、ムソリーニはヒトラーにそれを言えなかった。参謀部とムソリーニは矛盾した。これでムソリーニはイタリア国王に逮捕されるのであった。ヒトラーはこれを聞いて、ムソリーニ救出を命令した。イタリアを占領しようとも考えた。軟禁状態のムソリーニは、ドイツの部隊に救出された。だが、彼はもうヒトラーに従属せざるをえなくなった。

スターリングラード戦で、クリューグ元帥はソ連撤退を主張した。しかしヒトラーと取り巻きのカイテルら幹部は、死守を厳命した。これは戦術的な失敗だった。ソ連は、オリョール、その他の市を奪回した。ドイツ軍はヒトラーの命令にもかかわらず退却し始めた。9月、ソ連軍はドニエプル河に進撃し、渡河に成功し、キエフを奪回した。ここで連合国のテヘラン会談が持たれ、第2戦線を作ることが話された。それをスターリンが要望した。ルーズヴェルトは同意し、チャーチルはユーゴスラヴィアからの上陸を主張したが、スターリンとルーズヴェルトのいうフランスからの上陸で決着した。このころからヨーロッパでのパルチザン闘争が広がった。そしてドイツは結局敗戦に追い詰められるのであった。ヒトラーは最後には自殺する。

彼は党を国家よりも上においた。ナチズムという思想を国家や民族よりも大切にした。

(2) Burton H. Klein, *Germany's Economic Preparations for War*, 1959.

ナチズムについての本

ドイツ・ナチズムの人類の経験を踏まえて、いくつかの文献が生まれた。F. ノ

イマンの『ビヒモス』（みすず書房）は、ナチズムを全面的に分析した優れた書である。シャイラーの『第三帝国の興亡』（全 5 巻 創元社）は、ジャーナリストとしての著者が描いたナチズムの大規模な物語である。アラン・パロック『アドルフ・ヒトラー』がある。また、実際にヒトラーの強制収容所に閉じ込められて生活した心理学者フランクルは、『夜と霧』で、強制収容所の悲惨な地獄のような捕虜生活を描いた。ここで、何か精神的な目的を持たないと死んでしまうこと、どんな組織にも良い人と悪い人がいることを語った。なお、児島のぼる『ヒトラーの戦い』（全 10 巻 文春文庫）やテイラー『第 2 次世界大戦の起源』（中央公論 1977）もある。ヒトラーについて最も詳しいのは、ヨアヒム・フェスト『ヒトラー』である。

アンネ・フランク (Anne Frank)

1929 年、アンネ・フランクがドイツで生まれた。数年後、1933 年 1 月に、ヒトラーが政権を掌握した。1933 年 4 月 7 日、ナチスは、反ユダヤ立法を可決した。

フランク家は、1933 年夏、ドイツのフランクフルトを出た。父は、裕福な実業家だった。妻エーディットは、フランクフルトで育った。彼らはまずアーヘンへ行った。1934 年に、オランダへ行き、3 月、アムステルダムのかな上品な家に住んだ。フランクは、ベクチン製造の会社を持っていた。当時オランダに 14 万人のユダヤ人がいた。1934 年、アンネは幼稚園に入り、1935 年に小学校に入った。

1935 年に、ニュルンベルグ法が通過した。1938 年に、オーストリア併合がなされた。同時に 1938 年に、ユダヤ人虐殺が起きた。1940-41 年に、ヒトラーは計画的になり、アイヒマンにユダヤ人国外移住計画を作らせた。

1939 年 9 月 1 日、ドイツは、ポーランドを侵攻した。1940 年、コリーン・オランダ首相は、安心宣言を出した。しかし、1940 年 5 月、ドイツが攻撃し、オランダがドイツに占領されたのである。オランダ女王は、イギリスに亡命し、「自由オランダ」をつくった。そして中立宣言をした。オランダ軍は降伏した。ザイス・インクヴァルト（=オーストリア・ナチスの首脳）が、オランダ総督に任命された。

フランク家の父オットー・フランクは、トラフィース商会とコールン商会を経営していた。そこに勤める女性、ミープ・ヒースは、ウィーン出身で、ドイツ国籍だった。彼女は、ナチ青年団に加入を勧誘されるが、拒否した。さて 7 月 2 日令、つまりユダヤ人届出令が出された。7 月、一家は、ユダヤ人登録をされる。書類に拇印し、写真をとられた。

ミープは、警察に呼び出しをうけ、旅券が失効しているので、ウィーンへ戻れと言われた。そこでオランダ人の恋人ヘンクが、彼女に結婚を申し込んだ。1941 年 7 月に結婚し、ミープはオランダ人となった。こうしてオーストリアへ行く必要がなくなった。

1941 年 2 月、最初のユダヤ人狩りが起こされた。それに抵抗して、ユダヤ人らは

3 日間のゼネストを行ない、それに対し、参加者が銃殺された。

父は、2つの商会を部下に譲った。アンネは、小学校を卒業し、ユダヤ人中学校へ入学した。

1942 年 4 月に、ユダヤ人は、ユダヤ人章、ダビデ星をつけろと命令された。それに加えて、6 月 30 日に、ユダヤ人へ禁止令が出た。ホテル、図書館、映画館、レストラン、カフェへ、ユダヤ人は出入り禁止とされた。こういう状況で、一家は潜伏をきめた。それをミーブが世話をすることにした。この直前、アンネは、1942 年 6 月 12 日、父から日記帳を贈られた。13 才の時だった。

1942 年 7 月 5 日、姉マーゴットは、16 才になっていたが、強制キャンプへの出頭命令が出た。これをきっかけに、翌日 6 日、一家は潜伏を決行するのである。マーゴットは、ユダヤ人には禁止された自転車にのり、隠れ家（フランクの持っていた商会の上階）へ行った。そこはプリンセン・フラフト 263 で、運河沿いにあった。残りの一家 3 人は、すぐあとで行った。そこは家から 4 キロ離れていた。地下組織は、配給切符を手配した。一方、ユダヤ人についての密告には 5 ギルダの礼金が払われることになった。

アンネは日記を大事にした。もう一家族、ファン・ダーン家がこの隠れ家に加わった。夫妻と息子ピーターであった。次いで、1 人の歯医者デュッセル氏も加わった。計 8 名となった。アンネは、日記帳を書き尽くした。その後、紙片に書き、その後、金銭出納簿に書いた。

1943 年 1 月、会社に泥棒が入った。そして親しい八百屋が捕まった。6 月 6 日、連合軍がフランスに上陸した。もうすぐ解放されそうだった。

アンネの日記は、A テキストがあり、はじめの日記である。ついで B テキストがあり、これは小説風になっている。アンネは、小説家になろうとし、日記を小説風書き直そうとしたのだった。書き直しが終わる前に捕まった。8 月 1 日で日記は終わっている。1944 年 8 月、家族は見つかってしまう。

8 月 4 日、午前 11 時、秘密警察の事務所に密告の電話があった。警察官カール・ジルベルバウアーがそれを受けた。彼は、1938 年にオーストリアで秘密警察に入ったのだった。当時オランダでは、ユダヤ人は全部逮捕すべしという命令が出ていた。11 時ころ、彼は 4 人のオランダ・ナチを引き連れて、ピストルを持って、隠れ家へ行った。すでに密告者もそこにいた。銃を持ったオランダ人が店の戸を開けた。家族はこうして捕まるのだった。彼らは隠れ家には 2 年 1 カ月いた。ジルベルバウアーは、写真よりもアンネは美しい子だった、と言う。フランクのかつての会社の社員数名も連行され、ミーブは連行されなかった。その後、警察の自動車きて、家具類を持ち去った。また金目になるものは没収した。アンネの日記は金目になりそうもなく、床に捨てられた。彼らは囚人護送車でゲシュタポ本部へ連行された。日記帳を見つけた掃除人から、ミーブはそれを受け取った。

オランダでは潜伏者が 1 万人いた。半分がドイツ軍に、半分が密告で、捕まった。オランダの 3/4 のユダヤ人が殺された。当初 14 万人のユダヤ人がオランダにい

たのだった。

ミーブは、募金を集め、賄賂で、フランク家を救おうと考えた、だがナチに拒否された。かの会社員のコープハイス、クラールも、オランダ強制収容所へ連行された。

1944年、家族は、逮捕後、別々にオランダ北部に送られた。8月、ペステルボルグへ送られ、ここで家族は再会ができた。そして9月3日、アウシュヴィッツ（ポーランド）へ護送され、そこで男女が分けられた。ファン・ダーン氏（＝ペーター）の父は、病気になり、10月にガス室へ送られた。父フランクは、12月に病院へ送られた。1945年1月、ソ連の砲撃が近づいた。妻（＝アンネの母）は、1945年冬、1月6日に過労で病死した。ここで1万1千人の囚人を全部ドイツへ移せと、命令が出た。だが父は病気で残った。1月27日、アウシュヴィッツはソ連に解放された。その直前に、ペーターはアウシュヴィッツから移されるが、それら囚人たちは、停車場までの強行軍でほとんど死んだ。

時期はさかのぼるが、1944年10月30日、ファン・ダーン夫人、マーゴット、アンネが、ベルゲン・ベルゼン（ドイツ）へ送られた。姉妹は父母と別べつになった。1945年2月に、2人はチフスにかかった。マーゴは、2月末に、ベッドから落ちて死んだ。アンネは、3月初め、つまりその数日後、それに落胆して衰弱死した。

1945年4月30日、ヒトラーは自殺し、ドイツは無条件降伏をした。5月、オランダは解放された。父は、アムステルダムへ帰った。父は、密告者は知りたくない、とミーブに語った。8月に郵便が来て、アンネとマーゴの死を知らせた。密告者はオランダ人で、倉庫係ファン・マーレンが容疑者になった。しかし掃除婦・その妻レナ・ブラデレンだと、ミーブは考えている。

アンネの日記については、父は、Aテキスト、Bテキストから、Cテキストを作った。1947年に、Cテキスト「隠れ家の家」を出版した。”Het Achter-huis”，1947である。これは、初めあまり売れなかった。アメリカで劇と映画になって、有名になった。父は、日記の削除した5枚を、友人に渡した。そしてその公表を止めた。そして父は死んで行った。その部分は、妻エーディット論と、アンネが性に目覚める所とであった。アンネの日記は38カ国語に訳された。(3)

(3) 伝記 ミュラー『アンネの伝記』文芸春秋。；シュナーベル『アンネのおもかげ』みすず書房。

原爆・核兵器

核分裂とは、ウランの原子核が中性子の衝撃で真二つに割れることである。ハーン（独）が発見し、それはアメリカへ知らされた。フェルミ（伊）は、ファシズムを逃れ、アメリカへ亡命した。そして核分裂連鎖反応を確かめた。「ヒトラーに原爆を作らせるな」、と亡命研究者たちは主張した。

アメリカは大戦中、悪魔のようなヒトラーに原爆を発明されたら破滅だと考えた。

1939年3月、コロンビア大学の工学部長が原子爆弾を作ったらどうかと、アメリカ政府に進言した。アインシュタインも面白いと考えた。

1939年8月2日、アインシュタインは、ローズヴェルト大統領あて勸告書を送った。そこで原爆製造を薦めた。10月に、ローズヴェルトは、「ウラン諮問委員会」を作った。政府はウランを求め始めた。1941年12月16日、米政府は、原爆製造計画を決定した。コロンビア大学でウラン燃料組立てが完了した。1942年に、陸軍でマンハッタン計画（＝原爆製造計画）がスタートした。1942年12月2日、フェルミが作ったシカゴ大学の世界最初の原子炉で、核分裂連鎖反応に成功した。プルトニウム原爆の製造が計画された。第2次世界大戦中、アメリカとイギリスで、「マンハッタン」計画、つまり原子爆弾製造計画がスタートした。

原爆第1・2号

1945年6月1日、原子力利用のための委員会（米）は、1、原爆の対日早期使用、2、民間建造物に取り囲まれた軍事施設への投下、3、爆弾の性質を無警告で使用、という勸告をトルーマン大統領に提出して、承認を受けた。

1945年7月16日、最初の爆発実験が、ニュー・メキシコ州アラモゴルドで行われた。プルトニウム爆弾で、TNT火薬2万トンの威力であった。20億ドルかかった。

7月24日、トルーマン大統領は、新兵器をポツダムで、スターリンに告げた。スターリンは言う、「日本人に対し、有効にそれを使用するよう希望する」。チャーチルも言う、「もしそれが戦争終結の助けとなるならば、原爆使用に賛成だ」。トルーマン・アメリカ大統領は、原爆が単なる軍事兵器だと、単純に信じた。

アラモ・ゴルドでの初実験の成果にたって、大戦終了間際に、広島・長崎に原爆が落とされた。ドイツ・イタリアがすでに倒れているのに、原爆を落としたのである。8月初め、アメリカ第20空軍司令部で、作戦命令13号が出された。次のものである。

「攻撃日	8月6日
攻撃目標	広島市中心部と工業地域
予備第2目標	小倉造兵廠ならびに同市中心
予備第3目標	長崎市中心部
特別指令	目視投下に限る
投下高度	2万8000-3万フィート
飛行速度	時速200マイル

8月6日、中部太平洋テニアン島を、原爆（ウラン235が原材料）「リトル・ボーイ」をつんだB29「エノラ・ゲイ」号が発射した。機長はチベック、爆撃士はフェレビーである。目視投下だから、天候がよくなければならなかった。この日、広島は快晴であった。広島上空9600mで落し、8時16分爆発した。原子雲が12kmのぼった。広島市役所の最終調査（1953年）では、死者26万人、行方不明6万

6700人、重傷5万1千人、軽傷10万5千人であった。ヒロシマ被爆者のケロイドを写真で見られるようになったのは、戦後6年たってからだった。

ついで長崎に、「ファットマン」が落とされた。広島は2倍の爆発力であった。8月9日、B29「グレート・アーティスト」号が、小倉は雲にさえぎられているので、長崎へ行き、11時00分ころ、プルトニウム爆弾を落とした。これで3万6千人を殺した。広島・長崎とも、TNT火薬2万トンに相当した。

これらは人類初めての事件であった。広島市民はこれを大型の新爆弾としてしか認識しなかったもので、多くの人が2次被爆をした。原爆投下を聞いてアジアの人民には、日本軍国主義が崩壊を速めたのだから良かったと思った人もいた。原爆は、日本軍国主義の敗北を特に速めたものではなかった。日本の参謀本部は、それよりむしろソ連軍の侵入に驚いた。アメリカはむしろ、戦後政治でソ連を牽制するために、原爆を投下したのであった。原爆投下は、実験の意味があり、同時に脅かしであった。アメリカがもし本気で原爆で直接日本を敗戦に追い込もうとしたら、東京に投下したはずであった。また天皇が終戦の決断をグズグズしていなければ、原爆を落されなかったのである。

アメリカが原爆を投下した真の理由は、ソ連の対日参戦予定日（8月8日）以前に原爆を投下すること、それ自体であった。日本軍部は、原爆よりもソ連参戦の方がずっとショックだった。

(1) バーガミニ説。

トルーマン Harry S. Truman, 1884-1972

中等学校、夜間法律学校に学ぶ。農業経営をした。1917年、34才で視力が弱いのにならぬに軍隊に志願し、中隊長として、第1次大戦に従軍した。大戦後、ベスと結婚した。経営者になる。金融危機がおき、商売は失敗する。まわりの人に信頼され、好かれた。郡の行政委員に立候補せよと言われ、当選する。郡の判事、同首席判事に、1925-34、スポンサーが政界の黒幕だった、上院議員になれと。34-44年上院議員。マンハッタン計画を記者から教わるが、軍事秘密だと言われる。1944年、民主党大会で、ルーズヴェルトの副大統領になる。会ってみると、彼の手がふるえていた。45年、大統領が亡くなり、第33代大統領に昇格した。マンハッタン計画は秘密にする。ベルリンで3者会談に出る。会議中、原爆ができたと知る。原爆を落とすことにする。トルーマン・ドクトリンで共産側封じ込め、マーシャル・プランにより、欧州を援助。公民権法を提案する。妻のために、大統領選挙に出ないと言ったが、妻はそれに反対した。1948年、予想を覆して、大統領に当選、共和党はデューイだった。福祉政策を立案するが、実現できなかった。朝鮮戦争が勃発した。マッカーシー議員の攻勢が始まった。顧問チャーリー・ロスが急死した。マッカーシーは原爆投下を主張し、それに反対し、彼を罷免した。1953年の選挙には立候補しなかった。共和党のアイゼンハワー元帥が次の大統領になった。故郷に帰った。

ニュルンベルグ裁判

ドイツは米・英・仏の連合国とソ連によって解放されたので、この4カ国によって分割占領管理された。

1945年11月20日にニュルンベルグ裁判が始まった。1946・10・1まで、主犯24人だった。「I.G.ファルベン」会社はユダヤ女性を買い取って生体実験をしていた。「ジーメンス」社が毒ガス室を製造していたし、死体の髪の毛を織物にしていた。裁判では、戦犯11名が絞首刑とされた。ナチが虐殺したユダヤ人から没収した財産は、とほうもなく巨額であった。ガス室で殺したあと、所有物をとった。宝石類、金、プラチナ、時計、首飾り、イヤリング、指輪、現金であった。金歯は歯科医が抜いて溶かして金の延べ棒にした。これらの貴重品と現金はスイスで処分された。

この裁判と共に戦後の思想として確認されたのは、国家の悪い命令に個人が従うことも個人の責任であるということであった。

この裁判に引き続いて、ドイツ人はナチ戦犯を鋭く追及したし、続けている。これは精神的姿勢が日本と全く違っている。政治的民主主義の経験がドイツではより多くあったからである。ドイツ人はワイマール共和制の民主主義経験を持っていた。その上ドイツ人は世界戦争に2度負けた経験があったからでもある。

ロバート・オッペンハイマー

1904年、ニューヨークに生まれた、ユダヤ人である。ハーバード大を卒業した。理論物理学を学び、また左翼になった。1938年、ハーンらが核分裂の発見をした。1939年ナチは原爆計画をもった。彼はナチを恐れ、原爆製造に従事した。アメリカ人は戦争のために何でもしようとなっていた。マンハッタン計画が作られ、グローブス将軍とオッペンハイマーが指導した。1943年にロスアラモスの秘密研究所が作られ、彼はその所長になった。超一流の科学者が集った。家族ふくめて6千人の町になった。彼は熱烈な戦争賛美者になった。だがドイツが負けてもそのまま研究が続いた。彼は原爆の父と言われた。プリンストン高等研究所の所長になった。後の、水爆の父は、エドワード・テラーである。オッペンハイマーはマッカーシーの赤狩りにあい、原子力委員会は彼を公職追放にした。1967年に死去した。

国際情勢

1945年8月15日、日本はポツダム宣言を受諾し、無条件降伏をした。

1945年10月24日に国際連合ができた。12月には世界銀行とIMF（国際通貨基金）が発足した。

1946年2月24日に国連に原子力委員会ができ、アメリカが原爆を独占した。6月からビキニ環礁で原爆実験がされた。アメリカで原子力エネルギー委員会が作られた。1947年6月に、ヨーロッパの経済復興計画であるマーシャル・プランが施行された。

1946年にチャーチルの「鉄のカーテン」演説がなされ、1947年にはトルーマンの

反共演説がなされ、米・英は、ソ連への対決姿勢を強めた。トルーマンは反共のゴチゴチであって、冷戦を準備した。アメリカは、民主主義者ルーズヴェルトの時代からは大いに変化していた。レーニン以来、資本主義国を憎悪するというよりも、それを恐怖していたソ連の政治家にたいして、ソ連への敵対を煽るのは行き過ぎであった。

1947年6月にアメリカで、タフト・ハートレー法、つまり赤狩り、労働組合弾圧の法律が通った。7月にCIA（中央情報局）が発足し、ペンタゴン（＝国防総省）も発足した。非米活動委員会は、平和・民主主義者を共産主義の名で弾圧した。アメリカは世界制覇の道を歩んだ。資本主義諸国つまり西ヨーロッパと日本を支配し、各国に軍事基地を置いた。アジアとラテン・アメリカに新植民地主義的支配を行った。アメリカは世界の憲兵と言われた。そのために国内を非民主化する必要があった。

1949年、西側諸国は、軍事条約である北大西洋条約＝NATOを締結した。一方、1947年、ソ連はコミンフォルム（＝ヨーロッパ共産党・労働者党情報局）を創設した。ただし、1948年にはユーゴスラヴィアがここから除名された。そしてワルシャワ条約ができる。こうして第2次大戦後は、冷戦の時代が始まる。

ドイツ連邦共和国とドイツ民主共和国が成立した。

チャーチル 『第二次大戦回顧録』 1948-19 5

水爆

1950年1月、アメリカ大統領トルーマンが、水爆の製造を指令した。世界は新しい時代に入った。

1950年2月、マッカーシー議員が爆弾演説をして、赤狩りを呼びかけた。平和主義者を共産主義者だとレッテルを貼って、3月から赤狩りが始まった。1952年にチャップリンがアメリカを去ってイギリスに、つまり追放された。ローゼンバーグ夫妻が、ロシアのスパイ容疑で、7月と8月に逮捕され、無実の罪で裁判にかけられ、死刑判決を受けた。1953年に電気椅子で処刑された。1954年末までマッカーシズムの時代が続いた。

アメリカは世界制覇の道を歩んだ。資本主義諸国つまり西ヨーロッパと日本を支配し、各国に軍事基地を置いた。アジアとラテン・アメリカに新植民地主義的支配を行った。アメリカは世界の憲兵と言われた。そのために国内を非民主化する必要があった。

ビキニ環礁で核実験がされ、中部太平洋で60日以上の実験がされた。ソ連も原爆を持ち、軍拡競争が始まった。1952年にソ連は、第2回実験に成功し、量産に入った。こうして米は、原爆独占にやぶれた。だから戦術用小型核兵器と水爆製造をねらうのであった。

1952年11月1日に、アメリカは、エニウエトク環礁で、世界最初の水爆実験を行なったと、発表した。イギリスは、1952年10月2日に原爆実験をした。

1953年1月20日から軍人・アイゼンハワーが大統領になった。次いで1953年8月12日に、ソ連は初の水爆実験を行なった。乾式水爆であった。

その後1954年3月1日、アメリカによるビキニ乾式水爆実験がされ、日本のまぐろ漁船、第五福龍丸の久保山愛吉氏が被爆して死亡し、原水爆の危険性が認識され始めた。

当時、核抑止力が信じられていた。核武装していれば戦争を抑止できるというものであり、これで軍拡が始まった。ソ連首相となるフルシチョフは、「戦争はもう不可能になった」と言うことになる。

アメリカでは、1951年12月29日、アイダホ州アーコ国立原子炉試験場で、原子力発電が、非実用であるが始まった。1954年6月27日、ソ連は実用発電所を作った。1956年にイギリスは商業的発電所を作った。こうして原始力発電がはじまった。アメリカでは、無数の核実験を、国内でも行なった。ユタ州でロケをした映画『征服者』の一団は、通常の3倍の癌発生率を経験した。原爆の技術は発展し、それから、一方では、地上でなく、地下核実験が行われるようになった。放射能汚染は、5年の潜伏期をへて、ガンになる。日本の児童のガン死亡率は、広島5年後から急成長した。1957年に、日本初めて東海村原発が完成した。

アフリカ、独立

1956年10月 イギリスとフランスはエジプトのスエズ運河に侵略した。アルジェリア革命の根源がナセルにあると思ったのだ。

1960年には、一挙に17の独立国が誕生した。この年は「アフリカの年」と呼ばれる。それは、英・仏・ベルギーが旧植民地主義でなく新植民地主義の方が有利だと判断したからであった。フランス領のうち、12の独立国が生まれた。

1968年には独立国は、40カ国を越えた。

エジプト

ナセルのエジプト革命が1954年に行われた。1956年、エジプトはスエズ運河国国有化宣言をした。1956年10月、イギリスとフランスはエジプトのスエズ運河に侵略した。アルジェリア革命の根源がナセルにあると思ったのだ。1956年、イスラエルがシナイ半島を侵略し、第2次中東戦争、スエズ戦争が開始された。

ルムンバ

コンゴ（現在のザイール）はベルギーに支配されていて、1958年に初めてアフリカ人政党の結成を認めた。1960年6月に独立したが、国内が混乱した。カタンガが州のチョンベ首相は、分離独立を宣言し、内乱状態になった。ルムンバ首相（192

5-61) は国連に提訴し、国連軍が派遣されたが、カサブブ大統領とルムンバ首相の対立から、ルムンバは捕らえられ、政敵チョンベ・カタンガ首相のもとに送られて殺された。ルムンバ派はスタンレーヴィル（キサングニ）に政権を作ったが、1965年11月、モブツ将軍のクーデタで軍部政権を作られた。1971年、国名がザイールと改められた。

ケニア

アフリカ人の民族主義運動が早くから発展したケニアでは、白人移住農園主が、1952年、ケニア・アフリカ人同盟を弾圧し、党首ケニヤッタらを捕らえた。しかし人口の1%の白人ではおさえきれず、ケニアは1963年独立し、出獄したケニヤッタが大統領になった。

ポルトガルは植民地の独立を認めようとしなかった。1960年代初めから、アンゴラ、ギニア、モザンビークで武力闘争が展開されていた。

1974年4月のポルトガル革命で、これら地域の独立を認める方針に転換した。

ガーナ

エンクルマ。10年間アメリカで虐待される。その後、英領ゴールドコーストで1947年、ゴールドコースト統一会議が結成され、イギリスに留学していたクワメ・エンクルマ（1909-72）が書記に招かれて帰国した。エンクルマは6カ月の間に500の支部をつくる勢力的活動で指導権を握る。1949年、憲政人民党CCPを結成し、即時自治を要求して不服従運動を展開した。1951年の選挙で、CCPは、38議席中34を占め、獄中から立候補して当選したエンクルマは、首相に任命された。1957年3月、ついに英連邦内の独立国として独立を宣言し、国名をガーナと定めた。エンクルマは後に大統領となった。パン・アフリカニズムの旗手となった。1966年2月、北京を訪問して不在中に、軍部クーデタが起こり、ギニアに亡命して、1972年病死した。

1958年、セクー・トゥーレにひきいられたギニアは、フランスから独立した。

リビアのカダフィ大佐

エジプト

ナセルのエジプト革命が1954年に行われた。1956年、エジプトはスエズ運河国有化宣言をした。1956年10月、イギリスとフランスはエジプトのスエズ運河に侵略した。アルジェリア革命の根源がナセルにあると思ったのだ。1956年、イスラエルがシナイ半島を侵略し、第2次中東戦争、スエズ戦争が開始された。

1956年10月 イギリスとフランスはエジプトのスエズ運河に侵略した。アルジェリア革命の根源がナセルにあると思ったのだ。

1956 年 エジプトのスエズ運河国有化宣言がされた。

アパルトヘイト

南ア共和国は、白人が人口の 5 分の 1 を占め、1948 年以来、オランダ系白人の国民党が政権を握り続けている。アフリカの流れをよそに、1948 年に通行証法、1949 年に背徳禁止法（つまり黒人が白人と結婚すると 8 年の刑）、1953 年にパンツァー教育法（つまり黒人と白人を完全に分離して教育する）、1959 年にパンツァー自治法（つまり黒人を指定地域に押し込める）という人種隔離＝アパルトヘイトの法律を次々と制定した。

ネルソン・マンデラ

1962 年 8 月逮捕。64 年、反逆罪で終身刑。92 年 2 月に釈放。27 年半の獄中生活、うち 18 をロペン島＝ケープ・タウンの近くの島。
アフリカ民族会議 A N C。

朝鮮戦争

これまで朝鮮独立はカイロ宣言で決まっていた。1945 年、モスクワで、米・英・ソ外相会議で、統一政府樹立話合いが着かず、国連へ持ち込まれた。朝鮮委員会を設置され、北朝鮮は非協力だった。1948 年 8 月に選挙があり、李承晩の大韓民国ができる。北は、9 月 9 日、朝鮮民主主義人民共和国を樹立した。

アメリカは南から撤退した。李承晩は、南北の武力統一を考えた。金日成も同じくそう考えた。50 年、金・スターリン秘密会談がされ、金は攻撃・南進する。

南＝韓国に、米軍が駐留した。李承晩は、南北の武力統一を考えた。金日成も同じくそう考えた。

1950 年、アメリカは韓国と軍事協定を結んだ。そして朝鮮戦争を準備したとされる。だが 1950 年 6 月 25 日、北朝鮮軍の奇襲攻撃を受けて南朝鮮＝韓国側がそれに反撃を開始した。戦争を望んでいたアメリカにとってはチャンスだった。こうして朝鮮戦争が始まった。戦局は一進一退であった。そこに、中国・ソ連の援助、アメリカの援助が入った。1953 年 7 月 2 日、朝鮮戦争が終った。

金日成は、なぜかアメリカの介入なしとみた。中国は参戦した。

北緯 38 度線で分割する休戦協定が結ばれた。朝鮮戦争によって、戦後経済の停滞に陥っていた日本は、発展のきっかけを与えられた。この戦争は、20 世紀後半のアジアの戦争の型を決めた。つまり大国の代理戦争であった。

160 万が戦争で死んだ。

北では、戦後復興がすすんだ。千里馬運動が命じられ、ノルマ以上の生産を目指すようになった。朝鮮戦争が始まってから、アメリカでセックス映画が作られ始め

た。

ヴェトナム戦争が始まり、ヴェトナムでは米兵むけ売春婦、ストリッパーが激増した。その後米兵の性道徳感に地に落ちていった。とてつもない数でホモがふえ、そしてエイズ伝播でもとになった。

金日成は、1937年の有名な普天 x {保カムリに土} の戦いで活躍した英雄であり、将軍である。彼は1900年ころ生まれた。本名を、金成柱といい、1937年秋、日本軍に包囲され、戦死した。朝鮮では独立闘争で多大な功績を残した人物を、金日成と呼ぶようになった。何人かが、金日成と呼ばれた。

北朝鮮の首領となる金日成は、1912年生まれで、本名は、金聖柱である。幼少のころ中国に移住した。1932年の父の死後、中国人の養子になった。母は生活に困った。彼は日満軍に追われてソ連へ越境した。そして中ソ共営のスパイ部隊・ブヤッコエの第八八特別偵察旅団の大隊長になった。同時にソ連共産党員になった。1940年冬、彼は、日本の討伐隊に追われ、満州からソ連へ逃れ、取調べを受けた。それを中国共産党が彼を保証した。中国共産党は、満州抗日連軍を作り、金聖柱もこの一員で、チン・リーヨンといった。戦後朝鮮半島に進駐したソ連が、この聖柱に目をつけた。彼は金日成(2)になりすました。

李承晩(イー・スンマン)は、李王朝へのクーデタ参加で終身刑になり、日本が救出した。渡米し、ドクトルを取る、亡命政権をつくる。妻はオーストリア人である。ヤルタでの秘密条約で、信託統治にする、と。38度線で区分。李は帰国し、70才だった。4カ国信託統治が決定された。マッカーサーは、南に分断政府を作る。

李は、信託統治に反対した。南だけの単独選挙が、48年に強行された。単独選挙反対運動がおきる。48年に李が初代大統領になる。

南に米軍が駐留した。韓国でも戦後独立博物館ができる。李は60・4・19デモで、辞任し、アメリカに亡命した。

1960s半ば、金日成は、権力をかためる。中国と距離をおく。国防力強化する。金日成(-1994)の、チェチェ思想、主体思想は、中ソとはなれ、独自の道をゆくもの、その際、キムが頭脳、党は神経、国民は躰と。金は1994・4・8死す。

『金日成選集』

南米

ポプリスモ、ペロニスモ

アルゼンチンは独立していたが、急進的民族主義に担われ、非共産主義体制をとり、資本主義の枠内で発展をめざした。1946年から55年まで統治したペロンの体

制が、ポプリスモ（人民主義）という政治体制の代表例であった。

フアン・ドミンゴ・ペロン

ペロンは、1885年、ロボス町のはずれに生まれた。父は、南ヨーロッパの農民の子孫で、イタリア系だった。母はインディオの血の混じった田舎娘だった。ペロンは、小農場主の子として生まれた。5才の時、パタゴニアに移住し、家は、牧場を経営した。彼は、たくましく育った。父が死に、母は、ブエノスアイレスの軍事学校へ、彼を入れた。射撃、フェンシング、げんこつで、トップとなった。ペロンは、堂々とした体躯で、教養があった。個性的魅力と説得力があった。ペロンは、イタリアに勤めた時、ムソリーニを見て、独裁者になりたいと思うのだった。彼は、ブラジルで秘かに結社「統一将校団」を作った。そして書記長になった。これは全国組織になる。

1943年6月、軍部の軍事クーデタが起きた。カスティーリョ大統領の政府をクーデタで倒した。彼らは、選挙などいらない、と言うのだった。カスティーリョ大統領の国防相ペドロ・ラミレスが、新大統領になった。ファレルが新国防相になり、ペロンが国防相次官になった。だが大統領はあやつりであった。実際はペロンが権力を握った。彼は、労働福祉庁を新設して、その長官になり、労働政策を担当した。ペロンは、労働者に対する大胆な保護政策を展開し、クーデタでも大きな役割を果たした。

エビータ (Evita)

1919年5月7日、アルゼンチンの片田舎で、マリーア・エバ・イバルグレンが、ロス・トルドスのはずれのあばら屋で、私生児としてうまれた。5人兄弟の末子だった。彼女の母は、ある地主ドゥアルテの愛人だった。1926年、チビルコイで、父が死に、彼女の家はドゥアルテと名乗れた。だが1月8日の葬式には出られなかった。子供らは妾の子だったからである。母はその後、地方政治家の愛人となり、田舎町フニンに住んだ。エバは中学を出て、女優になろうとした。この町で、タンゴ歌手マガルディと愛し合った。最初の男だった。1936年、エバは、彼にくっついて、ブエノスアイレスへ出た。だが彼は家族もちだった。エバは酒場などで働いた。才能も美貌も魅力もなかったが、名だけの女優となった。チョイ役で舞台・映画に出た。だがしだいに美しくなった。エヴァを好きになった男が出資して、ラジオ番組を提供してもらった。週一回のメロドラマだった。これでエバは有名になった。雑誌に写真が出るようになった。エバは、実力者と知合いになろうとやっきになるのであった。

エバは、その新閣僚＝通信大臣インペルト大佐の愛人になった。これでラジオの

オーナーが、エバの月給を3倍にした。1944年に、サンファン地震が起きた。ペロンの主宰した募金慈善バラエティ・ショー＝コンサートで、1月22日、エバは、フワン・ドミンゴ・ペロンに紹介され、「お役に立てる」と言って近づいた。彼女は、彼が最高実力者だと知っていた。その日、2人は秘かに別荘に行くのだった。彼女は逡信大臣を捨てたのである。エバとペロンは、40才近く年齢が違っていた。エバは、ペロンの若い愛人を彼の家から追い出した。

彼女は女としては、スゴ腕であった。

ペロンは、労働組合を従わせた。政府が、対ドイツ断交、対ドイツ宣戦をしたので、ペロンらはクーデタを起こし、ファレルを大統領にした。ペロンは国防相になり、そして副大統領にもなった。

ペロンはエバと同棲した。エバは、政治で民衆の力がかえりみられていないことに気づいた。ペロンは、国内の賃上げを実施した。労働組合を自分の労働組合に編入する。彼はナショナリストだった。ブラジルでは食肉労働者が最大だった。彼らは、ストライキを起こし、これをペロンは解決した。賃金の規準制を廃止し、大幅賃上げをし、再雇用をし、再賃制をつくった。ただし、ペロンの体制はファシスト的色彩があった。

だがここで政変が起きた。ペロンは失脚し、逮捕された。ペロンは、軍隊を去った。エバは、そこで若手軍人、労働組合を動員するのだった。ペロンは、釈放された。

エバはペロンと結婚した。エバ26才だった。これは美貌のゆえであった。彼女は、エバ・ペロン、またはエビータとなる。後のミュージカル「エビータ」のヒロインである。エバは、映画の準主役になったが、女優としての演技はとてもだめだった。

大統領選挙戦が行なわれた。労働組合から絶大な支持をえたペロンは、1946年6月4日、大統領になった。労働者、下層国民を労働党に組織し、この体制を固めた。ペロンはイギリス産業を放逐した。

エバは、国民にエビータと呼ばせた。「特権階級のもつ富をとりあげて皆さん貧民の手に与える」と語るのだった。エバは、上流婦人の慈善団体の会長にさせてもらいたかった。しきたりとしては、大統領夫人がこれに就任するのだが、依頼がこないのだった。その会長は大地主夫人であった。エバは、上流階級、軍人に嫌われた。彼女は、下層出であり、情婦、娼婦、成り上がり者、と言われた。

エビータは、ヨーロッパ旅行をした。スペインでは、フランコ総統に勲章をもらった。イタリアでは、法王に謁見したが、勲章はもらえなかった。エビータは、「虹の高みにたつ」と、語った。彼女は、イギリスには行かなかった、実際は行けなかった。1947年8月に、帰国した。

エビータは、婦人選挙法案を可決させる。これはアルゼンチン初の快挙であった。そして彼女は、婦人ペロン党をつくり、その総裁になった。ついで社会救済財団＝エバ財団を作った。寄付金は国内中から強制してださせた。賃金などからも出させ

た。かの上流団体の慈善団体の予算を、政府から出させなくさせた。また彼女は、私生児を認める法律も作った。

エビータは、貧民、弱者に目をむけ、労働組合を作り、初めて女性参政権を与えて、「女性の味方」だと言うのだった。彼女は、食糧、家、毛布を、貧民に与え、子供にはおもちゃを与え、「エバ財団」から入れ歯を送った。これらの事業では、面倒なので帳簿はつけなかった。

1951年4月、エバは、副大統領になってくれ、と言われた。労働総同盟（C. G. T.）が支持し、ペロンも初めは支持した。エビータは、今まで何をすることも権利がないと言われてきたので、本当は副大統領になりたかった。だが、軍人が反対した。他方で、民衆は支持した。ペロンは、軍部を考慮して、彼女を副大統領に任命するのをやめた。それに、彼女が癌にかかったことを知り、それを告知した。そのためエビータは、副大統領立候補を辞退した。ペロンが地位を保っているのは、エバのおかげだった。11月11日は、大統領選挙であった。ペロンは当選し、大統領になった。

1952年5月1日、エビータは病床から立って、大演説をした。反ペロニズムに対して闘うというものだった。7月26日、エビータは、癌で亡くなった。エビータは夫に、「貧しい人々を裏切らないで」と遺言した。彼女はアルゼンチンの大地主の体制に敵対したのである。夫は、エビータの遺体に防腐剤を使って、保存した。エビータは死ぬ前に、「私は帰ってくる、何千、何百万となって帰ってくる」と言った。人々は、彼女を「聖エビータ」と呼んだ。映画館では映画をとめて、彼女の死のニュースをその映画館で知らせる有様だった。皆が、悲しんだ。

エビータの死後、ペロンは並の軍事独裁者になった。1955年、ヴァチカンがペロンを破門した。そして革命が起きた。1955年9月、軍部の反ペロン派がクーデタを起こし、政権は崩壊した。ペロンはパナマへ亡命した。結局スペインへ行くのだった。1955年、将軍ペドロ・アランゴール大統領が、アルゼンチン陸軍に、エビータの遺体を隠せと命令した。陸軍情報部長モリ・ケーニヒ大佐が、郊外のビルの一室へ隠そうとして車でゆくと、その前のビルが爆発した。車からおりると、ローソクと花が並べられていた。遺体の場所を変えても、必ず、ローソクと花が飾られた、という伝説がある。そこで大佐は、部下の家におくことにした。部下はある日、奇妙な物音がしたので、拳銃をうつと、それは自分の身重の妻だった。大佐は、エビータは生きている、と話すようになり、78日後に解任された。1957年、政府は遺体を国外に運びだし、船でボンヘ、そしてローマへと、ヨーロッパ各国を回った。遺体はミラノに送られた。1969年に、アランゴール大統領は、エビータの場所を言わなかったので、誘拐・暗殺された。

1973年に、デモがおき、エビータを返せという声があがった。ペロンが再び政権に呼ばれることとなった。遺体は、スペインのペロンに戻された。5月、ペロニスタ政権が18年ぶりに樹立され、1973年10月ペロン自身が大統領に復帰した。だが彼は、1974年7月に死去した。その後、その夫人が大統領になった。1974年

11月17日、エビータの棺は帰国した。19年ぶりにアルゼンチンの人々はエビータに再会したのだった。だが1976年3月、軍部がクーデタを起こし、権力を掌握した。(4)

(4) バーンズ『エビータ』新潮文庫、など。

アメリカの映画

1950年代に、アメリカでは西部劇の傑作がでた。アラン・ラッド、ジャック・パランス主演の『シェーン』。ゲーリー・クーパー、グレース・ケリー主演の『真昼の決闘』(1952年)、である。戦前は、ジョン・フォードとジョン・ウエインの西部劇が最盛で、ア・プリオリに、インディアンを悪人と見、白人を善人と見なしていた。50年代には、悪い白人とよい白人の対決が主題となった。「シェーン」や「真昼の決闘」では白人同士の決闘が描かれる。

1990年の『ダンス・ウィズ・ウルヴス』では、インディアンを善とみる。

一方、ルネ・クレマン監督の「禁じられた遊び」、マーガレット・ミッチェルの原作で、Vivian Leigh、クラーク・ゲブルが主演した「風と共に去りぬ」の名作が生まれた。ソ連のエイゼンシュテインも頑張っていた。(4)ウォルト・ディズニーが、漫画家となり、アニメーション映画を作った。1955年にディズニー・ランドを作って、新しい娯楽が始まった。

文化人類学

新しい文化人類学が誕生した。それは、研究者が長期に実地に住んで研究対象の民族を観察することによって生まれた。まずその代表は、マリノフスキーである。彼は、1884年にポーランドに生まれた。クラカウ大学で物理・数学のドクターをとり、ライプチヒで民族学に転換した。その後、ロンドンで学ぶも、文献研究の限界を知って、オーストラリアへ野外研究に行った。ニューギニアのトロブリアンド島人の調査を始めたが、第1次大戦により、長期の調査になった。1922年に、その成果、「西太平洋の遠洋航海者」を出版した。

次に続いたのが、クロード・レヴィ・ストロースである。彼は、1908年ベルギーに生まれ、パリで学んだ。マルクス、フロイト、ソシュール、マリノフスキーの影響を受けた。後者はもちろん、「西太平洋の遠洋航海者」である。

彼は、ブラジルのインディアン諸種族の実態調査を敢行し、『親族の基本構造』(1946年)、その後『悲しき熱帯』(1955年)を書く。

『悲しき熱帯』は、旅行記であり調査でもある。彼は、ブラジルのカドゥヴェオ族とナンビクワラ族の生活を描く。後者は、裸民族である。彼はそこに、人間を見いだす。

インダスー—インドー—ヒンドゥー
殷 ———シナー———極東・日本
マヤ———メキシコ
　　＼ユカタン

彼はヨーロッパ人の視野の革命をした。ヨーロッパが世界なのではない、と。後年、原子力や戦争、アジアの文明などで啓蒙的発言を行なった。彼によって人は世界の中にいるのだということを教わるのだった。

アインシュタイン

1933年にナチに追われ、アメリカへ行き、プリンストンの高等学術研究所にいたアインシュタインは、折りに触れて書いた随筆・寄稿・演説などを集めて『晩年に思う』(Out of my Later Years)を出版した。アインシュタインが単なる天才的物理学者にすぎないのではないことが、ここで示された。「拘束力のある超国家的な世界政府を樹立することが、原子力の国際管理にたいする先決問題である。」国連ではない。(『晩年に思う』1950年(訳、講談社文庫)) 亡くなる年の1955年、ラッセル・アインシュタイン宣言に署名し、ラッセルによってパグウオッシュ会議が開かれた。

1930年、N・Yのリヴァーサイド教会は、アインシュタインを聖人として像にした。

「私は神のパズルを解くのが好きだ。」

スピノザのように宇宙や自然が神を示す。キリスト教やユダヤ教の神を信じていない。ライデン郊外レインスドルフにスピノザ記念館があり、アインシュタインは訪問した。

ニュートンとマックスウエルの統一・・・特殊相対性理論

重力を取り入れて、一般的相対性理論を作った。時間と空間の概念を壊した。

アインシュタインは、戦前にシオニズム運動を支持し、また平和運動をした。

重力場と電磁場の統一理論で1921年度のノーベル賞を受けた。彼は、ヒトラーの政権掌握とユダヤ人追放政策によって、1933年にヨーロッパを去り、アメリカのプリンストン高級研究所に移った。彼は原子力が理論的に可能だと言う。

彼は1939年にルーズヴェルト大統領あての手紙を書いて、原子力の研究を薦めた。アメリカはマンハッタン計画(=原爆計画)を作るに至った。だがアインシュタインは、原爆を知って、書いた、「原子エネルギーは人類にとっての恩恵ではなく、人類にとっての脅威である。」

アインシュタインは(6)原子力が理論的に可能だと云う。

伝記　ゼーリヒ『アインシュタインの生涯』

ソ連

スターリン論文と、彼の死

戦後、社会主義圏では、スターリン（1879-1953）(1)の時代であった。彼は東欧までも支配した。「スターリン論文」といわれる「ソ同盟における社会主義の経済的諸問題」（国民文庫版あり）は、世界でもてはやされた。現代資本主義は「最大限利潤」を求めるといふ。「最大限利潤論」は、当時彼のカリスマ的支配のせいで、圧倒的に支持された。だが考えて見ると、間の抜けた定義であった。

1953年に、ソ連首相スターリンが死んだ。これは衝撃だった。1人の死がこれほど大きかった例は余りない。1953年、東ベルリン暴動、ポーランドおよびハンガリーで政変が起きた。

スターリン時代に140万人が反国家罪になり、67万人が銃殺された。

その後、フルシチョフが跡を継ぎ、1956年に第20回党大会の秘密演説で、「スターリン批判」(2)を行ない、スターリン個人崇拜とその犯罪を非難した。これは深刻な衝撃を与えた。ポーランドやハンガリー、東ドイツの東欧諸国では動乱・政変が起こった。スターリンの犯罪は、その後、ロイ・メドヴェージェフによっても『共産主義とは何か』（三一書房）の中で研究された。

フルシチョフは、スターリン時代における国家の官僚化・硬直化を改善しようと考えた。また、政治的に失脚しても生命を失わない時代を作った。

スターリン批判が行なわれたことで、東ドイツ、ポーランドで政変が起き、その影響でハンガリーでも政変が起きた。1956年のそれはハンガリー動乱と呼ばれる。

「戦争はもう不可能になった」とフルシチョフ。

(1) スターリン、『全集』 大月書店

伝記 ドイツチャー 『スターリン』 みすず書房。

トロツキー『スターリン』合同出版

マルチネ『五つの共産主義』上下 岩波 1972

ボッフア／マルチネ『スターリン主義を語る』岩波 197x

フェイト『スターリン以後の東欧』岩波 1978

「フルシチョフ回想録」

(2) 講談社学術文庫 1977年

人工衛星

1957年に、ソ連初めて人工衛星スプートニクが成功した。その後、スプートニク2号が、ライカ犬を乗せて成功した。同じ1957年にアメリカも挑戦し、失敗した。ソ連は、ミサイル ICBM の打ち上げに成功した。一方で、ソ連のミサイル秘密基地

が爆発し、これは秘密とされた。

アメリカのスパイ機 U2 が飛び、1960 年に U2 の撃墜事件が起きた。それはアメリカの秘密偵察機だった。ソ連上空を飛び、ソ連ではミサイルが余り配備していないことを知った。それは秘密にされた。アメリカは過剰反応をしていた。1960 年ソ連でミサイルが爆発炎上した。

1961 年 4 月に、ソ連は有人飛行に成功した。飛んだのはガガーリンであった。しかし当局は彼が死ぬことを前提としていた。アメリカは、月に行くと発表した。

ユーリー・ガガーリンは、スモレンスク州の農村に 1934 年に生まれた。農民の子であった。少年時代から空にあこがれた。

1950 年代、米ソの宇宙競争が始まった。ツイホルスキーはロケット研究をしていた。1953 年、無人ルナが打ち上げられた。その後、まずライカ犬を打ち上げて実験した。犬は皆死んだ。1960 年 8 月、初めて犬が生還した。1960 年 8 月に、ロケットの発射のさいに爆発して、98 人が死んだ。これは秘密にされた。

ガガーリンは、宇宙飛行士としてエリート・パイロット 20 名の 1 人に選ばれた。訓練をした。その後 6 名の中に選ばれた。

1960 年代は宇宙時代の幕開けだった。ソ連はアメリカより先に人間を打ち上げる必要があった。1961 年 3 月、人形イヴァン・イヴァノヴィチを打ち上げた。ガガーリンは最初の宇宙飛行士に選ばれた。誰でもよかったが、労働者出身ということからであった。飛行前、彼は遺書を書いた。1961 年 4 月 12 日ポストーク 1 号が発射された。その時、自動制御であった。手動に転換する番号を教えないことにしていた。つまり死んでもしかたがない、というものだった。だが技術員イワノフスキーは、可愛そうだと思って、秘かに教えた。飛行時間 108 分。パラシュートでロシア農村に着陸した。地球を 1 回まわった。軀は固定されていた。機械は自動だった。実験台だった。人間を観察するだけだった。降りてすぐ彼は共産党中央に電話した。「生きているんだね」が最初の言葉だった。

飛行状態は撮影されていなかったもので、あとで撮影された。秘密主義だった。ソ連は成功の自信がなかった。

彼は国民英雄になった。そして世界訪問をした。ソ連の宣伝のためだった。小柄で、きさくだった。だが飛行体験をくわしく語らなかった。語れなかったのである。ガガーリンはその後、宇宙アカデミーに入った。再び飛びたいと思って、勉強した。

ゲルマン・チトフが 2 人目として飛んだ。彼はロケット内部で実験をした。

1968 年 3 月 29 日、ガガーリンの乗った訓練戦闘機ミグで、教官が心臓発作を起こし、気を失った。墜落した。ガガーリンは死んだ（クズネツォーフ『ガガーリンの死』）。

1961 年、ソ連が水爆実験をした。広島の数倍で、四国くらいの広さが全滅するものだった。フルシチョフが第 22 回ソ連共産党大会で予告した。製造にサハロフが参加した。彼は「水爆の父」と言われた。だがサハロフは実験に反対した。し

1867 トルコ撤退し、ベオグラードを手放す

大セルビア主義＝セルビアのもとに南スラブ人の統合をめざす

1918 セルビア・クロアチア・スロヴェニア王国

1927 ユーゴスラビア、と変える

1941 反ナチ・レジスタンス、チトー、一斉蜂起を呼びかける

ユーゴスラヴィア 独自のゲリラ 自らの手でナチから解放

1943 チトー、臨時政府

大戦中、スターリン、共産化を警戒し、西欧との関係悪化をきらう。チトー、亡命政権不承認と国王帰国禁止したが、スターリンは、それに反対。

1946 ソ連・ユーゴ合弁会社設立の件。ユーゴ同意、しかしソ連だけが利益をえ、そこでユーゴは拒否する。

1948 ユーゴ代表、クレムリンに呼ばれ、ユーゴ外交政策をソ連と事前に協議する協定文に署名させられる。

スターリンにアルバニアを併合せよと、だがユーゴ従わず。

1948 コミンフォルム、ユーゴ共産党を破門。ユーゴ、新社会主義思想を開拓。

1950 年法で、労働者自主管理。分権的経済、新しい社会主義の道。

ユーゴの「社会所有」＝労働者が直接管理する。労働者評議会が企業運営の中心に。「市場社会主義」

チトーは、警察は握る。多民族国家 工場自主管理。その代わり失業・出稼ぎが発生する。

国有化社会主義でない道、国有化は社会主義の1つの道であることを示した。市場社会主義をユーゴは示した。コミンフォルム追放後、非同盟中立国となる。

1955 チトーとフルシチョフが和解する。

1956 年には、ポーランド反乱が起き、ゴムルカが登場した。ベルリン動乱も起きた。

ハンガリー

ハンガリーでは、1945年に総選挙があり、小農業者党が圧倒的に勝利した。だが、ソ連と、ハンガリー共産党ラーコシの統治がされ、小農業者党への弾圧が行われた。

1948年に、社共が合同し、ハンガリー勤労者党が出来た。1949年以降、共産党が候補者の統一名簿を作るようになった。ここにもノーメンクラトゥラができるのだった。1949年、大臣ライク・ラーズローがスパイだとでっちあげられ、逮捕され、裁判がされた。1953年、スターリンの死亡により、ナジ・イムレが首相となり、改革をした。しかしラーコシにおい落とされる。

1945 総選挙 小農業者党 圧倒的勝利

ソ連と、ハンガリー共産党ラーコシの統治

小農業者党への弾圧

1948 社共合同 ハンガリー勤労者党

1949 年以降 共産党が候補者の統一名簿を作る。

1949 年 大臣ライク・ラースローのスパイでっちあげ逮捕、裁判

1953 年 ナジ・イムレ首相。改革、しかしラコシにおい落とされる。

スターリン批判が行われ、ポーランドで政変が起き、その影響でハンガリーでも政変が起きた。

1956 年 ハンガリー動乱

1956 年 10 月 22 日に、ハンガリー全国の大学および高専の学生代表者会議が開かれた。そこでセゲド (Szeged) 大学学生会の提案 14 箇条と 2 箇条の追加をし、翌日デモと大会を開くことに決議した。スターリン批判が行われ、ポーランドで政変が起き、その影響でハンガリーでも政変が起きた。

1956 年 10 月 22 日に、ハンガリー全国の大学および高専の学生代表者会議が開かれた。そこでセゲド (Szeged) 大学学生会の提案 14 箇条と 2 箇条の追加をし、翌日デモと大会を開くことに決議した。スターリン批判が行われ、ポーランドで政変が起き、その影響でハンガリーでも政変が起きた。10 月 23 日 学生と市民の大衆集会が起きた。

24 日、ナジ・イムレを首相にした。だが、同日、ソ連軍がブダペシュト市内に入る。「第 1 次介入」である。

25 日、治安警察の銃撃が起きた。ゲレーが解任され、第 1 書記にカーダールになった。26 日、ゼネストが起きた。27 日、ナジの「愛国人民政府」が作られた。

29 日、ソ連が撤退し、30 日、民衆が共産党本部を襲撃した。

11 月 4 日にソ連が軍事介入し、ナジ政権が崩壊し、ソ連に連行された。

その後、戦闘が 1 カ月続き、25 万が逃亡した。カーダール親ソ政権が作られた。この年 3 千人が死んだ。

1958 年、ナジ裁判がされ、処刑される。

1956 年ブタペスト 3 千人の死者、20 万人の亡命。

ノーメンクラトゥーラ

ヴォスレンスキーは、『ノーメンクラトゥーラ』（中央公論）で、大胆な意見を吐いた。ソ連で、ノーメンクラトゥーラという、新しい支配階級が国を支配しているというのである。これは、すでにトロツキーが『裏切られた革命』で、ミロヴァン・ジラスが『新しい階級』で指摘しているものであるが、ヴォスレンスキーは、ソ連について具体的で体系的な叙述を行った。

ノーメンクラトゥーラとは、現存社会主義国で各級党機関の権限を規定したリストそして、その職に就いているか、就ける、党员エリートの集合体である。つまり、新しい支配階級である。

彼によれば、こうである。ソ連では、支配・被支配関係がある。ノーメンクラト

ウーラは、私有財産は持たないが、生産手段を共同で所有している。権力を基盤とし、それは他者に譲り渡さない。事実上、世襲で、立身出世主義を持っている。搾取階級である。また、ソ連は、政府と党の2重構造なので、きわめて不生産的である。社会主義社会には、必然的に新しい支配階級が成立する。レーニンの職業革命家の党が祖父で、スターリンの出世主義者集団が父である。

アメリカの世界政治

朝鮮戦争の始まる前、1950年2月、マッカーシー議員が爆弾演説をして、赤狩りを呼びかけた。平和主義者を共産主義者だとレッテルを貼って、3月から赤狩りが始まった。1952年に、silent映画の最良の芸術家チャップリンがアメリカを去ってイギリスに、つまり追放された。

ローゼンバーグ夫妻が、ロシアのスパイ容疑で、7月と8月に逮捕され、無実の罪で裁判にかけられ、死刑判決を受けた。1953年に電気椅子で処刑された。1954年末までマッカーシズムの時代が続いた。だがマッカーシズムが終わっても赤狩りは続いた。

アメリカは世界制覇の道を歩んだ。資本主義諸国つまり西ヨーロッパと日本を支配し、各国に軍事基地を置いた。アジアとラテン・アメリカに新植民地主義的支配を行なった。アメリカは世界の憲兵と言われた。そのために国内を非民主化する必要があった。

ビキニ環礁で核実験がされ、中部太平洋で60日以上の実験がされた。ソ連も原爆を持ち、軍拡競争が始まった。1952年にソ連は、第2回実験に成功し、量産に入った。こうして米は、原爆独占にやぶれた。だから戦術用小型核兵器と水爆製造をねらうのであった。

1952年11月1日に、アメリカは、エニウェトク環礁で、世界最初の水爆実験を行なったと、発表した。イギリスは、1952年10月2日に原爆実験をした。

52 アイゼンハワーが大統領に当選、1953年1月20日から軍人・アイゼンハワーが大統領になる。

次いで1953年8月12日に、ソ連は初の水爆実験を行なった。乾式水爆であった。

アメリカではその後1954年3月1日、ビキニ乾式水爆実験がされ、日本のまぐろ漁船、第5福龍丸の久保山氏が被爆して死亡し、原水爆の危険性が認識され始めた。

当時、核抑止力が信じられていた。核武装していれば戦争を抑止できるというもので、これで軍拡が始まった。ソ連首相となるフルシチョフは、「戦争はもう不可能になった」と言うことになる。

アメリカでは、1951年12月29日、アイダホ州アーコ国立原子炉試験場で、原子力発電が、非実用であるが始まった。1954年6月27日、ソ連は、実用発電所を

作った。1956年にイギリスは商業的発電所を作った。こうして原始力発電がはじまった。アメリカでは、無数の核実験を、国内でも行なった。ユタ州でロケをした映画『征服者』の一团は、通常の3倍の癌発生率を経験した。

原爆の技術は発展し、それから、一方では、地上でなく、地下核実験が行われるようになった。放射能汚染は、5年の潜伏期をへて、ガンになる。日本の児童のガン死亡率は、広島5年後から急成長した。1957年に、日本初めて東海村原発が完成した。

スターリン批判

ソ連ではその後、フルシチョフが跡を継ぎ、1956年に第20回党大会の秘密演説で、「スターリン批判」（講談社学術文庫）を行ない、スターリン個人崇拜とその犯罪を非難した。これは深刻な衝撃を与えた。ポーランドやハンガリー、東ドイツの東欧諸国では動乱・政変が起こった。スターリンの犯罪は、その後、ロイ・メドヴェージェフによっても『共産主義とは何か』（三一書房）の中で研究された。

フルシチョフは、スターリン時代における国家の官僚化・硬直化を改善しようと考えた。また、政治的に失脚しても生命を失わない時代を作った。スターリン批判が行なわれたことで、東ドイツ、ポーランドで政変が起き、その影響でハンガリーでも政変が起きた。1956年のそれはハンガリー動乱と呼ばれる。

1956年には、ポーランド反乱が起き、ゴムルカが登場した。ベルリン動乱も起きた。

フルシチョフ失脚

フルシチョフは、スターリン時代における国家の官僚化・硬直化を改善しようと考えた。また、政治的に失脚しても生命を失わない時代を作った。彼は、党の農工2部門分割と、幹部職の一定任期制を考えた。（藤村信、説）しかしそれは、ソ連のノーメンクラトゥーラ（＝支配階級）の利害を否定するものであったので、彼は64年にブレジネフによって失脚させられた。理由は、農業不振とされた。しかしソ連は、常に農業は不振である。

核実験・原発

フランスが、1960年12月13日に核保有国になった。1958年8月でアメリカの大気中の核実験は一応終わった。1961年から地下核実験の時代が始まった。1963年8月に部分核停条約が結ばれ、地上・大気核実験の停止された。これに米ソが協定した。中国は反対した。日本共産党も反対したが、あやまりであったと言う。1963年8月に、日本は原子力発電を実験した。1965年5月に、東海発電所が、第1号

商業用を開始した。

ネバダ核実験(アメリカ、ユタ州南西部 32 年間調査)

A 1944 50

B 51 58

C 59 75

15 歳以下の小児の、白血病をはじめ小児癌の発生率は、B は A C の 3 倍。

ネバダで行われた大気中核実験の回数、公表されたもの

1951 11

52 8

53 11

55 16

56 1

57 26

58 24

ユタ州でロケをした映画『征服者』の一团は、通常の 3 倍の癌発生率となった。

その後、ビキニで原爆の実験がされている。技術は発展し、それから、地上でなく、地下核実験が行われるようになった。

1954・3・1 ビキニ乾式水爆実験。日本まぐろ漁船、第 5 福龍丸 久保山氏死亡。

1951・12・29 アイダホ州アーコ国立原子炉試験場。原子力発電、非実用。

1953・1・20 からアイゼンハワーが大統領になる。

1958 年 8 月でアメリカの大気中の核実験は一応終わった。

W. W. ロストウ『経済成長の諸段階』

W. W. ロストウは、『経済成長の諸段階』 The Stages of Economic Growth, 1960 年 (ダイヤモンド社)、を書き、その副題----一つの非共産主義宣言----は、世界を刺激した。この書は、近・現代世界経済史の理論であり、いわゆる近代化論の一つである。ロストウは、社会は相互作用の有機体であると考えている。そしてマルクスの一義的理解に反対する、つまり経済的な力や動機は歴史の過程のただ一つの圧倒的な決定要因ではないとする。

本書の内容は、アメリカ人特有なプラグマティックなものであり、彼は近現代経済の歴史を 5 つの時期に区分する。

1 伝統的社会。2 離陸のための先行条件期。3 離陸期。4 成熟への前進。5 高度大衆消費時代、である。

1 伝統的社会は、主に農業社会で、政治権力は土地所有者の手にあった。

2 離陸のための先行条件期は、1と3の過渡期であり、例として17世紀終りから18世紀初めの西ヨーロッパである。世界市場の拡大と国際競争が力を与えた。経済進歩が可能だという考えが広がった。新しい型の企業家精神をもった人々が現れた。中央集権的国民国家が建設された。

3 離陸 (Take off) は、普通という産業革命にあたる。着実な成長にたいする古い妨害物や抵抗が最終的に克服された期間である。主として技術が近因でおこり、投資率が国民所得の5%から10%またはそれ以上に上昇する。例えば、イギリスは1783年以後の20年間に、フランスとアメリカは1860年までの数十年間に、ドイツは19世紀の第3・四半期に、日本は19世紀の第4・四半期に、ロシアとカナダは1914年以前の25年間にあった。1950年代にインドと中国が離陸を開始している。

4 成熟は、常に成長する経済が、近代的技術を経済活動の全戦線にわたっておし広めてゆく、時期である。離陸が始まってから60年前後かかって成熟期になる。国民所得の10ないし20%が投資され、産出高が人口増加を上回る。

5 高度大衆消費時代では、主導部門が耐久消費財とサービスに移って行く。決定的要因は、安い大衆自動車と、それが社会に与えた革命的影響であった。西ヨーロッパでは福祉国家を選んだ。アメリカは1920年代と1946-56年、西ヨーロッパと日本は1950年代、ソ連は技術的には入れそうだ。

以上、ロストウは、マルクス主義---彼は、それをしっかり読んでいない---に反対して経済史理論を作り上げたが、かなり平板で常識的である。ロストウが折角広い歴史的展望を示したのに、近代経済学者たちは、経済史に興味がなかったので、だんだん見捨てた。

アメリカの政治

1961年に、米ソ対立により東西ベルリンの間にベルリンの壁が作られた。170万人がそれまで西ベルリンへ逃亡した。

1950年代から始まった米ソの宇宙開発競争は、60年代に入って本格的になった。

アメリカ大統領・共和党アイゼンハワーが、退任演説で、軍産複合体の危険を述べたことは、皮肉なことであった。彼は元帥であった。それほどアメリカは軍国主義に飲み込まれていた。

彼の後、民主党のケネディが1960年に大統領選で当選し、1961年1月に就任式を行なった。ケネディは就任演説で、アメリカの武力でおさえる平和を否定したが、全く実現しなかった。若い彼は、「ニュー・フロンティア精神」を掲げて、アメリカ人を活気づけた。さわやかな弁舌、フレッシュさで受けた。だが1961年4

月、キューバのカストロを倒すために、CIA をキューバに上陸させた。これは失敗に終わった。また 5 月に、ヴェトナムに軍団を派遣するよう極秘命令を出した。彼の政治は矛盾していた。

1961 年、ケネディがライシャワーを日本大使に任命し、それを断わりに夫妻で行った時、ケネディの机に日本再占領の計画があった。当時のアメリカ人はまだそういう意識があった。

1962 年、映画スター、マリリン・モンローが怪死した。ここにはケネディ兄弟が関与していた。(9)

フルシチョフがアメリカへ非公式招待された。

1962 年 キューバ危機が起きたが、水爆の力が背景にあった。

1962 年 10 月 キューバ危機が起きた。キューバにミサイル基地をソ連が建設しはじめた件である。ケネディとフルシチョフが直接電話で交渉し、核戦争は危機一発であった。

ケネディは、鉄鋼値上げに反対していた。1963 年 11 月 22 日、ダラスでケネディ大統領が、リー・ハーヴェイ・オズワルトに暗殺された。世界にショックが駆け巡った。だがその暗殺者とされた彼が、J. ルビーにすぐ殺された。そのルビーもすぐサーハン・サーハンに殺された。1968 年、弟の司法長官、大統領候補ロバート・ケネディも射殺された。アメリカの恥部を世界は知らされたのである。

ケネディ時代、アメリカは自信をもっていた。アメリカは 1960 年代から、経済的にヨーロッパ支配を狙った。随時、ヨーロッパの重要企業を買収した。こうして多国籍企業が登場した。その投資量は莫大なものであり、そのため、アメリカは資本収支が赤字になる 1 原因を作った。その上、世界の憲兵としてのアメリカは、世界に軍事基地網を作り、広げた。こうしてアメリカの資本輸出は、途方もないものになり、アメリカ経済にかげりを生んだのである。

『マリリン・モンローの真実』

ジョン・エドガー・フーヴァー John Edgar Hoover

フーヴァーは、1895 年に生まれた。母の願いで名門高校に入った。母が軽蔑していた夫＝父が死んだ。そこでやむなくジョージ・ワシントン大学夜間部に学び、1916 年に卒業した。1917 年に、司法省に勤務した。正義をまもりたい、と。勤めた邦捜査局は、小さくてひどい局だった。恋人を母の反対で諦めた。私生活を母に支配された。1919 年当時の司法長官は、パーマーだった。大変な調べをする。共産党を危険だと見た。危険思想の持ち主を国外退去できる、と。当時、共産主義・アナキスト 6 万人だ、と。パーマーは、弾圧する、国外退去にする。フーヴァーは 29 才で長官代理になる。パーマーの自宅を爆発される事件が起きた。フーヴァーは、1924 年に検察局長になる。年俵が 4 千ドルだった。彼は結婚しない。そして働く。母が 1 番だ、と。1921 年、ハーディングが大統領となった。1922 年の禁酒法の時代に、フーヴァーは酒を飲まない。ファイルの名人、と。ハーディングが死去し、

クーリッジ大統領となった。1933年に、改組がなされ、1935年に、FBIに改名された。そこに移った。改革をした。悪徳捜査官を追放削減した。対ギャングの闘いをした。1938年、母が死んだ。戦争で、ドイツ・日本人の情報を集めた。反共の時代だった。1940年、大統領から、武器貸与禁止法に反対する議員の情報を求められた。1941年、パール・ハーバー攻撃を知らず、ローズヴェルトに叱られた。盗聴の必要を、と大統領から言われた。そこで盗聴機をしかけ始めた。絶対権限をもらう。大統領にも。政治家の個人的情報を集める。海軍少佐ジャックが、スパイ女性・インガ・アルバッドに秘密をもらしていること察知した。かれを歴代大統領が恐れた。秘密ファイルを持つとされる。それをフーヴァーだけが見られる、と。大統領夫人を嫌う。1945年 大統領が死去した。トルーマン時代に、フーバーは、盗聴を始める。ww2が終わった。トルーマン、プライバシーの侵害はしない、と。CIAの長官はダレスになる。反共情報を求めるフーバー。戦後、共産主義を敵に、1950年、赤狩りをする。マッカーシー議員と組んだ。フーバーは、マッカーシーに最高機密を渡した。チャップリン、ハンフリー・ボガードらを追った。FBIが巨大になる。FBIは、マフィアがもういないと見る、とフーバー。副長官トールソンだけを信頼する。フーヴァーは生涯独身で、忠誠心を要求する。アイゼンハワー、フーバーの調査は低俗だと。しかし閣僚のファイルを出せと。そしてマッカーシーを非難。フーバー、マッカーシーの名を消せと命令。1960年、ケネディ、神と言う。ケネディを嫌った。罷免されやしないかと。ケネディは、リベラルで、しかし女好きだった。弟ロバートが司法長官になった。人種多様化を望む。ケネディに告げた。かつてのジャックではないか、と。ケネディ、フーヴァーを罷免できず。フーヴァーは、ケネディの女性関係を調べる。愛人がいた。ケネディは、カトリックなのに、離婚していて、婚約破棄をしていた。愛人もいた。情報で、大統領も操れる。フーヴァーはホモだと、噂される。彼は長官の座を奪われることを恐れた。ケネディは、フーヴァーをコントロールするため、弟ロバートを司法長官に任命した。フーヴァーが、黒人差別と女性蔑視を、ロバートに指摘される。フーバーは、キングを共産主義者と。フーバーは、ケネディとキングを憎む。ゴチゴチの規律屋で、人種主義者だった。ケネディ兄弟とモンローの関係の情報をさぐる。62年、モンローが怪死した。弱味を握った人としかつき合わない。フーヴァーとケネディの闘い。63年、ケネディが暗殺された。暗殺の翌日フーヴァーは、競馬を楽しんだ。彼はケネディ暗殺調査ウオーレン委員会に協力しなかった。ロバートは、FBIの縮小を考えた。ロバートは殺されるとよい、とフーヴァーは発言した。68年、ロバートが、暗殺さる。定年になり、やめさせられないようにした。ジョンソン大統領時代。ギャラガー議員、フーヴァーはやめよという、と、フーヴァーは、脱税でギャラガー議員をやめさせる。ジョンソンは、1年長官をさせると。フーヴァーは、ニクソンと争う。長官をおろせの声あがる。ニクソンは、77才のフーバーをやめさせようとする。フーバー固執し、「FBI長官は私のいのち」と言う。ニクソンは、説得された。反共の度合が少しでも弱い役人、赤ジャケツの役人をやめさせる。フーヴァーは、盗聴機を

ホワイト・ハウスにしかける。その後、1972年、フーヴァーが急死した。オフィスで。48年間 FBI（連邦捜査局）長官だった。37年間君臨した。一生独身だった。秘密のファイルを持っていたとされる。フーヴァーのしかけさせた盗聴機のテープでニクソンの喋りが発覚し、ニクソンは辞任する。フーヴァーは暗殺されたかもしれない。フーヴァーはホモという説が再び出る。マフィアに握られていた。マフィア退治をしなくなったフーヴァー。アメリカ市民の膨大なファイルを残した。

黒人差別

アメリカでは黒人差別があった。これに反対して公民権運動が起きた。

マーチン・ルーサー・キング牧師（King, 1929-1968）は(10)、1929年、ジョージア州アトランタに、牧師の子として生まれた。勉強家だった。彼は黒人男子の大学に入り、牧師資格を与えられた。そしてペンシルヴァニアの神学校へゆく。そこは黒人が少なかった。彼は、ソロー、ガンジーに感激した。卒業してボストン大学院に行った。そこで声楽学生コレッタと結婚した。北は自由なので、北にとどまりたいが、彼は、1954年に南部のモントゴメリー（アラバマ州）の教会に勤めた。リンカーン大統領が当選した時、南部6州が連邦離脱し、代表がここに集まって、南部同盟政府を作った所だった。当時の南部大統領はジェファースン・デーヴィスだった。南部は差別が大きい。アメリカ南部では、1964年に公民権法が制定されるまで、生活のあらゆる面で、水のみ場まで、white only と colored に厳しく分かれていた。Kingの生まれたジョージア州は、南部で、特に南部的 deep south であった。南北戦争後、南部は奴隷制ではなくなったが、反動的だった。K.K.K. も生まれた。黒人はリンチで殺された。南部に黒人の90%が住んでいた。1906年にアトランタの人種暴動が起きている。1915年にK.K.K. 復興の儀式が行なわれ、1920代では団員が500万人であった。

モントゴメリーで、1955年12月、ローザ・パークスがバスで白人に籍を譲らなかつたので、逮捕された。彼女が座っていたのは時代精神だった。彼女は裁判にかけられた。黒人指導者が教会に集まった。そこでバス・ボイコットを考えた。12月5日、黒人はバスに乗らなかつた。白人は暴動を始めた。Kingは、モントゴメリー改良協会の会長に選ばれた。そして集まった黒人に演説した、「汝の敵を愛せよ」と。このボイコットは、1年続いた。キングは最後まで非暴力を貫いた。最高裁は、バスでの人種隔離を違憲とした。1年後、命令書を出した。しかし市当局は反対した。バスに乗り込み始めた黒人に、白人は暴力をふるった。黒人側は、永続組織、南部キリスト教指導者会議を作った。Kingはその議長になった。

1954年に最高裁は、公立学校に、人種分離教育を憲法違反と認めていた。1956年、黒人女子学生がアラバマ大学へ入学しようとして、白人たちが抵抗し、暴動になった。1957年、黒人9人が高校に入学しようとして、白人暴徒に追い返された。州知事も拒否した。アイゼンハワー大統領は、黒人に理解はなかつたが、やむなく空挺師団を出して9人の黒人学生を守った。

King は、1959 年、インドに招待されて滞在している。1960 年に、アトランタへ戻った。1960 年に King は、全米各地から ” 祈りの巡礼 ” をワシントンに向かっておこなった。3 万 7 千人が集まり、King は「黒人に選挙権を与えよ」と演説する。彼は救世主のように見えた。King は雄弁家であった。

1960 年、学生非暴力調整委員会が組織された。南部のノースカロライナ州で、ロバート・ウィリアムズが、白人の暴力に暴力で立ち上がろうとした。学校でも教会でも黒人の入るのは、進んでいなかった。1962 年 黒人学生メレディスが最高裁の判決によってミシシッピ大学入学を認められた。だが、知事、大学、州民が反対した。キャンパスで戦闘、連邦軍が守った。

1963 は、奴隷解放 100 年であった。レストラン・シット・インがなされた。アラバマ州バーミングハムで闘い、6 週間のデモが行なわれ、逮捕者が出た。ノースカロライナ州の学生が、白人だけのランチ・カウンターに座り込みを始めた。白人達がいやがらせをしたが、非暴力で耐えた。これが広がった。学生非暴力調整委ができ、白人リベラルとの共闘を考えていた。長距離バスでの差別撤廃運動が始まった。バスでシット・イン（座り込み）がされた。King は逮捕された。警察の暴力が襲った。King は、『獄中からの手紙』をかく。

1963 年に、キングは、20 万人でワシントンへに大行進をする。彼は、ここで名演説をする。「肌の色でなく人格で判断されるように」「I have a dream.」である。We shall overcome の歌が歌われる。

ケネディは、1963 年から黒人問題に理解を示した。生活上の差別撤廃のために、公民権法案を議会に提出した。ケネディ兄弟は黒人問題に取り組んだ。黒人は、ケネディに投票するようになる。1963 年 11 月、ケネディは暗殺された。南部へ遊説の途中であった。次のジョンソン大統領は、法案を実現した。1964 年 7 月だった。しかし選挙権を含まなかった。

1964 年、キングにノーベル平和賞が与えられた。1964 年 4 月にニューヨークで黒人暴動が起きた。

1964 年 8 月 6 日の新しい公民権法は、黒人の選挙権を守った。しかし 1964 年にアラバマ州セルマで、投票権妨害の選挙妨害事件が起きた。黒人青年が警官に殺された。抗議デモが計画されたが、弾圧された。

1964 年には、ロス暴動が起き、警察官の暴行で死者 34 人が出た。King は、大都市のスラムで非暴力直接行動が通用しないことを知る。そこで King は、シカゴに住んでみた。だが白人に抵抗される。

1964 年、ミシシッピ州で公民権運動の学生 2 人と黒人が、保安官らに射殺された。64 年ー 66 年は、長い暑い夏と言われた。黒人学生だったメレディスの 1 人行進が試みられ、彼は撃たれた。代わって 5 つの公民権団体がみな行進する。

このころ、ストークリー・カーマイケルの Black Power 思想がでてくる。白人リベラルとの共闘の批判、非暴力は不適當だ、キング批判、であった。マルコム X の影響である。そしてアメリカの学生運動は、世界に広がった。

1965年、マルコムXが暗殺された。マルコムXは、Kingのように非暴力で白人の良心だけに訴えるだけでは解決しない、と考えていた。マルコムXは、1935年に、ネブラスカ州オハマで生まれた。父は牧師で、父、おじ、が皆、白人に殺された。イライジャ・ムハマドの創立したブラック・モスリム（黒人回教団）に所属した。白人憎悪になり、ムハマドから離れ、新しい政治組織を作った。白人からの分離独立を目指した。1965年2月21日、ハーレムで演説中に殺された。(11)

1966年、黒人最初の閣僚が誕生した。1966年7月、シカゴ・デモが、1967年、デトロイト暴動が起きた。

Kingは、1966年からベトナム戦争反対表明をするようになった。力の分散を恐れて黒人リーダーは反戦に反対していた。1967年に、アメリカでベトナム反戦運動がピークになった。Kingはベトナム反戦大会に参加した。アメリカでは、ベトナム戦争に対して1965年には賛成が極く高かった。67年には賛成と反対が交錯した。68年に反対が上回った。ジョンソンは大統領選に不出馬を決めた。

Kingは、黒人だけでなく貧者の代表3000人を集める計画を、4月に行なうことを決定した。メンフィスで、黒人清掃労働者への差別がひどいので、スト、デモが起き、弾圧された。このころ過激グループが登場した。

1968年4月4日、King牧師は、メンフィスのロレーン・モテルで暗殺された。銃で撃たれ、死んだのだ。39才であった。マルコムxと同じ年だった。全米で暴動の火の手があがった。ワシントンでも暴動が起きた。2カ月で犯人があがったが、背後関係は分からないとされた。アメリカは病んでいる、と世界の人が思った。CIAはKingの行動を全部知っていた。1968年、公民権法が通過した。

(1) アレックス・ヘイリー『マルコムX自伝』河出書房;マルコムX『自伝』

猿谷要『アメリカ黒人解放史』サイマル出版;”『キング牧師とその時代』NHKブックス;キング『自由への大いなる歩み』岩波;ローマック『黒人革命』みすず;ジン『民衆のアメリカ史』TBSブリタニカ

レイチェル・カーソン『沈黙の春』1962

アメリカの女性生物学者カーソン(1907-1964)は言う。

現代の大量生産体制を基礎として、殺虫剤、除草剤が生産され、使用されて、環境が汚染される、池、川、井戸、地下水、そして土壌、森や林、海岸である。これら化学薬品で、人間、家畜、小動物、鳥、魚が殺傷される。これら殺虫剤は段々強力になり、大量に散布されるが、虫は抵抗力をもち、段々効かなくなる。

彼女は、この環境生態を科学的に解きあかし、人間の環境汚染を警告した。彼女は言う。「私たちの住んでいる地球は、自分たち人間だけのものではない。」「<自然の征服>とは、人間が得意になって考えだした勝手な文句にすぎない。」自然

の征服とは F. ベーコン以来の考えである。

アルジェリア戦争

1830 年にフランスはアルジェリアに武力侵略をし、それ以来、植民地にしていった。アルジェリアの都会では、アルジェリア人とヨーロッパ人とは差別されていた。アルジェリア人は貧困と失業に苦しんでいた。農村は貧困で飢餓状態にあり、ヨーロッパ人地主が支配していた。アルジェリア人には教育も与えられていなかった。

1945 年 8 月に対独戦勝が祝われた。しかしアルジェリアでフランス植民地主義者が人民を弾圧した。コンスタンチヌ県では 4 万 5 千人のアルジェリア人が殺された。それ以降アルジェリア人民・農民はフランスからの独立を望んだ。

1954 年には、フランスの植民地アルジェリアで、「アルジェリア解放戦線」によるアルジェリア独立戦争が起きた。

1954 年 11 月アルジェリア革命が勃発した。アルジェリア人は人間としての尊厳を取り戻そうとした。フランス政府は、現地の外人部隊＝庸兵では足りず、アルジェリアに 50 万の正規軍＝鎮圧軍を派遣した。飛行機・戦車・大砲・ナパーム弾を送り、全住民が攻撃された。拷問・集団殺りく・居住禁止・暗殺を繰り返した。ナチスや日本軍の残虐さに勝るとも劣らなかった。フランス軍部は、かつて大戦後、植民地で戦闘を行い、失敗を続けたが、それが歴史の必然とは思わず、政府の軟弱政策のせいだと考え、アルジェリアにしがみついた。

1958 年 ド・ゴール政権

1960 年 アルジェの暴動 8 年間の戦い。

南アフリカのアパルトヘイト

南ア共和国は、白人が人口の 5 分の 1 を占め、1948 年以来、オランダ系白人の国民党が政権を握り続けている。アフリカの流れをよそに、1948 年に通行証法、1949 年に背徳禁止法（つまり黒人が白人と結婚すると 8 年の刑）、1953 年にパンツァー教育法（つまり黒人と白人を完全に分離して教育する）、1959 年にパンツァー自治法（つまり黒人を指定地域に押し込める）という人種隔離＝アパルトヘイトの法律を次々と制定した。

アジアで

アウン・サン

アウン・サンは、ビルマ建国の英雄とされる。イギリスに支配されていたビルマの独立運動のために、日本に潜伏した。日本名も持った。日本に軍事援助を求めたのだった。彼は、対イギリス軍事革命を狙った。海南島で彼等 30 人の若者が軍事訓練を行なった。南機関の南大佐と結び付いた。日本軍とともにビルマ解放に参加し、ビルマ独立義勇軍を作った。1941 年に日本軍とともにラングーンを占拠した。

だが日本は彼らを裏切り、ビルマを全面占領した。1945年3月、彼は日本軍に反旗をひるがえし、日本の敗戦で、イギリスと交渉し、ビルマ独立をかちとった。アウン・サンは国軍の創設者といわれ、政治家になった。だが暗殺された。

ベトナム

仏領インドシナでは、1941年にヴェトナム独立同盟（＝ヴェトミン）ができ、日本軍に抵抗した。日本軍の降伏後の1946年に、ヴェトナム民主共和国が作られ、ホー・チミンが大統領となった。だがフランスはそれを認めず、インドシナ戦争を始めた。それは1946年から54年（休戦条約）まで続き、この結果フランスはとうとうヴェトナムを手離した。だが北緯17度線を境に軍事境界線が敷かれた。またフランスに代わってアメリカが介入し、1955年に南ヴェトナムを作る。

こうしてすべてではないが、ほとんどのアジア諸国は、1940年代に、十分とは言えないまでも政治的独立をかちとった。

ベトナムはフランスの植民地だった。ホーチミンが中国から帰った。だが、かつての支配国フランスがアジアにいた。ベトミン（ベトナム民主同盟）が結成された。1946年に、ホー・チミン(1)は、独立交渉のため、フランスへ行くが、交渉は決裂した。1946年、フランス・ベトナム戦争が始まり、ベトナムは首都ハノイを奪われた。ベトミンは中国から武装援助をしてもらい、アメリカはフランスを援助した。だが1954年、ディエンビエンフーの戦いで、3月、ホーは、攻撃命令をし、5月に陥落させた。ベトナムが勝利した。初めてのアジアの勝利であった。1946年以來のインドシナ戦争は、1954年に休戦条約が結ばれて、フランスのインドシナ支配が終った。だが北緯17度線を境に、軍事境界線が敷かれた。またフランスに代わってアメリカが介入し、1955年に南ヴェトナムを作る。

ヴェトナム戦争

1960年、ヴェトナム戦争が始まり、ヴェトナムでは米兵むけ売春婦、ストリップパーが激増した。その後米兵の性道徳感は地に落ちていった。とてつもない数でホモがふえ、そしてエイズ伝播でもとになった。

ベトナム戦争によって超大国＝アメリカがゆらいだ。国内で価値観が分裂した。ベトナム反戦運動が起き、徴兵忌避がなされた。1967年の反戦運動は高まった。10月21日にピークを迎え、国際反戦デーとなる。

カシアス・クレイは、1960年にローマ・オリンピック金メダルをとり、その後ヘヴィー級チャンピオンとなった。彼は無敗を続けた。だが、ベトナム戦争の徴兵を拒否し、有罪となった。チャンピオンを剥奪された。だが彼は、名をモハメド・アリと変えた。

ジョンソン対ロバート・ケネディの選挙は、ヴェトナム問題が争点となった。ジョンソンは辞任した。共和党ニクソンが大統領となった。ニクソンは「名誉ある撤

退」を望んだ。軍事費によってアメリカ経済が傾いたからだった。撤退が始動した。

大衆的には、エルビス・プレスリーは、新しいアメリカの音楽の1つの旗手になった。ロカ・ビリーが登場した。一方でヒッピーが世界的に登場した。

南ヴェトナム民族解放戦線が60年12月に結成された。これは反地主闘争であった。

かつて1954年のジュネーブ協定では、南北ヴェトナムを、北緯17度線を一時的な境界とし、1956年7月に南北統一選挙を行うことを決めた。しかし選挙は行われなかった。北＝ヴェトナム民主共和国は、ホー・チミン政権で、南＝ヴェトナム共和国は、ゴ・ディン・ジエム政権であった。ジエム大統領はカトリックであった。仏教徒が弾圧された。北ベトナムへのアメリカの反共防波堤となった。弟夫妻は秘密警察を使って民衆を弾圧した。サイゴンでは反戦運動を仏教徒＝僧が指導した。

南ベトナム、ゴ大統領がアメリカの援助をもらった。

1962年2月から アメリカの北ヴェトナム爆撃が始まった。

田舎へゆくほど戦争が激しくなる

1963年、サイゴン政権に対して反対運動がおきる。南の政府に反対して僧侶の焼身自殺が起きた。同年11月、ジエム政権が軍事クーデターで倒れた。ゴ兄弟は殺された。支援していたアメリカはこれに介入した。軍部の臨時政権ができた。1964年に、アメリカはトンキン湾事件を起こした。これはアメリカのでっちあげだった。領海侵犯だと言った。アメリカ大使館テロに対して、1965年、ジョンソン大統領が北爆を敢行する。海兵隊がダナンに上陸する。戦争拡大の白紙委任状をえた。1966年には、北の首都ハノイ爆撃をする。1967年に、アメリカ海兵隊がメコン・デルタへ上陸した。

解放戦線は68年1月テト＝旧正月攻勢をかけ、アメリカ大使館占拠などをした。1968年には、ソナム村虐殺事件が起こされた。アメリカ軍が南ベトナムに、無差別爆撃あるいは化学爆弾を投下したが、これはベトナムを武器の実験場と思って試みた非人道的なものである。3月に、北爆が部分的に停止され、5月に和平会談が開始された。

1968年ニクソン大統領は、軍事費増大のため、南ベトナム軍に肩代りをさせようとした。少し撤退を始めた。10月には、北爆が全面停止となった。1969年、拡大パリ会議が行われ、南ヴェトナム臨時革命政府が成立した。ニクソン大統領は、ヴェトナム戦争を終らせると約束して、1969年に大統領に当選しながら、翌年、北爆を大々的に再開した。69年、名誉ある平和をえるまで戦争を続ける、と。69年アメリカで大平和行進がおこなわれる。70年アメリカはカンボジアに侵攻した。1973年に、米軍は、敗北を認めて帰り、和平協定がなった。74年ニクソンが辞任した。1975年4月26日、首都サイゴンが総攻撃され、陥落した。4月30日に戦争が終った。

アメリカは、ドミノ理論、つまりベトナムが社会主義になれば他の国もドミノが

倒れるようにして社会主義になるだろうという主張をした。これは根も葉もない作り事であった。それどころか、アメリカが戦争をしかけることで、ベトナムを社会主義においやったのである。またアメリカは、自由主義を守るといって、戦争を始めた。ベトナム人民の自由を守らない自由主義であった。

超大国アメリカの初めての挫折だった。

アメリカの北爆にたいして、ホー・チミンは、しっかり政治を指導し、またボー・グエン・ザップ将軍は、新戦術で闘った。小銃で爆撃機を墜落させる戦術であった。

ベトコンとはヴェトナム共産党をさした、しかし当時その党はなかった。人民革命党に近い。だから、ベトコンはかいらい軍という言葉と同じである。

南ヴェトナム解放戦線＝人民革命党＋民主党＋急進社会党＋その他＋個人の集まりで、12才以上で兵士に志願できる。議長グエン・フー・ト。解放戦線の武装勢力は、正規軍、地方軍、ゲリラがある。

ヴェトナム人口は3000万。解放区、競合区、政府側地区（都市と幹線道路だけ）に別れた。

解放戦線のテロ対象は、1 米・韓兵、2 政府軍、3 民間スパイ、であった。政府の役人はワイロをとった。戦争で日本が大儲けをした。自動車、LSDが売れ、輸送、印刷で繁盛した。

米軍が民家を破壊して火をつける、財・コメを略奪する。B52やヘリコプターの無差別銃爆撃がされた。

北は、ファン・バンドン首相、グエン・ドイ・チン外相、ボー・グエン・ザップ将軍＝国防相。

米は、ジョンソン大統領、ウエストモーランド南ヴェトナム派遣軍総司令官。

南は、グエン・バン・チュー グエン・カオ・キ

米大統領選でハンフリーが選ばれていたら、米はヴェトナムから抜け出ていただろうとハリマン。

1968 または 69、1.20 ニクソン大統領はキッシンジャーを指名した。

アメリカとベトナムが国交を回復するのに、その後20年かかった。

参) 本多『戦場の村』朝日新聞社 1968年

バーチェット『ベトナム解放の戦い』時事通信社 1976年

(1)ホーチミン Ho Chi Minh, 1890-1969

伝記 チャールズ・フェン『ホー・チ・ミン伝』上・下 岩波新書

性と戦争

1948年に、生物学者アルフレッド・キンゼイが「男性の性行為」を出版した。その後1953年に「女性の性行為」を出した。2書とも大いに売れ、ピューリタンのアメリカ道徳感に崩れ始めた。アメリカの性道徳は、まず第2次大戦をきっかけに崩れ始めたが、ベトナム戦争は、それをいっそうおし進めた。ホモが大量に増えた。そしてエイズが蔓延した。今では、アメリカの1部の社会では、異常セックス、エロチシズムが氾濫している。

戦争は、性道徳を墮落させずにはおかない。つまり大量殺人の中で、人間感覚がマヒするからである。

フロム

エーリッヒ・フロム (Erich Fromm) は、1900年にドイツのフランクフルトに生まれた。ハイデルベルク、フランクフルトの大学で、社会学・心理学を専攻し、1921~31年、フランクフルト社会調査研究所に勤務した。1925年以降は、精神分析にも携わった。精神分析的方法を社会現象に適用する新フロイト主義の立場にたち、社会心理学に重要な位置を占めた。彼もナチに追われて、パリへ移り、1934年にアメリカに亡命した。1940年に帰化し、ベントン大学教授をへて、1952年にメキシコ大学教授となり、人間主義的社会主義を主張した。(4)

著書は、『自由からの逃走』(1941年出版)(訳:東京創元社)である。彼は同書で言う。「全体主義の運動は、人類が現代世界で獲得した自由から逃れたいという根深い渴望に訴えるものであったということ、すなわち、現代人は、中世の束縛から自由になったものの、理性と愛にもとづく意義のある生活を築きあげるほど自由ではないので、指導者や民族や、国家に服従することに新しい安全を求めた。」(5)

(4) 作品、『人間における自由』東京創元社；『疑惑と行動』同；『夢の精神分析』同；共著『禅と精神分析』同；『精神分析と宗教』1950同；『精神分析の危機』同；『革命的人間』同；『破壊』上下 紀伊国屋書店；『愛するということ』同；『生きるということ』同；『悪について』同；『社会主義ヒューマニズム』同；『希望の革命』同；『フロイトを越えて』同；『反抗と自由』同；『マルクスの人間観』合同出版；『権威と家族』青土社；『ユダヤ教の人間観』河出書房新社；『人間の勝利を求めて』岩波書店；『正気の社会』(世界の名著 76 中央公論)、社会思想研究会出版部 1958；伝記、ライナー・フンク『エーリッヒ・フロム』紀伊国屋。

(5) 『自由からの逃走』への著者のまとめ(『正気の社会』224ページ『世界の名著』76 中央公論社 1979年)。

バーナム『経営者革命』

ジェームズ・バーナム（1905-）は、極めて興味ある問題の書『経営者革命』（1941年）（訳、東洋経済新報社）を出した。彼はこう認識した。

西欧世界の18、19世紀のような資本主義の時代は、終りに近づいている。これに代わるものは、抽象的なマルクス主義的理想の、自由な階級の無い、インタナショナルな、「社会主義」ではない。

本書は誤解を呼びやすい。標題は、資本主義の変化、つまり資本家に代わって経営者が登場したことだけだと、思われている。だがそうではなく、彼は世界のシステムを取り上げている。彼は書く。

現在は社会革命の1時期である。そして資本主義でもなく社会主義でもない全くタイプの違った経営者社会が登場した。これは、第1次大戦から始まり、50年くらいでできあがるであろう。組織された社会である。スターリン主義、ファシズム、が代表であり、それより発展度が低いのがニューディールである。ロシア革命は1つの経営者革命であった、経営者社会への最初の飛躍であった。

経営者の定義は、現実の生産過程の技術的側面をすでに大部分管理している人々である。そして、生産手段にたいする支配は、資本家自体から経営者に移っている。世界的に、政府の所有と統制へ移行している。経済と国家・社会とが融合しあっている。生産手段の所有は国家のものになっている。経営者は新しい支配階級になる。主権が議会から行政部門に移っている。

さてバーナム理論は、多くの理論的不備がある。特に、体制の差を抜きにしてソ連とナチズム・ドイツの共通性を論じている所である。だが、ソ連が資本主義でもなく社会主義でもないと説明するのは、先駆的議論であり、また本書は当時国際的に論争された。ただし、バーナムの全体の論旨からいうと、日本語では「経営者」よりも「管理者」に近いだろう。あるいは「運営者」と言ってもよい。

アントワーヌ・ド・サンテグジュペリ、1900-44

飛行士。リヨンの近郊のお城に生まれる。1903年にライト兄弟の偉業があり、それ以来航空ブームとなる。12才で、飛行機にのる。義務兵役中に練習をする。1921年に初操縦した。反対されたが、航空郵便会社に就職した。1931年に結婚する。飛行郵便の飛行士となり、アフリカ航路を探索する。キャプジュピーの飛行場長に任命される。「星の王子様」は140カ国に翻訳さる。1953年に日本で初出版される。

ww2で、出版1年後、消息をたった。50フラン紙幣になった。搭乗機が2004年に発見された。

この時代、サンテグジュペリ（Antoine de Saint-Exupery）は、童話を、しかし大人にも向けて書いた。『星の王子さま』Le petit prince である。

「大人は、だれも、はじめは子どもだった。（しかし、そのことを。忘れずにい

るおとなは、いくらもない) 」

「王様がなによりもたいせつに思っていることは、自分の威光にきずがつかないということ・・・」

「あのキツネは、はじめ、十万ものキツネとおなじだった。だけど、いまじゃ、もう、ぼくの友だちになってるんだから、この世に一匹しかいないキツネなんだよ。」

「星の王子様」博物館が、箱根にある。

アメデオ・モディリアーニ Amedeo Modigliani,

豊かなユダヤ人の家に、1884 イタリアで生まれる。絵を学ぶ。1906 年パリに、22 才でくる。ロートレック、ピカソ、アジア・アフリカの彫刻に魅せられる。絵をやめて、彫刻を始める。石を刻む。肺が悪化する。買い手つかず、挫折。彫刻のフォーラムをかく。新しい絵をかく。新しい肖像画。モンパルナスで、肺をやみ、飲んだくれ、麻薬も。破滅的生活。すべての束縛を破る。エコール・ド・パリの 1 人。パリのボヘミアン。モンマルトルで絵をかいている。バーに入り浸り。女性にもてる。

「ルニア・チェホフスカの肖像」 at 強羅 ポーラ美術館

「リップシツ夫妻」

「横たわる裸婦」 at 大阪

目がかかない。評判と世俗をよせつけない。見向きもされない。絶望していた。似顔絵をかいても受け取ってくれない。アパート暮らし。愛人ベアトリスと別れる。

結婚を約束した最愛の女性ジャンヌ。良家の娘。ジャンヌは、家出の決意をする。その父に反対され、監禁さる。

1918 年 初めての個展を、パリで開く。画商 Weil 夫人が、親切だった。だが売れない。裸婦なので、1 日目には、客がはいるが、2 日目に警察に干渉される。わいせつだと。表の絵をはずせ、と。画商は天才だと見るが、わざと買わない。死んだら全部買う、と。2 日目、客入らない。

アメリカの大金持ち、絵をかいたいと、コマーシャルに使う、と。そこで拒否。

ファルギエール街のアパート。倒れる。医者に南仏にゆけと。さもないと半年もたない。

1918 年 ニースへ、療養へ。土地の人をかく。画がやさしく変わる。

「お下げ髪の少女」(アット：名古屋) 瞳がある。例外。

「若い農夫の肖像」アト：ブリジストン美術館・東京

ジャンヌが、ニースにくる。デッサンを売りに、出るが、うれない。倒れる。病院にかつぎこまれ、死ぬ。1920 年 1 月、亡くなる。35 才で。

映画では、画商モレル、死を知り、ジャンヌを訪れ、死をかくして、買いたいと、

ただで貰う。ジャンヌは身を投げる。

参 映画「モンパルナスの灯」、ジュラルル・フィリップ主演、アヌーク・エーメ助演。リブシッツの伝記

サルトルの前進

実存主義 *l'existentialisme* は、キルケゴールから始まるとされる。サルトル (1905-1980) の実存主義は、左派実存主義 (= 無神論的実存主義) といわれる。彼は、文学、戯曲、哲学で活躍する。まずサルトルは、小説『嘔吐』(吐き気) 1938年 (訳、人文書院) でデビューした。

彼は角膜をきずつけ、斜視になる。母は、再婚する。香枝は百科辞典を読みふける。

1929年、ボーボアールとともに、教授資格試験に合格する。ル・アールで教師になる。ここで映画をすすめる、規則を破る。父母たちが反対する。

1933年 ベルリンに留学し、現象学を学ぶ。

1938年 「嘔吐」発表。ドイツ軍の捕虜になる。トリーアに。個人一歴史。釈放さる。

1939年、独ソ条約で左翼は混乱する。「私たちはこの国こそ世界革命に奉仕する国だと考えていた。「トロツキストたち、・・・コレット・オードリーや左翼の反主流派のすべての者が正しいことをはっきりと示した。ソ連も帝国主義の大国になってしまい、ほかの帝国主義諸国と同じように、自国の利益を守ることにきゅうきゅうとしているのだ。スターリンにとって、全ヨーロッパのプロレタリアートがどうなろうと知ったことではないのだ。」 p. 10

ペタン時代は、1940年7月の第3共和制の崩壊から1944年8月パリ解放まで。共産党弾圧立法が1939-40まであった。多くのフランス人は沈黙していた。ヴァレリーも、クローデルも、ペタン派だった。

1941年3月末 サルトル、脱走す、パリへ。抵抗運動組織を考える。学校教師になる。機関紙を発刊、運動体「社会主義と自由」をつくる。

43 「存在と無」

雑誌「現代」。アルジェリア戦争、ベトナム戦争に、反対する。1968の学生運動、5月革命、支持。チェコ事件を非難する。73 失明。

実存主義者 J. P. サルトルは、世界で人気をもっていた。だが『方法の問題』および『弁証法理性批判』で、サルトルは、マルクスの方法を正しいとした。これによって、サルトルは多くのファンを失うことになった。反マルクス主義の人々がサルトルから離れた。こうして、構造主義が力を持ってきたと、1960年代に、実存主義とマルクス主義の対決の構図が消えて行き、構造主義が登場した、とされる。

ボーヴォアールと『第二の性』

シモーヌ・ド・ボーヴォアール (Simon de Beauvoir) は、ソルボンヌ大学を卒業した。教授資格をえて、各地で教職についた。そして作家として活動を始めた。彼女は、ジャン・ポール・サルトル (1905-1980) の恋人で、結婚の形式を取らなかった。これは当時、多くの若い人に理想的な結婚・恋愛の形として賞賛された。だが、最近の調べでは、あまり理想的なカップルとは考えられないことがわかった。

彼女は、サルトルとともに実存主義者として活躍した。実存主義は、キルケゴールから始まるとされる。サルトルの実存主義は、左派実存主義 (= 無神論的実存主義) といわれる。その実存主義とは、こうである。実存 (人間存在のこと) は本質に先立つ。つまり人間は、本質規定される前に、存在し行動している。人間は主体性から出発せねばならぬ。実存とは自らの存在を自らが選択する主体性である。人はアンガージュ (engager 政治参加・自己拘束) している、と。

ボーヴォアールは来日したことがある。

ボーヴォアールの『第二の性』 (1949 年) は、二〇世紀に生まれた女性論である。また彼女の著作の中で最も有名である。邦訳では新潮文庫 (昭和 34 年) にある。ただし邦訳と原本は、順序が違っている。「第 1 部 事実と神話」、「第 2 部 体験編」であり、邦訳は。1、2、3 が第 2 部。4、5 が第 1 部となっている。

ボーヴォアールは言う。「男女という一対は、二つの半分が たがいに釘づけになっている基本的な統合である。」「両性は世界を平等に分けあつたことは一度もない。」彼女は女性を、まず、女性のシチュアション (状況) の本質的要素である生物学的条件から、ついで、精神分析の立場から、そして唯物史観の立場から考察した。また自己の経験により、そして世界の文学を研究し、新しい女性論を作り上げた。結論として彼女は言う。女性は「作られた」。

ピカソ

ナチ時代は、パリにいた。抵抗運動の英雄といわれた。本人は「なにもしなかった」と言う。多勢の女性がいた。オルガは、ロシア・バレリーナだったが、離婚した。息子をもつ。マリー・テレーゼとは、娘をつくる。仕送りしていた。フラソワーズは、画家だった。息子をもつ。後者 2 人と同時に家族を持った。「ゲルニカ」を書いている時、2 人の闘いがあった。フランソワーズにはお金はくれないで、自活せよと言う。その後、共産党に入る。マチスを評価していた。

中国

長征

1934 年に、国民党政府軍と共産党が正面对決し、政府軍の攻撃に耐えきれなくなった紅軍が、10 月に根拠地・瑞金を放棄し、1 万 5 千 km、1 年余の長征を行った。途中加わって来る兵士や農民で一時は 10 万人にもなり、土地改革を行いながら、

延安まで行軍した。その間 1935 年に共産党の拡大政治局会議で、毛の指導権が確立した。

この長征を、アメリカのジャーナリスト、エドガー・スノーが『中国の赤い星』(1937 年) (訳、筑摩書房) で描いた。これは中国革命のすぐれたルポルタージュである。そしてアグネス・スメドレー(2)の『偉大なる道』(訳、岩波書店) は、特に主人公を朱徳総司令に置いて描いた。長征で紅軍は、地主を農村から追い出し、農民に土地を分け与えた。これで特に貧農は紅軍を支持した。

中国で、中華人民共和国が 1949 年に成立した。毛沢東は、スターリンを訪問し、中ソ新条約を望み、やっと結べた。ここでスターリンは、ヤルタの特権を手放すが、1、中国の東北でソ連以外の企業認めず。2、ソ連軍が東北の鉄道使える、という秘密協定をし、スターリンの死まで効力があつた。

毛沢東は、土地没収をし、分配し、90 %の農民が解放された。そして社会悪全廃運動を起こした。ここまでは良かった。以後は失敗の連続であつた。

1950 年 6 月に朝鮮戦争が起き、国連軍の北朝鮮攻撃も始まった。10 月、周恩来はソ連へ飛んだ。スターリンは中国の出兵を望み、しかしソ連は参戦しなかつた。毛は出兵を決めた。

中国では 1953 年に、第 1 次 5 か年計画が始まり、重工業優先政策がとられた。スターリンは、技術者を送って、援助＝収奪を狙つた。その中でスターリンが死去した。1954 年に憲法ができた。1956 年にフルシチョフは、中ソ条約の 2 つの特権を否定した。

毛は、百家斉放百花争鳴のスローガンを掲げた。これは自由主義であつた。ソ連のようにならないためであつた。しかし知識人の批判が激しく、毛は、自由主義に反対する闘争を開始した。

毛は、大躍進運動を提唱した。農業集団化を人民公社によって進めた。共同の土地・農具で農業を行うことであつた。共同食堂など、学校・病院を作ることとした。大衆による建設を望んだ。大躍進運動の中心は、鉄鋼生産の増大であつた。これは失敗した。森林伐採がされ、洪水が起こつた。粗悪な鉄だけが作られ、鋼鉄は作られなかつた。農業に人手がたりなくなつた。

1958 年冬に、ほう {} 徳懐将軍は、この政策の破滅の前兆を見た。そして毛への批判の手紙を書いた。ろ山会議で、毛がほうを批判し、国防部長を解任した。毛は、大躍進をすすめた。だが大躍進で 2000 万余の餓死者が出た。

1954 年、憲法を作る。

1959 年 中国は、チベットを占領し、ダライ・ラマ 14 世は亡命する。

毛は 50 年代末「大躍進」の時代に、数年で共産主義になると、号令を掛けた。

1960 年、ソ連は技術者を引き上げた。

大躍進政策は失敗だった。1961 年ころ、毛は、誤りを認める。

個人所有・市場を認める劉への批判をする。毛をこれを資本主義の復活と見る。

毛とフルシチョフとの対立が始まる。

ベトナム戦争が始まる。毛は、米が中国攻撃をすると思う。そして毛は、北ベトナムを支援した。

毛は、右派＝修正主義批判を始める。米に近づくソ連、実権派、への批判であった。中ソ論争が始まった。毛は、北京を離れて故郷から指令した。

1964年、『毛沢東語録』が発行され、個人崇拜が始まった。

1964年、中国初の原爆実験がされた。

1966年 プロレタリア大文化革命が始まった。これは10年続く。

文化大革命は、中国で、1966年に毛沢東が引き起こした一種の権力闘争である。毛の意志を汲んだ4人組、つまり林彪、紅青らが実行した。「資本主義的復活の道を歩む実権派」を打倒しようとして、紅衛兵を組織し、国内を混乱におとした。数十万人が犠牲になった。

その相手は特に、劉少奇であった。この時『毛沢東語録』が世界史上最大の発行部数を記録した。毛は、一種の理想・平等的社会主義の建設を狙った。当時の中国にはノーメンクラトゥーラが形成されていたし、経済建設を行わねばならなかった。これに対して毛らは反抗した。これは後ろ向きのユートピアであった。またこのやり方は、暴力的で主観的で、セクト的であったので、国内を混乱させるばかりであった。

彼らは造反有理と唱えた。

1967年、文革派は、上海委を握る。劉を批判し、ソ連を社会帝国主義と規定した。

1968年 チェコ事件の制限主権論でびっくりする。

1969年 中ソ国境戦争が起きる

林彪が国防部長になる。毛は中国の皇帝だった。独裁的権力をもっていた。

4人組の1人、江青は、山東に生まれる。父が暴君なので、母と家を出る。演劇学校に入る。恋人が共産党員で、江も入党した。彼は国民党に捕まる。江は、上海へ逃れる。国民党に捕まり、共産党を裏切ることにした。名を変えて女優になる。不倫騒動で上海を出て、延安へ行き、毛と恋愛し、結婚する。20年党活動に参加しない約束で認められた。プロレタリア文化革命で出てくる。

(2) (1892-1950)、アメリカ人。1928年以降、「フランクフルター・ツァ

イトUNG」通信員。中国で、紅軍とともに取材した。ロンドンで死ぬ。

『女一人大地をゆく』『中国の運命』などあり。最近、彼女がコミンテルンの通信員であったことが分かった。

現代中国文献；A. L. ストロング『中国紅軍は前進する』東邦出版；

ジャック・ベルデン『中国は世界をゆるがす』青木文庫；エドガー・スノー

；『毛沢東の私生活』上・下 文芸春秋；『マオ』

[小説] 『ワイルド・スワン』、パウル・バック『大地』、魯迅「阿Q正

伝」 「狂人日記」

南米 キューバ

フィデル・カストロ (Castro, -)

バチスタ政権は、1934年から10年間キューバを支配し、さらに1952年にクーデタで再び政権を奪取した。

1950年にハバナ大学を出た若い弁護士カストロは、1953年7月26日、約200人の同志とモンカダ兵営を襲撃して、武器・弾薬を奪おうとして失敗し、捕らえられた。この裁判でカストロは大演説をした、「歴史は私に無罪を宣告するだろう」。だが13年の刑が下った。しかし大赦により2年で出獄し、メキシコへ逃れた。そしてチェ・ゲバラと知り合う。

1956年10月25日、ヨット、グランマ号でメキシコのトスパン港を出港した。カストロ兄弟ら83人の若者がのった。難破し、案内人の裏切りで、政府軍の急襲にあい、目的地シエラ・マエストロ山脈の最高峰ピコ・トルキノについたのは、12人であった。グリラ活動をつづけ、農民軍を作り、1958年革命軍はシエラ・マエストロを下りて進撃した。12月、ラスビアス州の首都サンタクララを奪取する。1959年1月1日、バチスタは米国に亡命する。1959・1・1 キューバ革命が成功した。

カストロ新政権は、1959年5月に、土地改革法。1960年に、アメリカ資本の国有化を行う。カストロは、はじめ反米ではなかった。米が冷たく、ソ連が援助したので、ソ連寄りになった。キューバ革命の時、カストロはまだ共産主義ではなかった。

チェ・ゲバラ Ernest Che Guevara (1928-67)

喘息持ちの医者で、アルゼンチンから来た。メキシコに妻子を置いていた。

キューバ革命戦争でもっともすぐれた軍事指導者は、アルゼンチン出身の医者、エルネスト・チェ・ゲバラである。

キューバ上陸、戦闘し、軍医の役だった。負傷した。88名中12名が生き残った。その後17名になる。武器庫を襲撃し、カストロの解放区ができ、キューバ人が加わった。ゲバラは司令官になる。人民＝農民の闘いをし、農民と手を結ぶ。スパイがいた。ガイドだった。彼を銃殺する。規律を厳しくし、処刑が始まる。世界革命のためだった。ゲバラがカストロを動かした。サンタクララ占拠を狙った。カミロとゲバラが司令した。これで国を分断する。都市で革命が起きた。バチスタが大晦日に亡命する。

革命後、敵を処刑した。人民軍を作れと、ゲバラは云う。ゲバラは、人民軍司令官、国立銀行総裁、工業相になる。ミサイル基地にして帝国主義国に対抗できるようにしようとした。

カストロは、キューバを中南米のモデルにした。

ゲバラは 1965 年 3 月、すべてをなげうって、新たな革命の任務へ旅立った。革命の拡大のためだった。ゲバラの出発を誰も見ていない。1966 年 11 月、ボリビアにはいり、ターニアという女性を助手に。キューバから義勇軍がくるが、ボリビア人を参画させない。革命を急ぐゲバラ。ボリビア共産党と確執、孤立化する。ボリビアのレンジャー部隊がアメリカで訓練。アンデス山地を転々としてゲリラ戦をつづけた。農民の密告。チュロ溪谷で戦闘、負傷、捕まる、1967 年 10 月、ボリビア政府軍に射殺される。ボリビアでは死刑廃止。彼は 20 世紀最大のロマンチストで、キューバの国民的英雄となっている。

著書『ゲリラ戦』『もっと多くのヴェトナムを』『革命回想』

映画あり、20 c. フォックス オマー・シャリフがゲバラ、ジャック・パランスが

参) ヒューバーマン、スウィージー『キューバ』岩波新書

ドイッチャーのトロツキー 3 部作

アイザック・ドイッチャーはトロツキーの 3 部作伝記を書いた。『武装せる予言者 トロツキー』『武装なき予言者 トロツキー』『追放された予言者 トロツキー』(8)である。トロツキーは、20 世紀で最も重要な大政治家であり、きわめて有能な革命家であった。だが彼の真の姿は、スターリン(1879-1953)の偽造のために、十全に書かれたことはなかった。これは 20 世紀を代表する伝記であり、この物語はギリシャ神話に匹敵する。

米ソ

アイゼンハワー米大統領は、CIA 作戦を支持し、反キューバ軍事援助をし、南米に特殊部隊をおいた。キューバ政権打倒と、フロリダに破壊者特殊部隊を置くことを承認し、キューバに火事を起こし、カストロ暗殺計画をねった。例えば、元秘書・愛人マリータ・ロレンスに暗殺を依頼し、彼女は CIA 特訓を受けた。カストロに会えたが、彼は「私を殺しにきたのか」といい、銃を渡し、撃て、と言った。彼女は撃てなかった。

旧ソ連のフルシチョフは、キューバを援助した。米は断交した。

1961 年ケネディは、共和党はカストロに甘いと言う。大統領に当選してから、キューバを空爆し、ピグス湾に亡命者部隊を上陸させ、戦闘させた。米国政府は関与を否定した。ケネディは、次の攻撃は止めさせた。そこで上陸部隊は見捨てられた。このピグス湾事件失敗で、ケネディは苦境に陥った。

1961 年米ソ首脳会談があった。そしてベルリンの壁が作られた。

ケネディは、CIA 秘密作戦をたて、6 千件の破壊活動をおこない、1962 年に上陸作戦をねらい、カリブ海島島で威嚇の演習をする。キューバはアメリカが攻撃する

と思った。

フルシチョフは、核ミサイル基地をキューバに建設することを思い付く。カストロは受け入れた。1962年夏、核がキューバに向かった。10月4日米機が、それ＝中距離核ミサイルを見つけた。アメリカは海上封鎖を命令した。キューバ危機が起きた。フルシチョフはキューバに黙ってミサイルを撤退した。

軍部や政府高官の腐敗が起こる。例えば、中国の天安門事件 1989 の原因の1つは、腐敗批判であった。キューバでもカストロの革命の同志だった将軍オチョアが麻薬密売などの罪で 1989・7・13、部下3人とともに銃殺された。

ビートルズ

イギリスの威信を回復した。60年代はビートルズの時代だった。リンゴ・スター、ポール・マッカートニー、ジョン・レノン、ジョージ・ハリソン。

ジョン・レノン（1940 リヴァプール ー）、ハーモニカに熱中、プレスリーの影響、ギターに熱中。ポール・マッカートニー（1942 ー）、労働者階級、名門中学、ギターに熱中、プレスリーに熱中。ジョージ・ハリソン（1943ー）、ギターがうまくなる。上級生ポールと知り合う。

リンゴ・スター（1940 リヴァプール ー）ドラムに打ち込む。

ジョン、バンドを作る。ポールが加わる。ジョージが加わる。1960年に「Beatles」と名付ける。エプスタインがマネジャーになる。ドラマーをはずしてリンゴを入れる。

レコード契約なり、1962年「ラヴ・ミー・ドウ」、あまりヒットせず。1963年「プリーズ・プリーズ・ミー」がビッグ・ヒット。「シー・ラヴス・ユー」ミリオン・セラーに。イギリス、ポップス界、ビートルズ一色に。

1964年アメリカゆき。テレビ・エド・サリヴァン・ショーで、60%視聴率。大成功。映画。海外コンサート。1965年、叙勲。「イエスタデイ」、

1966年静かにくらす。日本公演。コンサートやめる。ジョンが作曲、ポールが歌う。4人が独自の道をゆきはじめた。エプスタインが死んだ。レコーディングだけにする。1968年インドの瞑想アカデミーに入る。自分達のレコード会社「アップル」をつくる。「ヘイ・ジュード」、1969「アヴィ・ロード」、1970年最後のアルバム出す。人間対立で解散。音楽の極限にいったので、別れた。

『資本論』出版100年

1967年は、カール・マルクス『資本論』の出版100年にあたるので、多くの研究が現れた。ことに東ドイツではそうだった。その時期に、都築忠七"Eleanor Marx"がOxford大学から出版され、日本人研究者として気を吐いた。マルクスの末娘エレノアの生涯とその悲劇が、ドラマティックに、マルクス家の秘密とともに、描かれた。これは社会思想・学問・芸術の結合である。

『シンデレラ・コンプレックス』

コレット・ダウリング『シンデレラ・コンプレックス』(1)が1981年に出た。女性には抜き難い結婚願望がある、というのである。誰でもシンデレラになりたい、シンデレラのように結婚したいと思っているという意味で名付けられた。これは常識的な論点であるが、実は重要な指摘である。この結婚願望のために、女性の自立がうまく成り立たないという多くの事例を、アメリカに求めている。

(2)三笠書房 全訳版あり。

ペレストロイカ

1982年、ブレジネフ書記長が死んだ。数年後、1985年に、ゴルバチョフ書記長が登場した。彼は、グラスノスチ（情報公開）とペレストロイカ（世直し）を旺盛に実行し始めた。そしてサハロフの流刑解除、ブハーリンの名誉回復を行い、ブレジネフが始めたアフガニスタン侵略戦争を止めた。1989年2月15日に、ソ連軍は、アフガニスタンからの撤退を完了した。これは9年2カ月続いた。1987年に、アメリカと中距離核兵器全廃条約に署名した。

ペレストロイカは、ソ連経済の停滞のために、是非行われねばならない政策であった。国家と党の官僚的硬直性が、それに輪をかけていた。最大の原因は、ソ連の軍需産業の重荷であった。軍備費が経済を圧迫していた。アフガニスタン戦争の取りやめ、核兵器縮減などは、そのために必要であった。さらに1986年のチェルノブイリ原子炉事故はソ連農業と労働者・農民に大打撃を与えていたのである。

ゴルバチョフ・ソ連書記長（当時）が、数年前からペレストロイカ（世直し）を行った。この原因はソ連の経済危機だった。ソ連は、国家機構が硬直していて、官僚的無駄が多く、そのため生産者が意欲を持てず、また軍事支出が多かった。その上に2つの事件が重なった。

1つはアフガニスタン侵略戦争。ブレジネフ元書記長が始めたが、さすがにゴルバチョフはこれを止めた。経済が停滞していたので、ゴルバチョフは軍備縮小にも手をつけはじめた。2つ目はチェルノブイリ事故。1986年に原子炉が爆発して、大きな影響が出た。ソ連の穀倉地帯が危険地域になり、住民を移住させなければならなくなり、ここでは耕作もできなくなった。

こうして経済危機が訪れ、国内に生産物が不足した。もちろん流通制度の官僚制もそれに拍車をかけた。ゴルバチョフは、国内の政治・経済制度に少し自由を導入し、生産意欲をもたせようとした。しかし保守派と改革派には生まれ、ゴルバチョフもそう簡単には改革に成功しなかった。

日 本

パール・ハーバー

チャーチルは毎日電話で、ルーズヴェルトに助けをくれと言っていた。ルーズヴェルトは参戦しないとって、当選していたからである。ルーズヴェルトの顧問補佐官はハリー・ホプキンス（1889- 1946）で、陰謀家だった。アメリカは日本をみくびっていた。

ルーズヴェルトは1週間前に日本のパール・ハーバー攻撃を知った。日本の無線を偶然受けたのだった。しかしハワイに知らせなかった。これは世界の覇権を狙った第1歩であった。だが攻撃はルーズヴェルトの予想以上であった。アメリカは2334人の死者を出した。これを理由にルーズヴェルトは参戦した。

太平洋戦争

1941年12月8日に、大日本帝国がアメリカに真珠湾（パール・ハーバー）攻撃を仕掛けた。日米開戦であった。太平洋戦争が始まった。ルーズヴェルト大統領は戦争のチャンスを狙っていた。アメリカの戦費総額は2450億ドルで、2次大戦前の50年間の国家予算を越えていた。真珠湾攻撃は、アメリカが不意を打たれただけであった。アメリカは20世紀では経済的に最強国であり、第2次大戦では軍隊も強く、「民主主義の軍隊」と言われた。日本のアメリカ攻撃は無謀であった。その上、パール・ハーバーでアメリカは、実際には大した損害ではなかった。航空母艦が1隻もいなかった。そしてアメリカはヨーロッパ戦線を主張し、対日戦を軽く見ていた。ドイツはあなどれないが、日本は弱い、と。実際そうだった。

その後日本は、仏領インドシナ、オランダ領東インド諸島、シンガポールの英国軍を攻めた。オランダ、フランスは、ドイツによって壊滅していたし、イギリスは対独戦争で余裕がなく、その状況では日本は勝てたのである。また日本は、平和時の米を攻撃したので勝てた。

ミッドウェー海戦とガダルカナル島の敗戦を境に、国力に勝るアメリカは戦局を有利に運び、日本はじりじりと敗局へ向かった。ミッドウェー海戦はアメリカのレーダーの力に負けたのだった。ちなみに日本国民はミッドウェー敗戦を知らされなかった。

日本の第二次世界戦争

日本にとっての第二次世界戦争は、帝国主義国として遅れた国である日本の対外的帝国主義戦争であった。その上、日本軍は天皇の軍隊であった。つまりこの軍隊は、国民に責任を持たないのであった。軍部はまた、朝鮮人を日本兵にした。昭和天皇は、日本の軍事力と天皇制とが、最大の関心であった。彼は東亜の盟主になることを夢見た。

日本人大衆は、家の労働力を奪われ、息子を失った。日本人が戦争に出たのは、天皇のせいだと、戦後、多くの人は言った。それに当時、命の値段が安かった。出征は、皆、名誉と思っていた。反戦は、村八づになるから、許されなかった。戦前は国体（＝実際は天皇制のこと）が重要であった。これに触れることだけは注意し

なければならなかった。

1937年の第二次上海事変で起きた南京大虐殺では、30万人（中国政府発表）が殺された。戦後、中国で南京大虐殺記念館ができた。

1941年8月刊の高村光太郎の『智恵子抄』は、大ベスト・セラーになった。戦争にゆく若者が純愛ものとしてこれを読んだ。

その年、1941年、ハワイのパール・ハーバーを攻撃した日本は、他方、同日、マレー半島に上陸した。シンガポールを占領し、昭南島と名を変え、すぐ民衆を5万人粛清した。

昭和19年3月、東京大空襲があった。12万人の死傷者が出た。宮城だけは直撃弾を受けなかった。4月からソ連は、対日参戦の準備を始めた。そして同月、日ソ中立条約を破棄した。5月8日、ドイツが降伏した。6月26日、沖縄が占領された。日本はソ連に和平交渉を始めた。ポツダム会談で、初め、天皇制維持が認められていたが、米國務長官バーンズの主張で削られた。だがその後、天皇制は温存されることになる。

終戦の間際に、原爆が2つ、アメリカによって投下された。これはもちろん、戦後世界戦略を考えたアメリカの責任である。だが、天皇が終戦を遅らせたことも一因であった。近衛文麿がすでに終戦の半年前に、終戦を上奏していたにもかかわらず、天皇は戦争を続けたからである。ポツダム宣言前日に、トルーマン・アメリカ大統領は原爆投下指令を出した。7月26日、ポツダム宣言が出された。8月6日、広島に原爆が落とされた。9日、長崎では原爆により、その年に7万人が死んだ。日本の戦闘機はあまり高く飛べなかったが、B29は1万メートル上空を飛べた。日本が降伏する途中だったので、本来は、原爆を落とす必要はなかった。アメリカは、原爆開発に膨大な軍費、20億ドルを使っていたので、投下せざるをえなかった。アメリカは原爆を落とすために、戦争を長びかせた。

8月7日、スターリンは軍に対日参戦を命令し、8月9日、対日参戦を布告した。参戦は8月終わりの予定であったが、原爆のためにくりあげて速めた。8月9日、ソ連が参戦した。対ソ戦では、日ソは戦力が25倍違った。日本の開拓団、居留民が悲劇に会った。関東軍（満州にいる日本軍）はかれらを見捨てたのであった。さらに、退却のさい、日本民間人のこどもたちを殺した例もある。

カラフトには、日本人が40万人住んでいた。8月10日、樺太当局は、北海道への緊急疎開を決定した。日本人は、大泊（おおどまり）から船で北海道（稚内）へ逃れた。関東軍の崩壊や広島原爆について、政府は国民に余りよく知らせなかった。

8月10日、日本は連合国に、ポツダム宣言を受諾すると、電報を打った。ソ連参戦の翌日である。8月14日、「玉音放送」が録音された。若手将校たちは、休戦反対で、クー・デタを行なったが、失敗した。

8月17日に関東軍は停戦を決定した。15日より2日遅い。スターリンは、日本将兵50万人をソ連に抑留した。

昭和天皇は、マッカーサーとの有名な会談で、すべて責任を東条首相に押し付けた。(6)

日本人は、敗戦によって日本史上最大の政治変革をした。また日本人の思想は、史上最も大きな変化をした。日本は、歴史始まって以来、外国人に占領されたことがなく、負けたことがなかった。敗戦は、明治以来の富国強兵政策、日本の道が否定された、特別のものであった。神武以来、日本人大衆は、戦争に反対しなかった。

この戦争は、日清戦争に遡れる。敗戦の前の 50 年間は、日本では戦争が常にあった。その後の 50 年は、ほぼ出征していない時代である。第 2 次世界戦争あるいは「大東亜戦争」には、国民にも責任があった。日本国民は加害者であったが、加害者意識が日本人には少なかった。

(6) 「」 (『世界』)

鶴 あきら {木ヘンに杉}

鶴は、1909 (明治 42) 年 1 月 1 日、石川県河北軍高松町で生まれた。本名、喜多一二 (きた かつじ) である。二男だった。1915 (大正 4) 年に、地元の尋常小学校へ入学した。父は松太郎は、貧しい竹細工職人であり、亡くなった。そこで母・スズは再婚し、上京した。一二は、機屋経営の叔父の養子になる。1923 年、高等小学校を卒業して、叔父の機屋で働いた。1924 年から川柳界に登場した。一時、大阪へ行き、また東京に出る。1928 年、帰郷し、高松川柳会を結成し、4 月に検挙された。彼はナップに参加した。そして再上京する。1930 年、金沢第七連隊に入営する。1931 年、金沢第七連隊赤化事件により大阪に収監される。1933 年、原隊へ復帰し、年末に除隊する。そして上京する。反戦川柳をつくって、1937 年 12 月、特高警察に逮捕される。1938 年、留置場で赤痢にかかったが、手錠をかけられたままだった。豊多摩病院に入院し、9 月 14 日、29 才で病死した。川柳の小林多喜二と言われた。

沢地久枝編で彼の「全集」がでた。一叩人 編『鶴木杉全集』たいまつ社；一叩人 編著『反戦川柳人・鶴木杉』たいまつ社 1978 年。

代表作――

万歳とあげて行った手を大陸へおいてきた。

修身にない孝行で淫売婦

手と足をもいだ丸太にしてかへし

アメリカの占領と戦後改革

日本はポツダム宣言を受諾し、1945 年 8 月 15 日に無条件降伏をした。日本人は一般に、これを終戦と呼んでいるが、法的には降伏である。敗北した日本は、連合国に占領されることになったが、実際はアメリカ軍によって占領された。日本人はまた、占領軍のことを「進駐軍」と呼んだ。日本は、歴史始まって以来これまで、

外国人に占領されたことがなかった。

戦後改革は、財閥の解体、組合・労働運動の民主化、農地解放、女性参政権、軍部廃止などであった。1945年10月に、共産党首脳その他、政治犯が釈放された。特高警察と治安維持法が廃止された。アメリカは、財閥と大地主が日本軍国主義の根だと見なした。財閥は一時部分的に解体されたが、その後復活した。寄生地主制は田畑に限って農地解放させられた。労働組合は合法となった。女性は史上初めて選挙・被選挙権が与えられた。軍隊は廃止されたが、その後アメリカは軍隊の前身を作らせた。

これらの改革は、アメリカ占領軍の主導で行われた。アメリカは、日本を非常に的確に研究していた。だが改革の途中で占領軍は、ソ連と対決し始め、反共政策を持ち込んだ。こうして改革は矛盾することになった。だが日本人は、20世紀の日本では最大の政治変革を体験した。そして日本人の思想は史上最も大きな変化をした。日本人は半分民主主義的になった。

日本人はおしなべて反共である。また非民主主義・非自由主義的である。この2つは関連がある。近代日本ではしっかりしたブルジョア民主主義革命が行われなかった。明治維新は中途半端であったし、戦後改革も中途半端に終わった。

日本人は、権力に対して迎合的であり、「寄らば大樹の蔭」「長いものには巻かれる」「出る釘は打たれる」という生活をしている。

一方、戦後改革は、事後的に、また長い目で見ると、日本資本主義を蘇生させたのである。日本経済は、戦前のような膨大な軍備負担を支えきれなかったし、むしろ戦前の日本資本主義はいびつであった。農地解放で、大量の小作人が自作農になったことは、日本経済を発展させる土台になった。

アメリカ占領軍の政策、つまり寄生地主制の廃止、軍部廃止、財閥解体、労働運動の自由などの政策は、日本軍国主義の復活を阻止しようとしたものだった。だが、その主観的意図とは別に、これらの政策は、「よい」資本主義を作る条件になった。重要だったのは、寄生地主・小作人関係の廃止であり、軍部の廃止である。戦前の日本は、軍事経済が肥大していた。これでは経済的に発展できないのである。国内市場は狭くなる。経済的にいうと無駄な、兵器・軍備に膨大な予算が使われたのである。

寄生地主制の廃止は、山林を除外したが、有償の土地改革であった。これは、日本に土地持ち農民＝近代農民を大量に作り、生産性増大と国内市場拡大の条件になった。近代農民となった日本の農民は、豊かになることができる。土地改革は、アジア、ラテン・アメリカの諸国と比較すると、巨大な意義がある。これらの諸国の経済的弱点は、土地改革をしていないことである。先進国は土地改革をしているのである。日本で戦後、この小農が大量に登場したことによって、日本の国内市場が広がった。戦前の日本農民は貧困だった。戦後の農民はかなり豊かになった。彼らは農業に投資し、生活を向上させた。

それとともに、財閥解体・労働運動の自由化も、「よい」資本主義を作ることになった。財閥解体は、しかしすぐ元に戻された。日本の労働運動も形態としては大したことはないが、この自由化によって少なくとも賃金が増大し、国内市場が広がった。戦後改革で、婦人解放は最もうまくいった。だがこれらの戦後改革は中途半端に終るのであった。

憲法

戦後、日本国憲法が制定されるはこびとなった。1946年1月に、幣原内閣の松本内務相試案がでた。これをGHQ（General Head Quarter、連合軍総司令部、実際はアメリカ占領軍）に見せた。そして4月17日に、改正憲法案（政府憲法調査会案）ができた。5月に第1次吉田内閣（進歩党と自由党の連立）ができ、6月に第90議会が開かれた。この時期に、三種の憲法案ができた。1が、進歩党案、自由党案であり、これらは絶対主義天皇主義に立った。2が、社会党案と、既述の4月17日発表の政府案であり、象徴君主制に立った。3が、共産党案であり、人民共和国の立場に立った。改正憲法案が発表されると、1と2は、それらに賛成した。改正憲法案はGHQのマッカーサー元帥が全面的に承認を与えたとされる。その威力が大きかった。GHQは、国民の意志で決めたとするやり方が非常にうまくいったとされる。

文部省作成の「新しい憲法の話」では、非武装を正しいとした。野坂参三（共産）の、自衛の為の武力は、否定された。

憲法で言う、天皇は国民統合の象徴であるというその「象徴」は、意味不明であった。またこの憲法の「交戦権の放棄」は、世界に類のない規定であった。これはしかし立派なものであった。日本の平和憲法によって、日本はその後、軍事経済に力を入れず、「平和産業」が発展した。軍事経済は浪費産業だから、である。この平和憲法は、日本人の発明ではないが、世界に広げてよい思想である。

荻野富士夫は、憲法は負け取ったと、表現し、加藤典洋『敗戦後論』（7）は、憲法によって、戦後、「ねじれ」が発生したと、するどくついている。

（7）講談社 1997年。これは伊藤整賞を得た。

日本の民主主義

日本には個人主義・近代民主主義イデオロギーが欠如している。その原因は、

1、鎖国、家光以来の二百数十年の歴史、2、近代ブルジョア革命がなかったこと、である。

ブルジョア階級は、オランダ（16・17世紀、スペインからの独立革命）、イギリス（17世紀、ピューリタン革命）、フランス（18世紀、大革命）、アメリカ（18世紀、独立戦争）にみるように、近代民主主義革命を行なった。彼らは、封建制や絶対主義に対して、血を流して民主主義をかちとった。民主主義・自由主義は、西欧のブルジョア階級の産物であり、市民革命を行ない、あるいはそれに成功した

国だから、そこに生まれたのである。それを行なったのは、ブルジョアジーと農民であった。これに失敗したのは、ドイツ 16 c. のミュンツァーを指導者とした農民戦争の敗北、ロシア 18 c. のプガチョーフの敗北などである。その後でさえ、19 c. 中ばに、1848 年革命をきっかけにして、民主主義が変質したのである。日本は民主主義を書物では学んでいた。だが、文字に書かれた思想と行動に移される思想は、違う。

日本のブルジョアジーは、江戸時代に商人と職人として、いた。だが明治維新では、彼らはその革命の主役にならなかった。革命に参加したのは下級武士だった。日本のブルジョアジーは民主主義の獲得の闘いに参加しなかった。明治初年に自由民権運動が起きたが、これは数年で挫折した。これ以降、日本のブルジョアジーは、天皇制、絶対主義政府、軍部に従属した。こうしてブルジョア民主主義は実現しなかった。第二次大戦後、アメリカ占領軍の支配によって、アメリカ的民主主義が上から移入させられた。アメリカの民主主義は、すでに、かつての時代の、独立戦争の時代の近代民主主義ではなかった。日本に与えられた民主主義はアメリカの民主主義である。近代ヨーロッパのそれではない。アメリカの 20 世紀半ばの民主主義であった。こうして日本には近代ブルジョア民主主義は根づかなかった。

占領軍最高司令官マッカーサー（1880-1964）は、戦後 5 年間、日本を支配した。彼は日本にアメリカ式民主主義とキリスト教を植え付けようとした。5 年後、帰国したマッカーサーはアメリカ上院で演説し、民主主義の経験では日本人は 12 歳の少年だ、と言った。これまでマッカーサーは日本人に好まれていたが、この発言で彼は日本人に嫌われた。だがこの発言は正しかった。日本人はそれほど民主主義の経験をしていないからである。

戦前の絶対主義的日本は、敗戦によって、半民主主義国になった。天皇崇拜で、「鬼畜米英」のもとに戦った日本人は、あっけなく、アメリカ崇拜になった。したがって何のための「鬼畜米英」だったのか分からない。仮り物だったのではないか。また日本人は権力盲従なのである。強いものにひれふすという、アジア的国民である。日本人は、一夜にして忠君愛国思想から「民主主義」へ移った。この「民主主義」は支配政策としての民主主義であって、本来の民主主義ではなかった。そのうえ、この「民主主義」は、GHQ の権威をバックにした民主主義であった。日本人はカメレオンのである。日本人が戦勝国アメリカを愛し、あるいは尊敬するというのは、マゾヒズム(8)であると、ヨーロッパ的観点からは言える。

それに、戦前の日本人は危険な考えを持っていた。他民族蔑視、神国思想、暴力思想であった。

戦後日本人の思想は、なおも、徳川 300 年の封建制と鎖国の影響にある。また戦前には、3 つの自由主義運動があった。それらは皆、つぶれ、あるいはつぶされた。第 1 は、自由民権運動であった。それは自ら運動をやめた。第 2 は明治末年の社会主義運動であった。これは、幸徳事件によって弾圧された。第 3 は、弱かったが、大正デモクラシーであり、その後の共産党運動であったが、戦争遂行の過程で弾圧

された。

日本は、明治以降は脱亜入欧、戦争期は鬼畜英米、戦後はアメリカ崇拜となった。第二次大戦の敗北後、日本は特異な歴史をもち、それに従って日本人は独得の考えを持つようになった。戦後、日本は民主主義国になったとされるが、もともと近代民主主義をもたなかった日本人は、半分しか民主主義的にならなかった。価値の中心は、天皇制からマッカーサーへ、その後「民主主義」へ、簡単に変わった。

日本人は、マゾヒズム、甘え、恥、集団主義の観念をもち、アジア侵略戦争への反省が不足した。戦後改革によって、多くの事柄が変化した。だが、株式会社は、民主主義的にならなかった。また中央官僚制はほとんど変化しなかった。戦後の日本の社会構造は、民主主義的ではなく、「官主」主義的である。

日本は、戦後（戦争の直後から現在まで）の前半期は貧乏であったが、高度経済成長が終わったころを画期として、後半期は「豊か」になって、うぬぼれた。

戦後の思潮

1945年の敗戦以前に、戸坂潤、三木清が獄死した。8月に無条件降伏をしたが、10月10日に政治犯が釈放され、例えば、共産党首脳が釈放された。特高警察、治安維持法が廃止された。10月末、河上肇は、徳田・志賀の出獄をむかえて病床から感激の歌を書く。1946年1月、野坂参三帰国歓迎国民大会開かれ、野坂は、民主人民戦線の結成を提唱する。河上肇は1月17日、「同志野坂を迎えて」の絶筆の詩を書いた。

大山郁夫が亡命から帰ってきた。合法無産政党を作ろうという大山の、戦前の活動は、最も合理的な方向であった。だがそれでも弾圧されたのだった。

清沢 きよし {ニスイと列} 『暗黒日記』（岩波書店）が発行された。彼は自由主義者であり、これは戦争中の日記である。

詩人・峠三吉は、原爆の詩を発表した。

ルース・ベネデクトは、『菊と刀』を出し、日本の社会と文化を分析した。彼女は、罪の文化のほうが良いと考えているが、それは西洋風考えである。

石坂洋次郎の小説「青い山脈」が発表された。彼は古い因習を打破しよとした若い人々を描いた。昭和24年に映画化され、原節子が主演し、「民主主義の教科書」と言われた。

「リンゴの唄」（並木路子）が出、笠置シズ子が登場し、美空ひばりがその真似で出てきた。映画では黒沢明監督が活躍する。映画『ひめゆりの塔』が出た。

1946年元旦に、天皇の「人間宣言」がなされ、彼は神格を否定したが、自分が人間だとは言っていない。

1948年、天皇が、国会開会式に来た。衆参議長が、カニの横ばいで最敬礼して問題になった。さすがその後、やんだ。

川島武宣は、『日本社会の家族的構成』（日本評論社 1948年）を発表した。彼

は、日本の戦後民法の基礎を作った。1948年、改正民法が施行された。

文学者として宮本百合子が活躍した。伊藤整訳「チャタレイ夫人の恋人」は、戦前、削除版で発行されたが、今度は裁判にかけられた。五味川純平「人間の条件」が出た。壺井栄の「二十四の瞳」は、映画にもなり、戦争中のある小学校での教育を感動的に描く。

鈴木大拙は、禅、仏教の思想家になってゆく。川端康成は、小説で日本の美だけを求める。柳田国男『全集』が出て、日本の民俗学が作られた。

永井荷風は、「断腸亭日乗」を出した。戦争下の日記であった。

戦争中、国民はマインド・コントロールされた。教育勅語がその経文であった。戦後、教科書が一時期、墨で黒塗りされた。修身、国史、地理、が否定され合体し、社会科になった。戦前の国史では、神話が教えられ、日本は神の国とされた。

戦後を「民主主義のはきちがえ」と言う人がある。だが、まだ日本人は民主主義をはいていない。

原水爆禁止運動

広島・長崎へのアメリカの原爆投下以来、日本で原水爆反対・あるいは禁止運動が始められた。これは当然のことである。だが、日本人は全体としては加害者であって、これを忘れがちであった。占領地の東南アジアの国の人々は、原爆が日本におちたことを幸いだと思ったのである。また、この運動は、統一こそが一番であるのに、分裂した。1945年から人類は核戦争の時代を迎えた。しかし現在は実際は原子力発電の危険の方が大きい。

『私は貝になりたい』

加藤哲太郎は、『私は貝になりたい』（春秋社）を書いた。ほぼ実話である。

加藤は、大正6年、東京生まれで、加藤一夫の息子である。慶応大を卒業し、国策会社へ就職した。昭和16年に召集され、中国戦線へ行き、中尉となった。帰国後、捕虜収容所長となり、捕虜を人道的に扱った。だが敗戦で逃亡した。昭和23

年11月に捕まった。横浜で裁判を受け、絞首刑の判決となった。BC戦犯984名が死刑判決されたものだった。彼は巣鴨プリズンへ収容された。そこに、助命嘆願文が膨大に集められた。妹は、マッカーサーに直訴した。トルストイの娘からの嘆願書が来た。マッカーサーは裁判再審を命じた。やりなおし裁判で、有期刑30年となり、昭和33年に釈放された。獄中10年であった。その後、結核で入退院を繰り返し、昭和51年に死んだ。この小説は、主人公が刑死する物語である。

太宰 治

戦前から戦後にかけて、興味ある作家がいる。太宰である。彼は明治42（1906）年6月19日生まれで、作家時代が3つの時期に区分される。前期は昭和8年から12年、中期は昭和13年から20年、後期が昭和20年以後である。そのう

ち第4期も区分でき、「グッド・バイ」からである（奥野）。

太宰は、青森県北津軽郡金木村うまれで、本名は、津島修治である。津島家は、曾祖父の代から津軽屈指の大地主・富豪であり、召使が30人いた。父は、源右衛門で、貴族員議員（その資格者は、高額納税者で、県に4-5人）・衆議院議員だった。母は、たね、といい、信心深い人であり、病身だったので、子を育てられなかった。太宰は母を好かなかった。太宰は、11人の10番目の子であり、文治、栄治、圭治の3兄と、姉達、のきょうだいがいた。彼は、乳母、叔母らに育てられた。若い女中に代わって、無学な子守のタケが、必死に彼を教育した。彼女は太宰に、寺の地獄絵を見せたりした。彼は「きびしい保守的な家に育った。」（「東京八景」）「この家系で人からうしろ指を指されるような愚行を演じたのは私ひとりであった。」（「苦悩の年鑑」）と、後に彼は書く。太宰は、本＝外国童話を片っ端から読んだ。大正5年、金木第一尋常小に入学した。成績優秀だが、勉強は好きでなかった。大正7~8年、「先生も人間、僕も人間」と考えた。このころ津軽にデモクラシーが来た。

大正11年、父が亡くなった。青森県青森中に入学する。大正14年、作家志望となる。（ここまで「思い出」にある）

昭和2年、弘前高校文科甲類に入学した。彼は、豪勢な料理屋通いをした。ここで芸妓・小山（おやま）初代と知り合った。昭和4年、共産主義に強く影響された。出身階級に悩み、カルモチン自殺をはかった。彼は後に書く。「プロレタリア独裁。／・・・金持ちは皆悪い。貴族は皆悪い。金の無い一賤民だけが正しい。私は武装蜂起に賛成した。ギロチンの無い革命は意味が無い。／しかし、私は賤民ではなかった。ギロチンにかかる役のほうであった。」（「苦悩の年鑑」）

昭和5年、弘前高等学校を卒業し、東京帝国大学フランス文科入学した。フランス語は正規にやっていた。彼は就職を諦めた。小説を井伏鱒二に師事した。彼は戸塚に下宿した。そのころ三兄が病死した。彼は、2学期から学校に殆ど出なかった。そして、「日陰の仕事」＝非合法活動＝共産党を手助けした。それはしかし、「金を出す役目」だった。秋、初代を田舎から呼んだ。その後、初代は、ひとまず帰郷する。太宰は、銀座のカフェの女給と江ノ島の海に入水した。だが女性だけ死んだ。そのため彼は、自殺幇助罪で留置場に入るのだった。

昭和6年、初代が身請けされて来て、二人は、五反田に住んだ。太宰は反帝国主義学生同盟に加わった。そして満州事変が起きた。彼は運動で二度、留置場に入った。取調べの刑事は言う。「おめえみたいなブルジョアの坊っちゃんに革命なんて出来るものか。・・・」彼は引越しつつける。そして初代の過去を知った。昭和7年、青森警察に自首し、以後、運動を離れた。

文学では、彼は、「思い出」（自伝的作品）を書く。「ロマネスク」は尾崎一雄が絶賛した。つまり彼の作品が初めて文壇で問題になった。昭和10年、「逆行」を書き、芥川賞候補次席となる。

太宰は、都新聞の入社試験を受けた。東大は中退した。鎌倉山で、縊死を企てた。

その後盲腸炎で入院した。腹膜炎となり、胸部疾患となる。痲ひ剤の使用＝パピナール注射をする。彼は、佐藤春夫に師事する。

昭和 11 年、彼は書く。「私は、純粋というものにあこがれた」「私の最も憎悪したものは、偽善であった。」そして、二二六事件に「ムッとした」。太宰は、すでに、『晩年』を書いた。そして脳病院に入った。彼は、第 3 回芥川賞に落ちた。

昭和 12 年、初代が、太宰の軽蔑していた画家と不義をおかし、水上温泉で 2 人で自殺をしようとし、失敗する。そこで別れた。太宰は書く。「私は、故郷の家の大きさに、はにかんでいたのだ。金持ちの子というハンデキャップに、やけくそを起こしていたのだ。不当に恵まれているという、いやな恐怖感が、幼児から、私を卑屈にし、厭世的にしていた。金持ちの子どもは金持ちの子供らしく大地獄に落ちなければならぬという信仰を持っていた。逃げるのは卑怯だ。立派に、悪業の子として死にたいと努めた。」（「東京八景」）井伏は書く、「太宰君には、有名ということは、通俗で一種のうそなのである。」「おしゃれはするが、おしゃれだと思われることが照れくさいのである。」（井伏「あとがき」岩波文庫版）

昭和 13 年、本気に文筆生活を志願した。そして「姥捨」を書く。甲州へ行った。昭和 14 年、石原美知子と見合い結婚をし、甲府に住んだ。以後、順調な作家活動をする。そして東京へ戻った。昭和 16 年、長女が生まれる。太平洋戦争が始まった。彼は、そこで書く、「指導者は全部、無学であった。」（「苦悩の年鑑」）。だが内閣情報局と文学報国会の依頼をされる。そして魯迅を研究する。昭和 17 年、『花火』（＝『日の出前』）を全文削除をする。母が死んだ。昭和 19 年、長男が生まれた。そして再び甲府へ行く、ここで 2 度戦災に会った。昭和 20 年 7 月に、故郷津軽へ戻った。敗戦、無条件降伏を迎え、「私はただ恥ずかしかった。」「私は天皇を好きである。」と、保守派を宣言した。

昭和 21 年に、「苦悩の年鑑」を出す。そこで、すべての主義を否定した。いわく、「全く新しい思潮の台頭を待望する。それを言い出すには、何よりもまず、「勇気」を要する。私のいま夢想する境涯は、フランスのモラリストたちの感覚を基調とし、その倫理の儀表を天皇に置き、我らの生活は自給自足のアナキズム風の桃源である。」（「苦悩の年鑑」）

昭和 22 年、次女が生まれる。そして太田静子と知り、山崎富栄と会う。太田治子が生まれる。名作、『斜陽』を発表する。昭和 23 年、『人間失格』を 3 月から 5 月にかけて執筆し、7 月、筑摩書房から出版した。6 月 13 日、山崎と玉川上水に入水した。「グッド・バイ」は、未完・絶筆である。

彼には自伝的作品がある（「思い出」、「苦悩の年鑑」、「一五年間」、「東京八景」など）。

太宰には、潜在的二人称文体、あるいは一人称文を使ったものがあり、これが訴える力をもった。例えば、「人間失格」、「斜陽」、「ヴィヨンの妻」、「女生徒」、「駆け込み訴え」、「きりぎりす」、「饗応夫人」などである。彼の意識は、選ばれた人間・搾取している側にある。後ろめたさ・六男・余計者・オズクズ

・日陰者というもので、罪の意識（心中の相手を死なせた、同志を裏切った）を持ち、負の十字架、つまり「生まれてきてすみません」という意識がある。愛の能力不足（河盛）だったとも言われる。太宰には自殺癖（4回未遂）があり、やけ酒を飲み、私小説作家だった。女性心理分析がうまかった。サロン芸術、エゴイズム・偽善を否定した（「一五年間」）。

ベネディクト『菊と刀』

アメリカの女性社会学者ルース・ベネディクトは、『菊と刀』1946年（訳、教養文庫）を出版した。これは戦前・戦中の日本社会分析である。彼女は日本に留学をしたことがなかった。だがこれだけの深い観察をしたのは、日本人捕虜からの聞き取りをしたからである。

日本の文化は恥の文化であり、ヨーロッパの文化は罪の文化であるとする。そして日本人の精神構造、子供の教育、社会その他、幅広い考察を加えた。戦争中にこのような研究を敵国について行えたのは、当時のアメリカの力量を示している。

極東軍事裁判

1946年5月から、東京裁判＝極東裁判が行われた。28人の被告＝戦犯のうち7人が絞首刑となった。そして天皇が免罪された。だが数年後、A級戦犯が社会に復帰し、その後、高い地位につくのであった。

さて、天皇の戦争責任は、世界政治、つまりアメリカとソ連の政治力学、および戦後のアメリカによる日本改革の動きによって決まった。アメリカは、天皇を利用し、免罪した。ソ連を牽制するアメリカは、戦後世界支配を狙った。日本を対ソ連の砦にしようとした。そして日本国民の政治的後進性を利用した。

天皇の免罪は、占領軍最高司令官マッカーサー元帥の判断であった。もちろん彼は、トルーマン米大統領の了承をとった。マ元帥は、天皇を日本の改革のための協力者と見なした。天皇を戦犯としたなら、日本人民がアメリカ占領政策に反抗する、と予想した。

裁判では、キーナン検事（米）は免罪の立場に立った。彼は、ト大統領に言い含められた。裁判長ウェブ（オーストラリア）、カー（英）らは、天皇戦犯説であった。結局多数決で、天皇の戦争責任はない、とされた。裁判中、東条元首相は、「力の及ぶ限り天皇をかばう」と言った。

最高権力にある天皇が免罪されるには、天皇は軍部のロボットだったという説による以外はない。この論は、極東裁判から発生した。こうして敗戦後、天皇制を温存するため、裕仁天皇ロボット伝説が作られた。しかし「神聖にして冒すべからず」（明治憲法第三条）とされ、政治的には絶対権力を握っていた天皇は、戦争の最高指導者・責任者であった。これを否定する人は天皇の力量を侮辱することになる。昭和天皇裕仁（ひろひと）は、戦前の日本で最大の人物で最高の権力者であった。昭和天皇の真の姿は戦後分かってくる。

天皇が処罰されなかったので、戦後日本人の政治意識は無責任となった。その上、日本は第1次大戦に勝ち、第2次大戦に負け、1度しか反省しなかったので、政治的反省が不十分であった。

天皇は戦争犯罪人にならなかった。彼は、世界では、ヒトラー、ムソリーニと並び称されていた。ヒトラーは自殺し、ムソリーニは殺されたのに、日本の天皇だけは自分の命ばかりか天皇制も守りきった。

戦後日本の社会と思想。戦争直後

日本は、戦後（戦争の直後から現在まで）の前半期は貧乏であったが、高度経済成長が終わったころを画期として、後半期は「豊か」になって、うぬぼれた。

謀略事件

占領下の労働運動が発展する中で、奇妙な事件が相次いだ。1949年、国鉄の下山総裁の死体が発見され、三鷹駅で無人電車が暴走し、1949年に、東北線松川駅付近で列車転覆事件が起きた。すべて犯人は、国鉄労働組合と共産党員のせいにされた。これらの事件によって労働運動弾圧と大量首切りが容易に行なわれ、占領軍には非常に好都合に進んだ。これらは占領軍の謀略の疑いが濃い。作家広津和郎は、創作の筆を投げうってまでも調査し、『松川事件』を書いた。これは、ドレフュス事件に対するゾラの活躍に匹敵する。

北海道では白鳥警部射殺事件がおき、北海道共産党委員長・村上が逮捕され、後に無実だと分かった。

東京の帝国銀行椎名町支店で、銀行員の大量毒殺事件が起きた。毒殺犯人は七三一部隊の関連者とされ、警察は追った。だが、占領軍から方針の変更を余儀なくされた。困った警察は、小樽の画家・平沢貞通を捕まえ、自白により死刑囚にデッチ挙げた。

20世紀の技術

1908年にフォードが自動車大量生産システムを作っていた。1920年代はアメリカの大量消費時代の開幕であった。20世紀は自動車の世紀でもあった。また20世紀は、電気、電信、飛行機、機関銃、戦車の時代を切り開いた。家庭電化製品が売れ、アメリカがそれを代表した。これは、すぐ後におきる大恐慌の原因になるのだが、一方で、第2次大戦後のアメリカの繁栄のさきがけであった。

1931年に、発明王トマス・エジソンが亡くなった。彼は、アメリカ資本主義のいい面、アメリカ社会の健全な面を代表する人物であった。エジソンは、生涯、人類の便利さのために日々活躍した。彼は千数百の発明をし、特許を取った。だが彼の正当な努力は、相当部分が、アメリカの諸財閥に収奪された。

19世紀が蝋燭の時代であったとすれば、20世紀は電灯の時代となった。エジソ

ンの白熱電灯の発明は、電灯時代のきっかけとなった。これは人類の生活時間の観念と生活様式を変えた。文化時間は短縮した。だが人間殺傷能力が増大した。また 20 世紀半ばには、人類の不幸の刃・原子力を握ることになる。

結論的考察

20 世紀は、社会主義の実験と衰退の時代であった。第 1 次世界戦争でヨーロッパが衰退してから、第 2 次大戦後、アメリカとソ連が世界政治の中心となった。大戦直後から 1991 年のソ連崩壊まで、冷戦が続いた。その間、20 世紀の主役であったアメリカが、ベトナム戦争から衰退を始めた。

20 世紀は、石油と電機と自動車の時代であった。アメリカを初めとして、大衆社会がやってきた。大量消費、大量生産、大衆文化、大都会の時代となった。情報化社会がやってきた。アメリカは 20 世紀の最初から、世界の経済大国になっていた。そして第 1 次大戦で焼け太り、第 2 次大戦で、アメリカは超大国になった。それが揺らぎ始めたのである。

帝国主義の世界体制が、ロシア革命と第 1 次大戦の終了によって、部分的に壊れた。中欧列強の多くは民主共和国になった。だが勝利した先進国は帝国主義のままであった。その後、中進国でファシズムが、ソ連でスターリン主義が登場した。これらの現象は、これらの国が中進国であったからである。

第 2 次大戦によって、結局ファシズムが倒れ、しかしスターリン主義は残った。戦後は新帝国主義アメリカの時代になったが、同時に核の時代が始まった。その後スターリン主義は、フルシチョフとゴルバチョフによって少し改良され、さらにかなり改造されそうである。特に東欧では 1989 年以来改善の方向に向かっている。一方で戦後、アメリカが弱体化した。今は地球では環境破壊が進んでいる。その 1 原因は原発である。

社会主義対資本主義の問題は、20 世紀の最大問題とされてきた。しかしそれ以上に、民主主義の問題が大切である。どちらの体制であっても、民主主義が保障されないかぎり、それは民衆にとって好ましい体制ではない。したがって資本主義を民主主義的に変革する必要と社会主義を民主主義的に変革する必要がある。

民主的な代議制度がない国は、結局うまく行かない。議会には衆愚政治の危険はあるし、その理由で否定する者もいる。しかし議会がなければ独裁になるのだから、これより他に道がない。現存の社会主義国にはこの議会がいままで事実上なかった。これがソ連と東欧で、かなり回復されようとしている。中国のように遅れた社会主義国は、当分無議会が続くようである。

社会主義体制は地球の半分をしめている。そこで真面目に考えておかねばならない。戦争によって社会主義が生まれた。社会主義は中・後進国で実現した。だから社会主義を回避したいならば、戦争やそれに準ずる事態を作らず、また民主主義を実質的に実行する他はない。さて一方、社会主義ではインフレ・失業がない

という教科書の説明が、現在では間違ってきた。社会主義はまた、教科書通りでなく、戦争をしかける場合もある。

20世紀以降に生きる人々は、残念ながら1つの真実を認めざるをえない。社会主義は、革命後数年にして変質することである。政権党自体が変化する。つまり野党の時代と1党支配の政権党とは本質的に違うのである。そもそも社会主義の政権党は本来永続革命を続けねばならない。しかし政権党であることにおごって、それを怠る。そしてノーメンクラトゥーラつまり新しい支配階級が生まれる。かれらは革命グループではなく官僚グループとなるのである。この新しい支配階級は真の社会主義を実現する力がなかったことがわかった。つまりマルクスが予想もしなかったことである。ノーメンクラトゥーラとその政権を制限する道は、真の民主主義である。少なくとも民主的議会が必要である。真の社会主義を達成する道は、社会主義内の新しい支配階級を否定すること以外にない。こうして、今まで述べて、用語として使った「社会主義」は、厳密に言うと社会主義ではない。むしろ社会官僚主義といえる独特の体制である。資本主義でも社会主義でもないものである。

先進資本主義国が社会主義になる可能性は少ない。資本主義は民主主義的な変革をすることによって社会主義革命を避けることが出来る。しかしこれに成功しない場合は、社会主義勢力に政権を奪われることも十分ありうる。従って、どちらが自由と民主主義を本当に実行できるかが、勝負となる。

また先進資本主義国は2つのタイプに区分する必要がある、ひとからげに考えてはならない。一方ではヨーロッパであり、他方はアメリカや日本である。ヨーロッパでは非共産党的労働者党・社会民主党が政権を握り、あるいは握れる。日・米では難しい。そしてヨーロッパでは福祉国家の道を歩んでいる。日・米では歩めない。

また、先進国では情報革命と脱工業化が進むであろう。

後進国の問題について。ここで後進・先進という言葉を使うのは暫定的であり、本来これは冒涇である。さて後進国の状態は絶望的である。先進諸国に支配されている現実を無視したとしても、爆発的人口増加のために農村は疲弊し、洪水と干ばつの危険に襲われ、都市はスラム化している。この問題は世界政府を作らなければ解決できない。

戦争の可能性については、世界大戦が起きる可能性は少ない。その代わり、局地戦争が起きるし、今も起きている。世界大戦が起きたら、それは核戦争になる。核戦争は正常の場合では起こりにくい、むしろ過ちによって起きる可能性が大きい。またそれ以上に原子力発電の事故がもっと大きな危険であり、これも過ちから起きる。技術が完璧ではないからである。実際それより大きい危険は、原子炉から今も出続けている放射能汚染物の処理である。この技術が作られていない。原子力が人類の厄災となっている。

原子力に代わるエネルギーの開発が急務である。そのために第1に無駄と浪費の廃止が必要である。主に軍事、軍事演習などでエネルギーが世界的に無駄に浪費されている。第2に、効率のよい技術、現存エネルギーに代わるもの、太陽、風力、

潮の技術が開発されねばならない。膨大な生産と膨大な消費を考えるのではなく、生産と消費の効率化—少ないエネルギーで多くの効果を生む技術開発—を考えないと、少なくとも人類の環境悪化となつてはねかえてくる。

死の灰・放射能汚染物にたいする闘いが、人類の新しい戦争となっている。核によって人類が滅亡するかもしれない。もしそうであったら、人類の知恵・理性と、危険との競争である。世界環境の悪化によって人類が生きて行けなくなるかも知れない。

正直者が損をしない社会を作らねばならないし、経済的利潤だけを追い求めてはられない。それどころか世界が協力しあって、人類の破滅を防ぐ方策を探す時代となっている。

20世紀の大事件

2000年に、20世紀の大事件を、ある放送局が日本人からアンケートをした。それらは、1位から20位まで、次であった。（括弧内は、年号そして説明）日本人へのアンケートであるから、日本的である。

- 1、太平洋戦争。
- 2、原爆が落とされたこと。
- 3、アポロ 11号の月面着陸（1969.7.20）。
- 4、日露戦争。
- 5、第二次大戦。
- 6、第一次大戦（6300万人が戦う）。
- 7、ベルリンの壁崩壊（1989.1.9）そしてドイツ統一（1990）。
- 8、阪神大震災（1995.1.17. 震度 7, 6400人の死者、25万家族の被災が発生した）。
- 9、ロシア革命。
- 10、NY株価暴落（1929.10.24）
- 11。関東大震災（1923.9.1, M7・9）
- 12。東京オリンピック＝アジア初（1964）
- 13。ソ連消滅。
- 14。日本国憲法（1946.11.3 公布）
- 15。朝鮮戦争。
- 16、サリン事件（1995）。
- 17、ライト兄弟の飛行機（1903）。
- 18、二・二六事件。
- 19、バブル崩壊（1990 株価下落, 1991 地価下落）。
- 20、満州事変。

年 表

- 1945 日本、連合軍総司令官マッカーサーの独裁。
11 カ国極東委員会、5 カ国の連合軍対日理事会が、形だけできたが。
- 1948-49 スターリンの東欧大粛清
- 1949・10・1 中華人民共和国成立
- 1949 アメリカの援助打ち切りで、蔣敗北。
49 年末 国民党政府、台湾へ。
- 1949 西ドイツ憲法、連邦議会、大統領ホイス、首相アデナウアー
49 NATO 成立 12 カ国 軍政～民政
5 月 西ベルリン封鎖解除
- 1949 トルーマン、ポイント・フォア・プログラム。後進国援助。
しかし 50 年代初めに、大部分が朝鮮・台湾・ヴェトナム・トルコ
への軍事援助
- 1950 チトー、労働者自主管理基本法案、ソ連批判「ソ連は労働者
に管理をひきわたそうとしない」。
2 月 中ソ友好同盟相互援助条約。
- 1950・6・25-1953 朝鮮戦争。
これまで朝鮮独立はカイロ宣言で決まっていた。1945 年モスクワで、米・
英・ソ外相会議で、統一政府樹立話合いが着かず、国連へ持ち込む、朝鮮
委員 会が接地され、北朝鮮は非協力。48 年 8 月に選挙、李承晩の大韓民国
ができ る。北は、9 月 9 日、朝鮮民主主義人民共和国を樹立。
6 月 北が入ったの報でアメリカ軍事介入。北、緒戦勝利。アメリカ・国連軍
北 上。中共軍介入。
- 1950・7 月 マッカーサー、吉田に警察予備隊を作れと。
- 1950-52 ソ連、世界で経済がやっと 2 位となる。
- 1951・9・8 サンフランシスコ。49 カ国とのあいだに講和条約、日米安全保障条約
- 1951 イギリス共産党、「社会主義へのイギリスの道」=党綱領発表
4 月 マッカーサー解任。
- 1952 アイゼンハワー当選。
7 月 朝鮮、休戦交渉進まず。
- 1952-56 チェコ、ロンドン事件。
- 1952 フランス、マルティニオン事件
1953. 3 月 スターリン死、
東ベルリン暴動、ポーランド暴動、ハンガリー暴動、ハンガリー、
ラーコシ内閣に代わってナジ内閣。
- 1953 カストロ、襲撃に失敗。
7 月 朝鮮休戦協定調印

- 1954 中国、第1次5か年計画
- 54 毛・フルシチョフ会談（北京）
- 54.7月 ヴェトナム、フランスと休戦協定、北緯17度線
北はヴェトナム民主共和国、南はヴェトナム共和国
- 9月 S E A T O 調印
- 54 中国憲法
- 1955 (西) パリ協定発効。主権、再軍備、N A T O 加盟、など。
ドイツ占領終わる。
- 1955 フルシチョフ、ユーゴ訪問、チトーと和解。
- 10月 中国、農業集団化開始。
- 1955 ハンガリー、ナジ(1953-)からラコシ内閣へ。ラコシ内閣は5
6まで
- 1956・2・14-25 ソ共、第20回党大会、非スターリン化、フルシチョフ秘密報告
(24-5)
- 4月 コミンフォルム解散
反ソ・ポーランド暴動 6月末ポズナニ労働者の反政府暴動
ポーランド政変 10・19-、ゴムルカ登場
ハンガリー動乱、7・18 ラコシ解任、10・24 ナジ内閣成立、
ゲレー第1書記、ソ連軍侵入、11月ソ連軍第2次侵入、
- 1956.10月23日-11月 ハンガリー動乱
ライク・ラースロー外相、セーニュイ、パールフィ、裁判。
- 11月 カダル政権成立。
- 56 伊・共、第8回大会、トリアッチ複数政党認める。
各国共産党の対等・平等、構造改革。
- 1957・11月 毛、訪ソ。
モスクワ宣言 [=社会主義諸国の共産党・労働者党の宣言]
12カ国の国際会議、22年ぶり、ソ連No. 1になる。
- 1959 ソ・共、第21回大会、最高指導権を放棄。
カストロ、ハバナ市入り。
中印国境問題でソ連「遺憾の意」。中ソ論争のきっかけ。
- 1960 ソ連 中国から技術者引き上げ。
- 1960 共産党国際会議、「モスクワ声明」=共産党・労働者党代表者会議の
声 明、ソの指導性。
南ヴェトナム民族解放戦線成立。フランス統一社会党創立。
キューバ、国有化。日本、安保闘争。
- 1961 ソ連共、第22回大会、中ソ論争はじまる。
- 1962 キューバ危機。
- 1965 米、北爆、ヴェトナム。中国、文化大革命。

- ミッテラン大統領に立候補。
- 1966 シニャフスキー＝ダニエル事件。
- 1967 ヨーロッパ共産党世界大会。
1968. 1月 ノヴォトニー大統領・第1書記はドブチェクに。
- 3月 スヴォヴォダ大統領に。労働者評議会の力強まる、私的部門発展。
複数政党的発展、テクノクラト・知識人・労働者の3者同盟
- 68 ソ連、チェコに軍事介入。伊、スペイン、日の共産党これを非難
- 5月 フランス学生革命。
- 69 アスカラーテ報告（スペイン）、東欧型を否定。
- 1970 チリ、アジェンデの人民連合政権。
ポーランド蜂起、経済要求。ゴムルカ倒れる、ギエレク登場、
- 71 フランス社会党（新）
- 72 ロンゴに代わり、ベルリンゲル書記長に。
- 73 チリ、軍事クーデタ。ベルリンゲルの「歴史的妥協論」。チリの直後。
ファシスト党を除き、すべての党を含めた国民的連合政権。
- 7月、 イタリア、キリスト教民主党と社会党政権。
- 1974・4月 リスボン軍事クーデタ。
- 74 ソルジェニツィーン、追放。
- 1975 フランコ死。イタリア共産党14回大会。
- 10月 ソ連・東独友好条約。制限主権論、ドイツ統一消える。
- 11月 ヨーロッパ共産党準備会議（東ベルリン）。
- 11月 伊・スペイン共産党、共同行動宣言、＝ポルトガル共産党批判、歴史的
妥協路線。
- 11月 ベルリンゲルとマルシェ、共同行動宣言。
伊共産党、選挙で単独で3分の1。自由、複数政党、政権交代。
- 1976 フランス共産党22回大会、プロ独を放棄。ソ連共産党25回大会
- 6月 全ヨーロッパ共産党会議（東ベルリン）。
ポーランド反乱。
- 1979年 スリーマイル島原子炉事故。
- 1980 ポーランドの夏。
- 1981(昭和56)11月 ロッキード事件、小佐野被告に判決。
- 1981年1月 レーガン、米大統領に。
- 1982(昭和57)1月 ロッキード事件、全日空ルート判決。
- 11月 中曽根内閣成立
- 1982年6月 フォークランド戦争終る。
- 1983(昭和58)1月 ロッキード裁判、元田中首相に判決。
- 1983年8月 レバノンで停戦協定。
- 1984年9月 全斗かん韓国大統領、来日。

- 11月 レーガン大統領再選。
- 1985(昭和 60)3月 ゴルバチョフ、ソ連書記長に選ばれる。
- 4月 電電公社が日本電信電話株式会社（NTT）、専売公社が日本たばこ産業株式会社として、民間企業になる。
- 1986(昭 61)1月 米のスペース・シャトル、チャレンジャーが打上げ直後に爆発
- 2月 フィリピンのマルコス政権倒れ、アキノ大統領が組閣。
- 4月 男女雇用機会均等法が施行。
- 9月 社会党、土井たか子、委員長になる。
- 1986年4月26日午前1時23分、チェルノヴィリ事故。
- 12月 87年度政府予算で、防衛費がGNP1%を超えることになった。
- 1987(昭和 62)1月 日本の1986年の貿易黒字が827億ドルで、過去最高になった。
- 3月 全国で売上税反発が高まる。
- 4月 国鉄が分割民営化され、6つの旅客会社と、清算事業団になる。
- 1987年3月 全国で売上税反発が高まる。1ドルがはじめて130円台になる。
- 1988年2月 87年10月に南極上空のオゾン層の減少が過去最大となった、
- 3月 青函トンネル開通、世界最長。
- 1989(昭和 64)1月 昭和天皇が亡くなり、昭和から平成へ。
- 6月 北京の天安門事件。
- 7月 参議院選挙で自民党が過半数を割る。
- 11月 東欧変革始まる。「ベルリンの壁」撤廃。
- 1989年1月 アメリカ、新大統領にブッシュ、就任。
- 4月 日本、消費税スタート。
- ？ イランのホメイニ師が亡くなる。
- 1993 ヨーロッパ共同体、。
- 1993 クリントン大統領。

- 1946 アメリカ雇用法
- 1946 ヴェトナム民主共和国、フランスの攻撃
- 1946 ハンガリー、共和国宣言
- 1946・1月から5・3 東京裁判
- 46・3・5 訪米中チャーチルの演説、「鉄のカーテン」
- 46年12月 ドイツの米英占領地域、経済統合

ドイツ、非ナチ化 1946年末まで100万人が官財界から追放
 (アメリカは、原爆所有で優位、経済力は世界の半分の富をもつ。ヨーロッパが没落する))

- 1947・6月 マーシャル(国務長官)・プラン構想、東西分離

- 1947, 9月 コミンフォルム [共産党情報局] 創立
- 1947・3・2 トルーマン演説。全体主義に対抗するアメリカの援助
- 7月 パリ、ヨーロッパ経済復興会議
- 7月 モロトフ・プラン、=東欧復興計画
1947. 9月 コミンフォルム結成、ソ、仏、伊、チェコ、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリア、ポーランド、ユーゴ、9カ国
- 10月5日 ワルシャワで9カ国共産党、コムンフォルム設置。
東欧、ソ、仏、伊
- 1948 ボンに西ドイツ議会。通貨分裂、東西
- 1948 西ドイツ通貨改革
- 2月 チェコ、クーデタ、ゴットワルト首相の共産党、各派連立内閣の乗っ取り。西欧、ソ連への不信決定的
- 3月 フランス、ベネルックスで西欧連合条約（ブリュッセル）、後のN A T O
- 3月 「ガット」
- 6月 ソ連の西ベルリン封鎖（49年5月まで）
米・英・仏・占領地に独自ドイツ政府をたてようとした。
ソ連、西ベルリンへの路、遮断。西側空輸のみ。
- 6月 コミンフォルム第2会大会、ユーゴ除名。コムンフォルムのユーゴ非難、チトー、スターリンの言うこと聞かず。以後、スターリン、東欧の
粛清開始。
ハンガリー、ライク・ラースロー外相、チェコ、スランスキー書記長、ブルガリア、クレメンティス外相、ユストフ、そしてアルバニア、ルーマニアの指導者、を処刑。ポーランド、ゴムルカ、チェコ、フサーク、ハンガリー、カダルを、投獄。
ポーランド統一労働者党、チェコ社会主義化。
- 48-49 スターリンの東欧大粛清
- 1948年2月 チェコ、クーデタ
- 3月 ガット「関税および貿易にかんする一般協定」
- 6月 コミンフォルムからユーゴ除名。
- 6月～49・5月まで ソ連ベルリン封鎖
- 1949 トルーマン、ポイント・フォア・プログラム。後進国援助。
しかし50年代初めに、大部分が朝鮮・台湾・ヴェトナム・トルコへの軍事援助
- 1949 西ドイツ憲法、連邦議会、大統領ホイス、首相アデナウアー
- 4月 N A T O成立、12カ国。 軍政～民政
- 5月 西ベルリン封鎖解除

(東ドイツ) ソ連の軍政下。土地改革に成功、100ha以上は没収、ユンカー階級消える。

1949年8月 総選挙 9月ドイツ連邦共和国

5月 総選挙 10月ドイツ民主共和国

1949 (東)憲法、DDR成立。大統領ベーク、首相グローテヴォール

1949 コメコン=経済相互援助会議

1949 中国革命

1950 チトー、労働者自主管理基本法案、ソ連批判「ソ連は労働者に管理をひきわたそうとしない」。

2月 中ソ友好同盟相互援助条約

50・6・25-53 朝鮮戦争

これまで朝鮮独立はカイロ宣言で決まっていた。1945年モスクワで、米・英・ソ外相会議で、統一政府樹立話合いが着かず、国連へ持ち込む、朝鮮委員会が接地され、北朝鮮は非協力。48年8月に選挙、李承晩の大韓民国ができる。北は、9月9日、朝鮮民主主義人民共和国を樹立。

6月 北が入ったの報でアメリカ軍事介入。北、緒戦勝利。アメリカ・国連軍北上。中共軍介入。

50・7月 マッカーサー、吉田に警察予備隊を作れと。

47・8・15 インド連邦とパキスタン独立

1947年 カシミール暴動 ヒンズーとイスラム

イギリス、インドから撤退

ガンジー復活

インド分離独立 ジンナー パキスタン建国

ネルー、インド首相 ガンジー、宗教的融和の旅 1500万人の難民

ラーダクリシュナン

1948年1月 ガンジー暗殺

アジア)

1940年 ヴェトナム独立同盟、ホーチミン

1942 第3回反英非協力運動 ほとんど革命

1944 北ヴェトナム、抗日ゲリラ戦 ボー・グエン・ザップ

1945 アトリー、インド独立の約束

1945・8・17 オランダ領インドネシア、スカルノらの独立宣言

45・9・1 ヴェトナム民主共和国、ホーチミン大統領

1946・7・4 米領フィリピン、アメリカから独立

46・10月~54 フランスが攻撃(旧フランス領インドシナ)

1948・1月 ビルマ、イギリスから独立。タキン・ヌー首相

- 48年3月 セイロン、イギリスから独立
- 1949・10・1 中華人民共和国成立
- 49・11月 ハーグで、インドネシア共和国承認
- 49年末 国民党政府、台湾へ。
-
- 1945.5・8 ドイツ降伏
- 6・26 国連憲章調印
- 7・16 原爆実験成功。米、ニューメキシコ州アラモードの砂漠
- 7～8月 ポツダム会談。トルーマン、スタ、チャ（保守）すぐ代
ってアトリー（労働党）
- 1945・8・2 ポツダム協定 ドイツの連合管理理事会（ベルリン）
ドイツ占領地を、ソ連、ポーランド、フランスに返す。ドイツを4国に分割
統治す。英・西北、米・南、仏・西南、ソ連・東、ベルリンは4国共同管理。
ソ連占領地は、徹底的非ナチ化、土地改革、工業撤去、社会主義政策
アメリカ占領地は、経済復興、ドイツ人政府。
非ナチ化 1946年末まで100万人が官財界から追放。 「第3の男」
- 45・8・6 広島
- 8・9 ソ連対日宣戦
- 8・9 長崎
- 8・15 日本降伏 WW2終わる
- （朝鮮国境にソ連せまる、アメリカあわてて38度線をつくる、ソ連が朝鮮全面占
領 するのを妨げるため、ソ連、朝鮮侵入開始、38度線でとまる。）
（日本、連合軍総司令官マッカーサーの独裁。
11カ国極東委員会、5カ国の連合軍対日理事会が、形だけできたが。）
- 10月 ハンガリー総選挙
- 10・24 国連発足
- 45・11・20～46・10・1 ニュルンベルグ裁判、主犯24人
- 1946・1月から5・3 東京裁判
- 1946 アメリカ雇用法、ヴェトナム民主共和国、フランスの攻撃
ハンガリー、共和国宣言
- 46・3・5 訪米中チャーチルの演説、「鉄のカーテン」
- 46年12月 ドイツの米英占領地域、経済統合
- ドイツ、非ナチ化 1946年末まで100万人が官財界から追放
（アメリカは、原爆所有で優位、経済力は世界の半分の富をもつ。ヨーロッ
パ が没落する）
- 1947・3・2 トルーマン演説。全体主義に対抗するアメリカの援助
- 6月 マーシャル（国務長官）・プラン構想、東西分離
- 7月 パリ、ヨーロッパ経済復興会議

- 7月 モロトフ・プラン、＝東欧復興計画
- 9月 コミンフォルム結成、ソ、仏、伊、チェコ、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリア、ポーランド、ユーゴ、9カ国
- 10月5日 ワルシャワで9カ国共産党、コミンフォルム設置。東欧、ソ、仏、伊
- 1948 2月 ボンに西ドイツ議会。通貨分裂、東西。西ドイツ通貨改革
- 2月 チェコ、クーデタ、ゴットワルト首相の共産党、各派連立内閣の乗っ取り。西欧、ソ連への不信決定的
- 3月 フランス、ベネルックスで西欧連合条約（ブリュッセル）、後のNATO
- 3月 ガット「関税および貿易にかんする一般協定」
- 6月 ソ連の西ベルリン封鎖（49年5月まで）
米・英・仏・占領地に独自ドイツ政府をたてようとした。
ソ連、西ベルリンへの路、遮断。西側空輸のみ。
- 6月 コミンフォルム第2会大会、ユーゴ除名。コミンフォルムのユーゴ非難、チトー、スターリンの言うこと聞かず。以後、スターリン、東欧の粛清開始。
ハンガリー、ライク・ラースロー外相、チェコ、スランスキー書記長、ブルガリア、クレメンティス外相、ユストフ、そしてアルバニア、ルーマニアの指導者、を処刑。ポーランド、ゴムルカ、チェコ、フサーク、ハンガリー、カダルを、投獄。
ポーランド統一労働者党、チェコ社会主義化。
- (東ドイツ) ソ連の軍政下。土地改革に成功、100 ha以上は没収、ユンカー階級消える。
- 1949年 5月 総選挙 10月ドイツ民主共和国
- 8月 総選挙 9月ドイツ連邦共和国
- (東) 憲法、DDR成立。大統領ピーク、首相グローテヴォール
コメコン＝経済相互援助会議

人名

シドニー・ウエップ (1858－1947)

石川啄木

マックス・ウェーバー Max Weber, 1864－1920

アインシュタイン

ジョージ・オーウェル George Orwell (1903－1950)

マックス・アドラー

カール・カウツキー (1854－1938)

幸徳秋水

グラムシ Gramsci (1891.1.23 -)

エレン・ケイ 1849-1926
ソニア・コヴァレフスカヤ
ジョージ・バーナード・ショウ (1856-1950) 、
スターリン 1953
ジョン・スタインベック John Steinbeck, 1902-
ソシュール Ferdinand Saussure, 1857-1913
ツェトキーン Zetkin, 1857-1933
Charles Chaplin 1889-
トルストイ Лев Николаевич Толстой, 1828-1910
サン＝テグジュペリ Antoine de Saint-Exupery
トカチョーフ
トロツキー
永井荷風
ルードルフ・ヒルファディング
ホブソン J. A. Hobson, 1858-1940
ブレハーノフ 1856-1918
オットー・バウアー
ブハーリン
パルヴス
ベルフォルト・バックス
ジークムント・フロイト Sigmund Freud 1858-1939
ベーベル (1840-1913)
エドゥアルト・ベルンシュタイン
マルクス
マルトフ
ローザ・ルクセンブルグ
レーニン Uladimir Ilyich Ulyyanov (1870-1924)
ロマン・ロラン Romain Roland 1866-1944
カール・リープクネヒト Karl Liebknecht. 1871-1919
カール・レンナー
ロマン・ロラン Romain Roland 1866-1944
ハロルド・J・ラスキ

ビスマルク
ヒトラー
イーデン Eden, Robert Anthony 1935-38 外相 保守党
チェンバレン Chamberlain, Arthur Neville 37-40 首相 保守党
チャーチル Churchill, Winston

ハリファクス	Halifax, Lord Edward F.	38-40	外相
ブルム	Blum, Le'on	36-7, 8	人民戦線首相 社会党
ベック	Beck, Joseph		ポーランド外相 33-39
ベネシュ	Benes V, Edward		大統領チェコ 35-38
ホーア	Hoore, Sie Samuel		外相 英 35
ボールドウィン	Baldwin, Stanley		首相 23-4, 24-29, 35-37
マクドナルド	MacDonald, James Ramsey		首相 労働党 24, 29-31, 31-35
モロトフ	Molotov, V. M.	39-57	外務人民委員
ラヴァル	Laval, Pierre	34-36	外相
リップントロプ	Ribbentrop, Joachim	38-45	外相
リトヴィノフ	Litvinov, M.N	30-39	外務人民委員
ローズヴェルト	Roosevelt, Franklin Delano	33-45	大統領

1991年初版、第2版1994年2月、第3版改題1994年7月

第3部 文献一部分

アインシュタイン『晩年に想う』

ジョージ・オーウェル『1984年』

イヴァン・イリイチ『脱病院化社会』『ジェンダー』『シャドウ・ワーク』

サミール・アミン『世界的規模での資本蓄積』3部作

映画「アルジェの闘い」

アルチュセール『資本論を読む』

ヴォスレンスキー『ノーメンクラトゥーラ』

グレアム・グリーン『第三の男』（早川書房）

カミュ『異邦人』

ルネ・クレマン監督、映画「禁じられた遊び」

レイチェル・カーソン『沈黙の春』1962

アルフレッド・キンゼイ「男性の性行為」「女性の性行為」

ケヴィン・コスナー、映画『J. F. K. 』。

アガサ・クリスティ

M・ゴルバチョフ『ペレストロイカ』講談社 1989

チェ・ゲバラ『ゲリラ戦』『もっと多くのヴェトナムを』『革命回想』

『金日成選集』

スターリン『全集』大月書店；『ソ同盟における社会主義の経済的諸問題』

スイージャー

サルトル『嘔吐』（人文書院）『サルトル全集』人文書院。

『スカルノ自伝』
アレクサンドル・ソルジェニーツィン『イワン・デニーソヴィッチの一日』ノ
ーベル文学賞；『収容所群島』（新潮社、全6巻本、新潮文庫版もあり）
ミロヴァン・ジラス「新しい階級」
クロード・レヴィ・ストロース『悲しき熱帯』『構造人類学』『野性の思考』
『親族の基本構造』
シャイラー『第三帝国の興亡』5巻 創元社

チャーチル『第二次大戦回顧録』
ドイッチャー『スターリン』みすず書房。
トロツキー『スターリン』合同出版
アイザック・ドイッチャー『トロツキー 3部作』新評論
チョムスキー
ドップ
アルビン・トフラー『第三の波』
トインビー『歴史の研究』
コレット・ダウリング『シンデレラ・コンプレックス』三笠書房 全訳版。
都築忠七「エレノア・マルクス」
チャールズ・チャップリン主演 映画「独裁者」
F. ノイマン『ビヒモス』みすず書房
パーソンズ
パステルナーク『ドクトル・ジバゴ』
ブハーリン『史的唯物論』青木；『帝国主義と世界経済』
ブレオブラジェンスキー『新しい経済』
ハーバマス『コミュニケーション的理論の行動』
フーコー、ミシェル『監獄の誕生』『言葉と物』『性の歴史』『狂気の歴史』
アレックス・ヘイリー『マルコムX自伝』河出書房
フリーダン『新しい女性の創造』
ビートルズ／プレスリー
フェスト『ヒトラー』
フルシチョフ「スターリン批判」講談社学術文庫；「フルシチョフ回想録」
ヒューバーマン、スウィーギー『キューバ』岩波新書
ポランニー『人間の経済』
フィッシャー『世界帝国への道』
本多『戦場の村』朝日新聞社 1968年
バーチェット『ベトナム解放の戦い』時事通信社 1976年
チャールズ・フェン『ホー・チ・ミン伝』上・下 岩波新書
ボーヴォアール『第2の性』新潮文庫

フランクフルト『夜と霧』みすず
マートン『社会理論と社会構造』1949
映画『真昼の決闘』
マリノフスキー「西太平洋の遠洋航海者」
ロイ・メドヴェージェフ『共産主義とは何か』三一書房
マンデル『後期資本主義』
1964年 『毛沢東語録』
『毛沢東の私生活』上・下 文芸春秋
ホーチミン Ho Chi Minh, 1890-1969
伝記 チャールズ・フェン『ホー・チ・ミン伝』上・下 岩波新書
マルチネ『五つの共産主義』上下 岩波 1972
フェイト『スターリン以後の東欧』岩波 1978
笹本・加藤編『東欧の動乱』ドキュメント現代史 10、平凡社 1973
『戦車と自由ーチェコスロヴァキア事件資料集』1、2巻 みすず書房 1968
今岡十一郎『ハンガリー革命』日洪文化協会 1958
ボッフア／マルチネ『スターリン主義を語る』岩波 197x
フルシチョフ秘密報告「スターリン批判」講談社学術文庫 1977
ロンドン『自白』
『フランス人民戦線史』新日本出版
トレーズ『フランス人民戦線』大月・国民文庫 1976
「トレーズ政治報告集」 未来社
「ド・ゴール大戦回顧録」 みすず
淡徳三郎 「レジスタンス」 新人物往来社
「ドキュメント現代史8 レジスタンス」 平凡社
海原峻 「フランス社会党小史」
NRFー『新フランス評論』

マサリックについて

チャペク『マサリックとの対話』（成文社）に描かれている。主著『ロシア思想史』。

エルンスト・フリードリッヒ編『戦争に反対する戦争』坪井、ダンジェン訳
編（龍溪書房 1998年）を見よ。傷い{漢字}軍人らの悲惨な姿がある。

Burton H. Klein, Germany's Economic Preparations for War, 1959.

アンネについて 伝記 ミュラー『アンネの伝記』文芸春秋。；シュナーベル『アンネのおもかげ』みすず書房。

エビータについて、バーンズ『エビータ』新潮文庫、など。

沢地久枝編で鶴の『全集』がでた。一叩人 編『鶴木杉全集』たいまつ社
；一叩人 編著『反戦川柳人・鶴木杉』たいまつ社 1978年。

豊下 檜彦「天皇は何を語ったか」（『世界』岩波書店）537号 1990年
2月；同「空白の戦後史」（同）538号 1990年3月。